

科目区分	総合文芸学科専門教育科目						
科目名	英語で読む文芸						
担当教員	白川 計子						
学期	通年／Full Year	曜日・時限	火曜3	配当学年	2～4	単位数	4.0
授業のテーマ	英米の文芸作品を味わう。						
授業の概要	前期はジェーン・オースティンの秀作『分別と多感』(Sense and Sensibility)を映像と易しい英語で楽しみます。ダッシュウッド家の姉妹はタイプが正反対。分別を重視する姉と、感情に素直で奔放な性格の妹。男性を愛することと、それによる心の痛みを経験するふたりですが、運命の相手にめぐりあい晴れて結ばれることはあるのでしょうか？ この小説を映画化した『いつか晴れた日に』(1995年)はアカデミー脚色賞受賞作。映画を楽しみながら、イギリスの19世紀の社会に触れ、イギリス英語にも触れてみましょう。後期の詳細は未定ですが、プリントで20世紀の英米詩、小説、文化などを紹介する予定です。						
到達目標	英米の文学に親しみ、英語を読む楽しさを体験することを目指す。						
授業計画	第1回：作品紹介と映画鑑賞 第2回：映画鑑賞と社会背景 第3回：『分別と多感』第1章 第4回：第2章 第5回：第3章 第6回：第4章 第7回：第5章 第8回：第5章と復習 第9回：第6章 第10回：第6章と復習 第11回：第7章前半 第12回：第7章後半 第13回：第7章と復習 第14回：復習とディスカッション 第15回：講義、19世紀英文学 第16回：20世紀英文学作品鑑賞 第17回：20世紀英文学作品鑑賞 第18回：20世紀英文学作品鑑賞 第19回：20世紀英文学作品鑑賞 第20回：20世紀英文学作品鑑賞 第21回：20世紀英文学作品鑑賞 第22回：20世紀英文学作品鑑賞 第23回：復習とまとめ 第24回：20世紀英文学作品鑑賞 第25回：20世紀英文学作品鑑賞 第26回：20世紀英文学作品鑑賞 第27回：20世紀英文学作品鑑賞 第28回：20世紀英文学作品鑑賞 第29回：復習とまとめ 第30回：講義、20世紀の英文学						
授業外における学習(準備学習の内容)	テキストの予習						
授業方法	講義と演習						
評価基準と評価方法	平常点50%、最終復習テスト50%						

教科書	Penguin Readers Level 3: Sense and Sensibility Author: Jane Austen (retold by Cherry Gilchrist) ISBN 9781405882033
参考書	

科目区分	総合文芸学科専門教育科目						
科目名	英語で読む文芸A						
担当教員	白川 計子						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	火曜3	配当学年	2~4	単位数	2.0
授業のテーマ	英米の文芸作品を味わう。						
授業の概要	ジェーン・オースティンの秀作『分別と多感』(Sense and Sensibility)を映像と易しい英語で楽しめます。ダッシュウッド家の姉妹はタイプが正反対。分別を重視する姉と、感情に素直で奔放な性格の妹。男性を愛すること、それによる心の痛みを経験するふたりですが、運命の相手にめぐりあい晴れて結ばれることはあるのでしょうか? この小説を映画化した『いつか晴れた日に』(1995年)はアカデミー脚色賞受賞作。映画を楽しみながら、イギリスの19世紀の社会に触れ、イギリス英語にも触れてみましょう。						
到達目標	英文学に親しみ、英語を読む楽しさを体験することを目指す。						
授業計画	第1回：作品紹介と映画鑑賞 第2回：映画鑑賞と社会背景 第3回：『分別と多感』第1章 第4回：第2章 第5回：第3章 第6回：第4章 第7回：第5章 第8回：第5章と復習 第9回：第6章 第10回：第6章と復習 第11回：第7章前半 第12回：第7章後半 第13回：第7章と復習 第14回：復習とディスカッション 第15回：講義：ジェーン・オースティン						
授業外における学習(準備学習の内容)	テキストの予習						
授業方法	講義と演習						
評価基準と評価方法	平常点50%、最終復習テスト50%						
教科書	Penguin Readers Level 3: Sense and Sensibility Author: Jane Austen (retold by Cherry Gilchrist) ISBN 9781405882033						
参考書							

科目区分	総合文芸学科専門教育科目						
科目名	英語で読む文芸B						
担当教員	白川 計子						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	火曜3	配当学年	2~4	単位数	2.0
授業のテーマ	英米の文芸作品を味わう。						
授業の概要	英米の文学作品、映画、文化を紹介する。						
到達目標	英語で表現された文芸作品を英語で理解することを目指す。						
授業計画	未定						
授業外における学習（準備学習の内容）	テキストの予習						
授業方法	講義と演習						
評価基準と評価方法	平常点50%、最終復習テスト50%						
教科書	未定						
参考書							

科目区分	総合文芸学科専門教育科目						
科目名	音楽入門						
担当教員	木本 雅子						
学期	通年／Full Year	曜日・時限	水曜1	配当学年	1～4	単位数	4.0
授業のテーマ	音楽理論、音楽史、ソルフェージュを学ぶと共に、実際に楽曲を演奏することによってクラシック音楽の理解を深める。						
授業の概要	<ul style="list-style-type: none"> ・音楽作品を鑑賞、或いは演奏するに際し、正しく理解し表現する為に必要な楽典、音楽史、ソルフェージュについて学ぶ。 ・呼吸法、発声法を学び声楽曲を実際に歌い、歌を通して音楽表現の可能性を研究する。 ・アンサンブル曲を学び、アンサンブル能力を養う。 						
到達目標	<p>音楽史を学ぶことによって音楽の文化的歴史的背景を理解し、各時代の音楽様式を把握する。 基礎的な音楽理論の知識を身につける。 呼吸法、発声法を身につけると同時にソルフェージュ能力を習得する。 音楽表現としての歌を歌うことが出来るようになる。 アンサンブル曲を学ぶことにより、アンサンブルの楽しさを体感し、協調性を高める。</p>						
授業計画	<p>前期</p> <p>第1回 ガイダンス 呼吸法について</p> <p>第2回 呼吸法及び発声法について演習1</p> <p>第3回 呼吸法及び発声法について演習2</p> <p>第4回 ソルフェージュ課題演習1 楽典1 音名と譜表</p> <p>第5回 ソルフェージュ課題演習2 楽典2 リズムと拍子</p> <p>第6回 ソルフェージュ課題演習3 楽典3 音程</p> <p>第7回 ソルフェージュ課題演習4 楽典4 音階と調</p> <p>第8回 ソルフェージュ課題演習5 楽典5 和音</p> <p>第9回 ソルフェージュ課題演習6 楽典6 まとめと小テスト</p> <p>第9回 ソルフェージュ課題演習7</p> <p>音楽史（ヨーロッパ音楽の流れ） 古代・中世の音楽①グレゴリオ聖歌 モノフォニー</p> <p>第10回 ソルフェージュ課題演習8 古代・中世の音楽②中世の音楽観</p> <p>第11回 ソルフェージュ課題演習9 ルネサンスの音楽①ポリフォニー</p> <p>第12回 ソルフェージュ課題演習10 ルネサンスの音楽②楽譜の発展</p> <p>第13回 ソルフェージュ課題演習11 ルネサンスの音楽③ミサ曲の発展</p> <p>第14回 ソルフェージュ課題演習12 ルネサンスの音楽④宗教改革と音楽</p> <p>第15回 復習と実技試験</p> <p>後期</p> <p>第1回 バロック音楽① モノディー</p> <p>第2回 バロック音楽② バッハ</p> <p>第3回 バロック音楽③ ヘンデル</p> <p>第4回 古典派の音楽① ホモフォニー</p> <p>第5回 古典派の音楽② モーツァルト</p> <p>第6回 古典派の音楽③ ベートーベン</p> <p>第7回 ロマン派の音楽① フランス革命と音楽</p> <p>第8回 ロマン派の音楽② ドイツリート</p> <p>第9回 ロマン派の音楽③ イタリアオペラ</p> <p>第10回 近代の音楽 絵画と音楽</p> <p>第11回 現代の音楽</p> <p>第12回 日本における西洋音楽の流れ① 滝廉太郎 山田耕作</p> <p>第13回 日本における西洋音楽の流れ② 中田喜直 團伊久磨</p> <p>第14回 日本における西洋音楽の流れ③ 三善晃 武満徹 その他の作曲家 小テスト</p> <p>第15回 まとめと実技試験</p>						
授業外における学習（準備学習の内容）	授業で配られたプリントの復習						
授業方法	講義と実技						
評価基準と評価方法	平常点50%、小テスト20%、実技試験30%						
教科書	その都度資料、楽譜を配布する。						

参考書	
-----	--

科目区分	総合文芸学科専門教育科目						
科目名	音楽入門A						
担当教員	木本 雅子						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	水曜1	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	音楽理論、音楽史、ソルフェージュを学ぶと共に、実際に楽曲を演奏することによってクラシック音楽の理解を深める。						
授業の概要	<ul style="list-style-type: none"> ・音楽作品を鑑賞、或いは演奏するに際し、正しく理解し表現する為に必要な楽典、音楽史、ソルフェージュについて学ぶ。 ・呼吸法、発声法を学び声楽曲を実際に歌い、歌を通して音楽表現の可能性を研究する。 ・アンサンブル曲を学び、アンサンブル能力を養う。 						
到達目標	<p>音楽史を学ぶことによって音楽の文化的歴史的背景を理解し、各時代の音楽様式を把握する。 基礎的な音楽理論の知識を身につける。 呼吸法、発声法を身につけると同時にソルフェージュ能力を習得する。 音楽表現としての歌を歌うことが出来るようになる。 アンサンブル曲を学ぶことにより、アンサンブルの楽しさを体感し、協調性を高める。</p>						
授業計画	<p>第1回 ガイダンス 呼吸法について 第2回 呼吸法及び発声法について演習1 第3回 呼吸法及び発声法について演習2 ソルフェージュ課題演習1 楽典1 音名と譜表 第4回 ソルフェージュ課題演習2 楽典2 リズムと拍子 第5回 ソルフェージュ課題演習3 楽典3 音程 第6回 ソルフェージュ課題演習4 楽典4 音階と調 第7回 ソルフェージュ課題演習5 楽典5 和音 第8回 ソルフェージュ課題演習6 楽典6 まとめと小テスト 第9回 ソルフェージュ課題演習7 音楽史(ヨーロッパ音楽の流れ) 古代・中世の音楽①グレゴリオ聖歌 モノフォニー 第10回 ソルフェージュ課題演習8 古代・中世の音楽②中世の音楽観 第11回 ソルフェージュ課題演習9 ルネサンスの音楽①ポリフォニー 第12回 ソルフェージュ課題演習10 ルネサンスの音楽②楽譜の発展 第13回 ソルフェージュ課題演習11 ルネサンスの音楽③ミサ曲の発展 第14回 ソルフェージュ課題演習12 ルネサンスの音楽④宗教改革と音楽 第15回 復習と実技試験</p>						
授業外における学習(準備学習の内容)	授業で配られたプリントの復習						
授業方法	講義と実技						
評価基準と評価方法	平常点50%、小テスト20%、実技試験30%						
教科書	その都度資料、楽譜を配布する。						
参考書							

科目区分	総合文芸学科専門教育科目						
科目名	音楽入門B						
担当教員	木本 雅子						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	水曜1	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	音楽理論、音楽史、ソルフェージュを学ぶと共に、実際に楽曲を演奏することによってクラシック音楽の理解を深める。						
授業の概要	<ul style="list-style-type: none"> ・音楽作品を鑑賞、或いは演奏するに際し、正しく理解し表現する為に必要な楽典、音楽史、ソルフェージュについて学ぶ。 ・呼吸法、発声法を学び声楽曲を実際に歌い、歌を通して音楽表現の可能性を研究する。 ・アンサンブル曲を学び、アンサンブル能力を養う。 						
到達目標	<p>音楽史を学ぶことによって音楽の文化的歴史的背景を理解し、各時代の音楽様式を把握する。 基礎的な音楽理論の知識を身につける。 呼吸法、発声法を身につけると同時にソルフェージュ能力を習得する。 音楽表現としての歌を歌うことが出来るようになる。 アンサンブル曲を学ぶことにより、アンサンブルの楽しさを体感し、協調性を高める。</p>						
授業計画	<p>第1回 バロック音楽① モノディー 第2回 バロック音楽② バッハ 第3回 バロック音楽③ ヘンデル 第4回 古典派の音楽① ホモフォニー 第5回 古典派の音楽② モーツァルト 第6回 古典派の音楽③ ベートーベン 第7回 ロマン派の音楽① フランス革命と音楽 第8回 ロマン派の音楽② ドイツリート 第9回 ロマン派の音楽③ イタリアオペラ 第10回 近代の音楽 絵画と音楽 第11回 現代の音楽 第12回 日本における西洋音楽の流れ① 滝廉太郎 山田耕作 第13回 日本における西洋音楽の流れ② 中田喜直 團伊久磨 第14回 日本における西洋音楽の流れ③ 三善晃 武満徹 その他の作曲家 小テスト 第15回 まとめと実技試験</p>						
授業外における学習（準備学習の内容）	授業で配られたプリントの復習						
授業方法	講義と実技						
評価基準と評価方法	平常点50%、小テスト20%、実技試験30%						
教科書	その都度資料、楽譜を配布する。						
参考書							

科目区分	総合文芸学科専門教育科目						
科目名	基礎講読						
担当教員	柿沼 伸明						
学期	通年／Full Year	曜日・時限	木曜3	配当学年	1	単位数	4.0
授業のテーマ	長編小説を読む						
授業の概要	<p>サマセット・モームの『人間の絆（きずな）』という長編小説を読んでいます。モームは、19世紀末から20世紀前半に活躍したイギリスの作家です。『人間の絆』は自伝的な要素の強い小説で、とくに何らかの思想的傾向性を持たず、物語は淡々と展開していきます。内容は、9歳で両親を失い孤児となった主人公が、みずからの肉体的コンプレックスや人づきあいの下手さに悩みながら成長していき、青年期に達すると芸術に傾倒（けいとう）したり、恋愛を経験したりしながら、人生の幸福とは何かを考えていくものです。こういうタイプの小説は、教養小説と呼ばれます。</p> <p>授業参加者は、大学入学時までこのような比較的長い小説を読んでこなかったでしょうから、長文読解のトレーニングになると思います。また、主人公とともに人生の幸福とは何かを考えていくことは、意義深い体験になるだろうと信じます。</p>						
到達目標	小説テキストを分析的に読めるようになること						
授業計画	<p>第1回 授業の進め方、成績評価の方法の説明。モーム文学の解説。</p> <p>第2回 教師が発表し、レジメのまとめ方を実地指導。</p> <p>第3回～第14回 1回に1人約20ページ、3人発表、計60ページの速さで読み進めていく。これで14回目に下巻の初めまで到達する。</p> <p>第15回 前回までに読んだところまでのレポートを提出してもらう。優秀なレポート幾つかをコピーしてもらってくるので、それらを基に内容を全員で討論する。</p> <p>第16回 教師が発表し、実地指導。</p> <p>第17回～第20回 1人約20ページ、3人発表、計60ページの速さで進む。</p> <p>第21回～第22回 『人間の絆』の一部の逸話を扱った『痴人の愛』というイギリス映画があるので、これを鑑賞する。</p> <p>第23回～第28回 計60ページの速さで進み、28回目まで小説を読了したい。第26回目にレポートの書き方について指導し、第28回目に仮レポートを提出してもらう。</p> <p>第29回 提出された仮レポートを教師が徹底的に添削し、各人に返却する。このとき、どのようなことについて書くべきか、個別指導を行う。</p> <p>第30回 優秀なレポート幾つかのコピーをもってくるので、これらを輪読し、どのように優れているのか、どのように優れたレポートを書くべきなのかを説明する。その後、小説についての自分の考えを一人一人、発言してもらう。（以上の結果、各人は仮レポートを書き改めて本レポートを作成し、教務課に提出する）</p>						
授業外における学習（準備学習の内容）	自分の発表の番でなくとも小説を読むこと。						
授業方法	授業参加者による発表						
評価基準と評価方法	口頭発表30%、レポート70%で評価						
教科書	サマセット・モーム『人間の絆（上・下）』（新潮文庫）中野好夫訳						
参考書							

科目区分	総合文芸学科専門教育科目						
科目名	基礎講読						
担当教員	山田 道夫						
学期	通年／Full Year	曜日・時限	水曜2	配当学年	1	単位数	4.0
授業のテーマ	『オデュッセイア』を読む						
授業の概要	紀元前8世紀に成ったとされ、西洋文学史のAでありZである『オデュッセイア』を松平千秋の散文訳で講読する。						
到達目標	常用漢字の枠を超えた漢字や熟語、慣用句など日本語の知識を拡げて、端正でリズム感豊かな日本語の文章を楽しめるようになる。読んで考え、考えて読むというクリティカルな読書の技法を身につける。						
授業計画	<p>前期</p> <p>第1回 『オデュッセイア』概説(1)―神話的背景、映画ビデオ</p> <p>第2回 『オデュッセイア』概説(2)―文学史的背景、映画ビデオ</p> <p>第3回 第九歌「キュクロプスの話」</p> <p>第4回 第十歌「魔女キルケーの話」</p> <p>第5回 第一歌「神々の会議」</p> <p>第6回 第二歌「テレマコスの旅立ち」</p> <p>第7回 第五歌「魔女カリュプソの島」</p> <p>第8回 第六歌「少女ナウシカー」</p> <p>第9回 第七・八歌「パイエクス人の王宮」</p> <p>第10回 第十一歌「冥府行」</p> <p>第11回 第十二歌「セイレーン、スキュラ、カリュプディス」</p> <p>第12回 レポートの課題と書き方</p> <p>第13回 オデュッセウスと女たち</p> <p>第14回 冒険ヒーローとしてのオデュッセウス</p> <p>第15回 まとめと展望、期末レポート提出</p> <p>後期</p> <p>第1回 第十三歌「イタケへの帰還」</p> <p>第2回 第十四歌「豚飼エウマイオス」</p> <p>第3回 第十五歌「テレマコスの帰国」</p> <p>第4回 第十六歌「父子の再会、討伐計画」</p> <p>第5回 第十七歌「父子の帰館と求婚者たち」</p> <p>第6回 第十八歌「乞食のオデュッセウス」</p> <p>第7回 第十九歌「ペネロペイアとの対話」</p> <p>第8回 第二十歌「討伐前夜」</p> <p>第9回 第二十一・二十二歌「弓競技と求婚者誅殺」</p> <p>第10回 求婚者たちの罪とゼウスの正義</p> <p>第11回 第二十三歌「夫婦の再会」</p> <p>第12回 認知のドラマと三つの印、謎のペネロペイア、レポートの課題と書き方</p> <p>第13回 映画『キャストアウェイ』と『オデュッセイア』</p> <p>第14回 映画『かくも長き不在』と『オデュッセイア』</p> <p>第15回 まとめと展望、期末レポート提出</p>						
授業外における学習(準備学習の内容)	毎回の授業の前に、知らない漢字や語彙を広辞苑などの大辞典で調べて、自分でテキストを読み、授業後に読み返すという作業が授業参加の前提である。						
授業方法	講読。教員による質問、解説、問題点の指摘などを交えながら、テキストを一緒に読んでゆく(前期は声に出して輪読する)。漢字の読み取りテストも行う。						
評価基準と評価方法	授業への参加度、授業態度、漢字テストなどの平常点30%、期末レポート70%で評価する。						
教科書	ホメロス『オデュッセイア上』(岩波文庫)、松平千秋訳、岩波書店 ISBN4-00-321024-7 ホメロス『オデュッセイア下』(岩波文庫)、松平千秋訳、岩波書店 ISBN4-00-321025-5						

参考書	
-----	--

科目区分	総合文芸学科専門教育科目						
科目名	基礎講読A						
担当教員	柿沼 伸明						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	木曜3	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	長編小説を読む						
授業の概要	<p>サマセット・モームの『人間の絆（きずな）』という長編小説を読んでいます。モームは、19世紀末から20世紀前半に活躍したイギリスの作家です。『人間の絆』は自伝的な要素の強い小説で、とくに何らかの思想的傾向性をもたず、物語は淡々と展開していきます。内容は、9歳で両親を失い孤児となった主人公が、みずからの肉体的コンプレックスや人づきあいの下手さに悩みながら成長していき、青年期に達すると芸術に傾倒（けいとう）したり、恋愛を経験したりしながら、人生の幸福とは何かを考えていくものです。こういうタイプの小説は、教養小説と呼ばれます。</p> <p>授業参加者は、大学入学時までこのような比較的長い小説を読んでこなかったでしょうから、長文読解のトレーニングになると思います。また、主人公とともに人生の幸福とは何かを考えていくことは、意義深い体験になるだろうと信じます。</p>						
到達目標	小説のテキストを分析的に読めるようになること						
授業計画	<p>第1回 授業の進め方、成績評価の方法の説明。モーム文学の解説。</p> <p>第2回 教師が発表し、レジュメのまとめ方を実地指導。</p> <p>第3回 1人約20ページ分の内容を口頭発表、3人発表</p> <p>第4回 1人約20ページ分の内容を口頭発表、3人発表</p> <p>第5回 1人約20ページ分の内容を口頭発表、3人発表</p> <p>第6回 1人約20ページ分の内容を口頭発表、3人発表</p> <p>第7回 1人約20ページ分の内容を口頭発表、3人発表</p> <p>第8回 1人約20ページ分の内容を口頭発表、3人発表</p> <p>第9回 『人間の絆』の映画化作品を鑑賞</p> <p>第10回 『人間の絆』の映画化作品を鑑賞</p> <p>第11回 1人約20ページ分の内容を口頭発表、3人発表</p> <p>第12回 レポートの書き方について解説</p> <p>第14回 前回までに読んだところまでのレポートを提出</p> <p>第15回 提出レポートを添削して返却後、個別指導</p>						
授業外における学習（準備学習の内容）	自分の発表の番でなくとも小説を読むこと。						
授業方法	口頭発表と質疑応答に基づく講義						
評価基準と評価方法	口頭発表30%、レポート70%						
教科書	サマセット・モーム『人間の絆（上・下）』（新潮文庫）中野好夫訳						
参考書							

科目区分	総合文芸学科専門教育科目						
科目名	基礎講読A						
担当教員	山田 道夫						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	水曜2	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	『オデュッセイア』を読む						
授業の概要	紀元前8世紀に成ったとされ、西洋文学史のAでありZである『オデュッセイア』を松平千秋の散文訳で講読する。						
到達目標	常用漢字の枠を超えた漢字や熟語、慣用句など日本語の知識を拡げて、端正でリズム感豊かな日本語の文章を楽しめるようになる。読んで考え、考えて読むというクリティカルな読書の技法を身につける。						
授業計画	第1回 『オデュッセイア』概説(1)―神話的背景、映画ビデオ 第2回 『オデュッセイア』概説(2)―文学史的背景、映画ビデオ 第3回 第九歌「キュクロプスの話」 第4回 第十歌「魔女キルケーの話」 第5回 第一歌「神々の会議」 第6回 第二歌「テレマコスの旅立ち」 第7回 第五歌「魔女カリュプソの島」 第8回 第六歌「少女ナウシカー」 第9回 第七・八歌「パイエケス人の王宮」 第10回 第十一歌「冥府行」 第11回 第十二歌「セイレーン、スキュラ、カリュプディス」 第12回 レポートの課題と書き方 第13回 オデュッセウスと女たち 第14回 冒険ヒーローとしてのオデュッセウス 第15回 まとめと展望、期末レポート提出						
授業外における学習(準備学習の内容)	毎回の授業の前に、知らない漢字や語彙を広辞苑などの大辞典で調べて、自分でテキストを読み、授業後に読み返すという作業が授業参加の前提である。						
授業方法	講読。教員による質問、解説、問題点の指摘などを交えながら、テキストを一緒に読んでゆく(声に出して輪読する)。漢字の読み取りテストも行う。						
評価基準と評価方法	授業への参加度、授業態度、漢字テストなどの平常点30%、期末レポート70%で評価する。						
教科書	ホメロス『オデュッセイア上』(岩波文庫)、松平千秋訳、岩波書店 ISBN4-00-321024-7 ホメロス『オデュッセイア下』(岩波文庫)、松平千秋訳、岩波書店 ISBN4-00-321025-5						
参考書							

科目区分	総合文芸学科専門教育科目						
科目名	基礎講読B						
担当教員	柿沼 伸明						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	木曜3	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	長編小説を読む						
授業の概要	<p>サマセット・モームの『人間の絆（きずな）』という長編小説を読んでいます。モームは、19世紀末から20世紀前半に活躍したイギリスの作家です。『人間の絆』は自伝的な要素の強い小説で、とくに何らかの思想的傾向性をもたず、物語は淡々と展開していきます。内容は、9歳で両親を失い孤児となった主人公が、みずからの肉体的コンプレックスや人づきあいの下手さに悩みながら成長していき、青年期に達すると芸術に傾倒（けいとう）したり、恋愛を経験したりしながら、人生の幸福とは何かを考えていくものです。こういうタイプの小説は、教養小説と呼ばれます。</p> <p>授業参加者は、大学入学時までこのような比較的長い小説を読んでこなかったでしょうから、長文読解のトレーニングになると思います。また、主人公とともに人生の幸福とは何かを考えていくことは、意義深い体験になるだろうと信じます。</p>						
到達目標	小説テキストを分析的に読めるようになること。						
授業計画	<p>第1回 教師が発表し、実地指導。 第2回～第5回 1人約20ページ、3人発表、計60ページの速さで進む。 第6回～第7回 『人間の絆』の一部の逸話を扱った『痴人の愛』というイギリス映画があるので、これを鑑賞する。 第8回～第13回 計60ページの速さで進み、13回目で小説を読了したい。 第11回目にレポートの書き方について指導し、第13回目に仮レポートを提出してもらう。 第14回 提出された仮レポートを教師が徹底的に添削し、各人に返却する。 このとき、どのようなことについて書くべきか、個別指導を行う。 第15回 優秀なレポート幾つかのコピーをもってくるので、これらを輪読し、どのように優れているのか、どのように優れたレポートを書くべきなのかを説明する。その後、小説についての自分の考えを一人一人、発言してもらう。 （以上の結果、各人は仮レポートを書き改めて本レポートを作成し、教務課に提出する）</p>						
授業外における学習（準備学習の内容）	自分の発表の番でなくとも小説を読むこと。						
授業方法	毎回、1人約20ページほどの担当で、3名に発表してもらう。						
評価基準と評価方法	口頭発表30%、レポート70%						
教科書	サマセット・モーム『人間の絆（上・下）』（新潮文庫）中野好夫訳						
参考書							

科目区分	総合文芸学科専門教育科目						
科目名	基礎講読B						
担当教員	山田 道夫						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	水曜2	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	『オデュッセイア』を読む						
授業の概要	紀元前8世紀に成ったとされ、西洋文学史のAでありZである『オデュッセイア』を松平千秋の散文訳で講読する。						
到達目標	常用漢字の枠を超えた漢字や熟語、慣用句など日本語の知識を拓げて、端正でリズム感豊かな日本語の文章を楽しめるようになる。読んで考え、考えて読むというクリティカルな読書の技法を身につける。						
授業計画	第1回 第十三歌「イタケへの帰還」 第2回 第十四歌「豚飼エウマイオス」 第3回 第十五歌「テレマコスの帰還」 第4回 第十六歌「父子の再会、討伐計画」 第5回 第十七歌「父子の帰館と求婚者たち」 第6回 第十八歌「乞食のオデュッセウス」 第7回 第十九歌「ペネロペイアとの対話」 第8回 第二十歌「討伐前夜」 第9回 第二十一・二歌「弓競技と求婚者誅殺」 第10回 求婚者たちの罪とゼウスの正義 第11回 第二十三歌「夫婦の再会」 第12回 認知のドラマと三つの印、謎のペネロペイア、レポートの課題と書き方 第13回 映画『キャストアウェイ』と『オデュッセイア』 第14回 映画『かくも長き不在』と『オデュッセイア』 第15回 まとめと展望、期末レポート提出						
授業外における学習（準備学習の内容）	毎回の授業の前に、知らない漢字や語彙を広辞苑などの大辞典で調べて、自分でテキストを読み、授業後に読み返すという作業が授業参加の前提である。						
授業方法	講読。教員による質問、解説、問題点の指摘などを交えながら、テキストを一緒に読んでゆく。漢字の読み取りテストも行う。						
評価基準と評価方法	授業への参加度、授業態度、漢字テストなどの平常点30%、期末レポート70%で評価する。						
教科書	ホメロス『オデュッセイア上』（岩波文庫）、松平千秋訳、岩波書店 ISBN4-00-321024-7 ホメロス『オデュッセイア下』（岩波文庫）、松平千秋訳、岩波書店 ISBN4-00-321025-5						
参考書							

科目区分	総合文芸学科専門教育科目						
科目名	考古学						
担当教員	渡辺 伸行						
学期	通年／Full Year	曜日・時限	月曜5	配当学年	2	単位数	4.0
授業のテーマ	日本考古学を学ぶ						
授業の概要	(1)日本考古学概論 歴史を学ぶには、文字で記録されたものから知る方法と、文字のない時代や文字で記録されなかった生活から知る方法があります。ここでは、主として文字に記録されなかった生活から歴史を考える方法、つまり考古学的方法を学習します。その上で、最近の発掘調査成果を踏まえて、考古学から日本の歴史をたどってみます。						
到達目標	遺跡から学ぶ方法、つまり遺跡がその土地に作られた意図とその場所が選ばれた理由を考え、歴史を体感する想像力を涵養します。考古学が対象とする遺物＝「もの」の背後の人間の技術と精神を学び、考古資料を扱う学芸員としての基本的な思考法を身につけることを目指します。						
授業計画	<p>前期授業計画</p> <p>第1回 考古学とはなにか 第2回 考古学の方法と時代区分 第3回 旧石器時代の生活～自然環境と動・植物相～ 第4回 縄文時代～自然環境と生業～ 第5回 縄文時代の集落と住居 第6回 縄文人の精神生活 第7回 縄文時代の終末と弥生時代の開始 第8回 考古系博物館施設の見学 第9回 縄文人と弥生人 第10回 弥生時代の集落と住居 第11回 青銅器と祭祀 第12回 魏志倭人伝の考古学 第13回 倭国大乱と高地性集落 第14回 集落遺跡現地見学 第15回 弥生時代の墓の変遷 ～墳丘墓へ～</p> <p>後期授業計画</p> <p>第1回 前方後円墳の出現～前期古墳の特徴～ 第2回 巨大古墳の築造とその時代 第3回 古墳時代の集落と豪族居館 第4回 大陸との交流と渡来文化 第5回 古墳現地研修 第6回 後期古墳から終末期古墳へ 第7回 飛鳥・奈良時代～文字の普及と地方社会～ 第8回 宮都の造営～飛鳥京から平安京～ 第9回 仏教の普及と古代寺院の造営 第10回 古代集落の変遷～飛鳥時代から平安時代～ 第11回 古代宮都現地見学 第12回 福原京と大輪田の泊 第13回 戦国時代の山城と近世の城館 第14回 近世兵庫津から近代の神戸～港町の変遷～ 第15回 課題個別発表</p>						
授業外における学習（準備学習の内容）	休日には、身近にある博物館や歴史・考古資料館を見学してください。 史跡や神社仏閣なども訪ねて、その場所の地形や歴史地理を考える習慣をつけてください。						
授業方法	講義及び演習と現地見学						
評価基準と評価方法	試験40%、レポート40%、平常点20%						
教科書	プリント配布						

参考書	石川日出志『農耕社会の成立』岩波新書 ISBN-978400431271 寺沢薫『王権誕生』講談社学術文庫 ISBN-9784062919029 藤本強『考古学でつづる日本史』同成社 ISBN-9784886214218 菊池徹夫『考古学の教室』平凡社 ISBN-9784582853872 小林謙一『縄文はいつから?』新泉社 ISBN-9784787711014 阿部芳郎『考古学の挑戦』岩波ジュニア新書 ISBN-9784005006571 佐々木憲一『はじめて学ぶ考古学』有斐閣 ISBN-9784641124349
-----	---

科目区分	総合文芸学科専門教育科目						
科目名	広告企画編集						
担当教員	中谷 悦子						
学期	通年／Full Year	曜日・時限	月曜4	配当学年	3～4	単位数	4.0
授業のテーマ	広告の基礎知識の理解および表現方法の習得。						
授業の概要	広告とは、さまざまなメディアを活用し、言葉、映像、音楽を使って効果的に企業のメッセージを伝達するものです。この授業では、移り変わりゆく広告ビジネスやメディアの現況、広告制作のプロセスを理解し、広告の表現手法を学びます。広告制作の基本（コンセプトワークやコピーライティング）を知り、クリエイティブな発想力を磨くことにより、自己表現能力、コミュニケーション力の向上をめざします。						
到達目標	自分の考えやアピールポイントを、文章で効果的に表現し、相手にうまく伝えられるようになること。これは、就職活動や日常のコミュニケーションの円滑化にも大いに役立つでしょう。						
授業計画	<p><前期></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス（授業の概要、進め方、成績評価の方法、注意事項など）。自己紹介。 2. 広告とコミュニケーション ※広告って、なあに？ 3. 広告と産業、広告ビジネスの概要 ※広告マンって、どんな人？ 4. メディアと広告表現①（新聞・雑誌） ※話題の広告を見てみよう。 5. メディアと広告表現②（テレビ・ラジオ） ※話題の広告を見てみよう。 6. メディアと広告表現③（アウト・オブ・ホームメディア） ※話題の広告を見てみよう。 7. メディアと広告表現④（インタラクティブメディア） ※話題の広告を見てみよう。 8. 広告計画からクリエイティブワークまで ※あの広告は、どうやってできた？ 9. ブランディングとは。 ※ブランドって、なんだ？ 10. コンセプトの発見。 ※何を訴えるか？ 11. 表現アイデアとその発想法 ※どう訴えるか？ 12. プレゼンテーションの手法 ※どう売り込むか？ 13. クリエイターの現場① ※グラフィック広告は、どうやってできる？ 14. クリエイターの現場② ※TVCFは、どうやってできる？ 15. 広告制作のルールと倫理 ※広告に著作権ってあるの？ <p><後期></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. コピーライティングとは。 ※キャッチフレーズを作ってみよう。 2. コピーライターの資質。 ※コピーライターって、どんな人？ 3. 欧米の広告表現 ※欧米の広告、TVCFを見てみよう。 4. アジアの広告表現 ※アジアの広告、TVCFを見てみよう。 5. ゲストスピーカー釘町豊さん講演 「広告代理店の仕事と、これからの広告業界」 6. 広告表現に見られる日本の特殊性 ※好きな広告について話してみよう。 7. 広告に見る企業のイメージ戦略 ※好きな企業について話してみよう。 8. クロスメディアと広告キャンペーン ※クロスメディア広告を探そう。 9. 公共広告について。 ※公共広告ってなあに？ 10. ワンコピー、ワンビジュアル ※いろんな表現方法を考えよう。 11. 広告プランニング演習（新聞広告） ※好きな企業（商品）の広告を企画してみよう。 12. 広告プランニング演習（TVCF） ※好きな企業（商品）の広告を企画してみよう。 13. 広告制作演習① ※好きな企業（商品）の広告をつくってみよう。 14. 広告制作演習② ※好きな企業（商品）の広告をつくってみよう。 15. プレゼンテーション ※自作の広告をプレゼンテーションしよう。 						
授業外における学習（準備学習の内容）	ふだん何気なく見ているテレビや新聞、ネットなどの広告、街にある看板やPOPなどを意識的に見るように心がけてください。そして、心に残ったキャッチフレーズや感じたなどを心に留めておきましょう。						
授業方法	講義、広告作品鑑賞、広告企画・コピーライティング演習、ディスカッション						
評価基準と評価方法	評価のための期末試験はおこないません。講義の中で何回か課題を出しますので、必ず提出してください。提出課題の内容、取り組む姿勢、発表力、出席率などを考慮し、総合的に評価します。						
教科書	なし						

参考書	小松洋支、中村卓司 監修 『新コピーライター入門』 (株) 電通 藤沢武夫 『広告の学び方作り方』 昭和堂 岸 勇希 『コミュニケーションデザイナー-コミュニケーションをデザインする』 (株) 電通
-----	---

科目区分	総合文芸学科専門教育科目						
科目名	古典としての聖書						
担当教員	濱崎 雅孝						
学期	通年／Full Year	曜日・時限	水曜2	配当学年	2～4	単位数	4.0
授業のテーマ	聖書の人間観を知り、バッハの音楽を深く味わう。						
授業の概要	バッハの音楽を理解するためには、キリスト教の知識が不可欠です。しかし単にキリスト教のことを知っているだけでは十分とは言えません。キリスト教の説く人間観を自分のものとして受け止めていなければ、バッハの音楽に込められた思いを知ることはできないでしょう。この授業では、キリスト教思想が自分自身に深く関わるものであることを知り、その実感に基づいてバッハの音楽を味わう方法を模索していきたいと思います。						
到達目標	バッハの音楽、特にカンタータや『マタイ受難曲』の内容を理解し、それに深く感動する感受性を養う。						
授業計画	第1回 音楽を聴くということ 第2回 西洋音楽の始まりと宗教 第3回 グレゴリオ聖歌と大聖堂建築 第4回 古代ギリシャの音楽理論と天上界の音楽 第5回 愛の歌と神への賛美 第6回 ゴシックとは何か 第7回 ルネサンスの芸術は反宗教的か 第8回 宗教改革の文化的意義について 第9回 バロック時代の音楽 第10回 オペラの誕生と劇場音楽 第11回 聖書翻訳と讃美歌 第12回 教会音楽と世俗音楽 第13回 ドイツ・ロマン主義の思想と音楽 第14回 ドイツ語とラテン語の歌詞の違い 第15回 バッハかモーツァルトか 第16回 ルターの思想とバッハの信仰 第17回 バッハ一族の系図 第18回 ルターの宗教思想が与えた影響 第19回 旧約聖書の人間観 第20回 新約聖書の人間観 第21回 マリアのエリサベト訪問（カンタータ第147番） 第22回 死を求める信仰（カンタータ第125番） 第23回 イエスの誕生（カンタータ第82番） 第24回 罪を悔いる心（カンタータ第55番） 第25回 神への賛美と感謝（カンタータ第51番） 第26回 受難の預言（マタイ受難曲1～4） 第27回 最後の晩餐（マタイ受難曲9～13） 第28回 ゲッセマネの苦悩（マタイ受難曲18～25） 第29回 ペトロとユダ（マタイ受難曲38～42） 第30回 十字架と死（マタイ受難曲50～63）						
授業外における学習（準備学習の内容）	ドイツ語の歌詞を暗唱してもらいます。 バッハ評伝などの参考文献をいくつか読んできて、内容を説明してもらいます。						
授業方法	講師からの説明だけでなく、受講生の報告の時間も取ります。 また、音楽を聴く時間や、その感想を述べる時間も取ります。						
評価基準と評価方法	ドイツ語歌詞暗唱テスト30% 授業中の報告30% レポート40%						
教科書	特に指定しません。						
参考書	講義の中で紹介します。						

科目区分	総合文芸学科専門教育科目						
科目名	古典としての聖書A						
担当教員	濱崎 雅孝						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	水曜2	配当学年	2~4	単位数	2.0
授業のテーマ	バッハの音楽を深く味わうための聖書の基礎知識						
授業の概要	バッハの音楽を理解するためにはキリスト教の知識が不可欠です。しかし、単にキリスト教のことを知っているだけでは十分とは言えません。キリスト教の説く人間観を自分のものとして受け止めていなければ、バッハの音楽に込められた思いを知ることができないでしょう。この授業では、キリスト教思想が自分自身に関わるものであることを知り、その実感に基づいてバッハの音楽を味わう方法を模索していきたいと思います。						
到達目標	バッハの音楽を味わうために必要な知識、特に聖書の思想と西洋音楽史についての知識を獲得する。あわせてドイツ語訳聖書を読むための基本的な文法を学ぶ。						
授業計画	第1回 音楽を聴くということ 第2回 西洋音楽の始まり 第3回 グレゴリオ聖歌を味わう 第4回 古代ギリシャの音楽理論 第5回 トルバドゥールとトルヴェール 第6回 ゴシックとは何か 第7回 ルネサンスの芸術 第8回 宗教改革の歴史的意義 第9回 バロック時代の音楽 第10回 オペラの誕生 第11回 ルターのコラール 第12回 教会音楽と世俗音楽 第13回 ドイツ・ロマン主義オペラ 第14回 チェチーリア運動 第15回 バッハかモーツァルトか						
授業外における学習（準備学習の内容）	ドイツ語の歌詞（詩篇などを含む）を暗唱してもらいます。						
授業方法	講義形式ですが、音楽や美術に触れる時間も多く取ります。						
評価基準と評価方法	ドイツ語暗唱テスト30% レポート70%						
教科書	特に指定しません。						
参考書	講義の中で紹介します。						

科目区分	総合文芸学科専門教育科目						
科目名	古典としての聖書B						
担当教員	濱崎 雅孝						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	水曜2	配当学年	2~4	単位数	2.0
授業のテーマ	バッハの音楽を深く味わう						
授業の概要	バッハの音楽を理解するための基礎知識を習得し、それをさらに自分の言葉で表現する訓練を通して、バッハの音楽を深く味わう方法を知る。それによって、音楽が伝えるものと歌詞の内容が一体化していることを実感できれば、バッハを理解したと言ってもいいでしょう。						
到達目標	バッハの音楽、特に『マタイ受難曲』の内容を理解し、それに深く感動する感受性を養う。						
授業計画	第1回 ルターの思想とバッハの信仰 第2回 バッハ一族の系図 第3回 ルターのドイツ語訳聖書 第4回 旧約聖書の人間観 第5回 新約聖書の人間観 第6回 マリアのエリサベト訪問（カンタータ147） 第7回 死を求める信仰（カンタータ125） 第8回 イエス誕生（カンタータ82） 第9回 罪を悔いる心（カンタータ55） 第10回 神への賛美と感謝（カンタータ51） 第11回 受難の預言（マタイ受難曲1~4） 第12回 最後の晩餐（マタイ受難曲9~13） 第13回 ゲッセマネの苦悩（マタイ受難曲18~25） 第14回 ペトロとユダ（マタイ受難曲38~42） 第15回 十字架と死（マタイ受難曲50~63）						
授業外における学習（準備学習の内容）	ドイツ語歌詞の暗唱など。						
授業方法	基本的に講義形式ですが、音楽を聴いて味わう時間も取ります。						
評価基準と評価方法	ドイツ語歌詞暗唱テスト30% レポート70%						
教科書	特に指定しません。						
参考書	講義の中で紹介します。						

科目区分	総合文芸学科専門教育科目						
科目名	古典文学を学ぶA／平安の文学A						
担当教員	片岡 利博						
学期	前期／1st semester	曜日・時限	金曜3	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	枕草子を読む その1						
授業の概要	『清少納言枕草子』を、世間で普通に読まれている枕草子とは少し内容の異なる能因本のテキストで読みながら、平安貴族社会の文化について学ぶ。あわせて、枕草子という作品の文芸性についても講義する。						
到達目標	典型的な仮名文の文体に慣れるとともに、写本で伝わってきた作品がもつ独特の問題についての知識を習得することを目標とする。						
授業計画	1 枕草子について その1 2 同上 その2 3 枕草子の諸本 その1 4 同上 その2 5 枕草子の諸章段 6 類聚的章段の特徴 その1 7 同上 その2 8 同上 その3 9 同上 その4 10 随想的章段の特徴 その1 11 同上 その2 12 同上 その3 13 同上 その4 14 まとめ 15 試験と反省						
授業外における学習（準備学習の内容）	とくに必要はない。						
授業方法	購読と講義をまじえて行う。						
評価基準と評価方法	期末試験による。						
教科書	松尾聡 笠間文庫『枕草子』（笠間書院刊）ISBN978-4-305-70422-1						
参考書	教室で指示する。						

科目区分	総合文芸学科専門教育科目						
科目名	古典文学を学ぶB／平安の文学B						
担当教員	片岡 利博						
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	金曜3	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	枕草子を読む その2						
授業の概要	『清少納言枕草子』を、世間で普通に読まれている枕草子とは少し内容の異なる能因本のテキストで読みながら、平安貴族社会の文化について学ぶ。あわせて、日記的章段とよばれる章段の購読を通じて、枕草子という作品の成立や特性についても講義する。						
到達目標	典型的な仮名文の文体に慣れるとともに、写本で伝わってきた作品がもつ独特の問題についての知識を習得することを目標とする。						
授業計画	1 枕草子について 2 枕草子の諸本 3 枕草子の諸章段 4 類聚的章段を読む その1 5 同上 その2 6 随想的章段を読む その1 7 同上 その2 8 日記的章段を読む その1 9 同上 その2 10 同上 その3 11 同上 その4 12 同上 その5 13 日記的章段の特徴 14 まとめ 15 試験と反省						
授業外における学習（準備学習の内容）	とくに必要はない。						
授業方法	購読と講義をまじえて行う。						
評価基準と評価方法	期末試験による。						
教科書	松尾聡 笠間文庫『枕草子』（笠間書院刊）ISBN978-4-305-70422-1						
参考書	教室で指示する。						

科目区分	総合文芸学科専門教育科目						
科目名	古典文学を学ぶC／近世の文学A						
担当教員	秋本 鈴史						
学期	前期／1st semester	曜日・時限	月曜3	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	近世演劇研究 時代物の浄瑠璃						
授業の概要	江戸時代を代表する歌舞伎と人形浄瑠璃の歴史を考える。特に二つの芸能の交流に着目し、三百年以上の間、社会の最先端の文化の一つとして活動を続けてきた軌跡を考察する。浄瑠璃や歌舞伎という芸能が17世紀初め頃に誕生してから、さまざまな紆余曲折を経ながら江戸時代という時代の中で大衆の中に定着してゆく。本講義は、その過程について特に成立期から元禄・享保期までを中心に、主に人形浄瑠璃の盛衰を柱に検討を加える連続講義の一環である。本年度は、昨年度の宝永期の考察に引き続き、激動する正徳期に起こる新たな演劇界の動きについて考察する。前期は時代物を中心に、芸能が新たな展開を見せる時代の変化を作品を通して考察する。						
到達目標	日本文化の代表の一つである浄瑠璃の基礎と概要を学ぶことができる。						
授業計画	第1回 近世演劇史概説 歌舞伎編 第2回 近世演劇史概説 浄瑠璃編 第3回 正徳期の演劇界 実と虚の世界 第4回 赤穂事件の概略 第5回 赤穂事件の文芸化・演劇化 第6回 『基盤太平記』の概要1 第7回 『基盤太平記』の概要2 第8回 『基盤太平記』の概要3 第9回 『基盤太平記』の概要4 第10回 『基盤太平記』の概要5 第11回 『基盤太平記』の概要6 第12回 赤穂事件と『基盤太平記』 第13回 太平記の世界と『基盤太平記』 第14回 『仮名手本忠臣蔵』成立前史 第15回 まとめと筆記試験						
授業外における学習（準備学習の内容）	講義形式で行うが、授業内で指示する参考図書を読んだり、図書館のAVセンターにあるDVDで舞台映像を見て学ぶ必要がある。						
授業方法	講義						
評価基準と評価方法	小テスト50% 期末テスト50%						
教科書	プリントを配布						
参考書							

科目区分	総合文芸学科専門教育科目						
科目名	古典文学を学ぶD／近世の文学B						
担当教員	秋本 鈴史						
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	月曜3	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	近世演劇研究 世話物の浄瑠璃						
授業の概要	江戸時代を代表する歌舞伎と人形浄瑠璃の歴史を考える。特に二つの芸能の交流に着目し、三百年以上の間、社会の最先端の文化の一つとして活動を継続してきた軌跡を考察する。浄瑠璃や歌舞伎という芸能が17世紀初め頃に誕生してから、さまざまな紆余曲折を経ながら江戸時代という時代の中で大衆の中に定着してゆく。本講義は、その過程について特に成立期から元禄・享保期までを中心に、主に人形浄瑠璃の盛衰を柱に検討を加える連続講義の一環である。本年度は、昨年度の宝永期の考察に引き続き、激動の正徳期に起こる新たな演劇界の動きについて考察する。後期は時代物に続き、世話物を中心に、芸能が新たな展開を見せる時代の変化を作品を通して考察する。						
到達目標	日本文化の代表の一つである浄瑠璃の基礎と概要を学ぶことができる。						
授業計画	第1回 正徳期の浄瑠璃界 第2回 時代物と世話物 第3回 歌舞伎の世話物と浄瑠璃の世話物 第4回 世話物の歴史 第5回 世話物の展開 『生玉心中』 1 第6回 世話物の展開 『生玉心中』 2 第7回 世話物の展開 『生玉心中』 3 第8回 世話物の展開 『生玉心中』 4 第9回 世話物の展開 『生玉心中』 5 第10回 世話物の展開 『生玉心中』 6 第11回 世話物の展開 『生玉心中』 7 第12回 世話物の展開 『生玉心中』 8 第13回 人形浄瑠璃の表現 1 第14回 人形浄瑠璃の表現 2 第15回 まとめと筆記試験						
授業外における学習（準備学習の内容）	講義形式で行うが、授業内で指示する参考図書を読んだり、図書館のAVセンターにあるDVDで舞台映像を見て学ぶ必要がある。						
授業方法	講義						
評価基準と評価方法	小テスト50% 期末テスト50%						
教科書	プリントを配布						
参考書							

科目区分	総合文芸学科専門教育科目						
科目名	西洋古典入門IIA (ローマの歴史と文学)						
担当教員	山田 道夫						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	木曜2	配当学年	2~4	単位数	2.0
授業のテーマ	古代ローマの歴史と文学						
授業の概要	西洋古典学 (Classics) とは、古代ギリシア人およびローマ人が創造し、二千年以上にわたって西欧の歴史と文化の規範ないし基盤となってきた学問や文化を研究するもので、ギリシア語の古典文献を主とするギリシア研究とラテン語の古典文献を主とするローマ研究に分かれる。この「西洋古典入門IIA」では古代ローマの歴史と文学の骨子を学ぶ。						
到達目標	古代ローマの歴史と文学について基礎的な知識をもつとともに、歴史や文学を学び楽しむための読解の技能を身につける。						
授業計画	第1回：すべての道はローマへ通ず。古代ローマのイメージ 第2回：ローマは一日にしてならず。ローマ史概観(1) カエサル (シーザー) とクレオパトラ 第3回：ローマ史概観(2) ローマの建国神話—アエネーアースとロムルス 第4回：ローマ史概観(3) ポエニ戦争、カルタゴとの闘争、地中海の覇者 第5回：ローマ史概観(4) 内乱の前—世紀、キケロとカエサル 第6回：ローマ史概観(5) 神帝アウグストゥスとローマ帝国 第7回：ローマ史小テスト、ラテン文学史の時代区分 第8回：カトウツルスのカルミナ — 憎んでいながら、なお恋しとはどうしたわけか？ 第9回：ウェルギリウス『アエネーイス』— 建国の英雄アエネーアース、ディードーの悲恋、男はつらい 第10回：オウィディウス『変身物語』(1) — 愛と変身のギリシア・ローマ神話 第11回：『変身物語』(2) 第12回：『変身物語』(3) 第13回：『変身物語』(4) 第14回：『変身物語』(5) 第15回：まとめと展望、期末テスト						
授業外における学習 (準備学習の内容)	授業の進度に合わせ、また授業中の指示にしたがって、教科書を読むと共に、図書館で参考文献を借り出して読むこと。						
授業方法	講義。前半は教科書、後半はプリントを使って講義する。						
評価基準と評価方法	授業への参加度30%、小テスト20%、期末テスト50%						
教科書	『ローマの歴史』(中公文庫) 改版 モンタネッリ著、藤沢道郎訳 中央公論社 ISBN4-12-202601-6						
参考書	『ラテン文学を学ぶ人のために』 松本仁助・岡道男・中務哲郎編 世界思想社 ISBN4-7907-0432-7						

科目区分	総合文芸学科専門教育科目						
科目名	西洋古典入門IIB (ラテン語)						
担当教員	山田 道夫						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	木曜2	配当学年	2~4	単位数	2.0
授業のテーマ	ラテン語初歩						
授業の概要	ラテン語は古代ローマ人の言語であるが、長く西欧の学問と文化の骨格を担う言語として用いられてきた。今日でもバチカンの公用語である。英米語の語彙の半分はラテン語からできているだけでなく、フランス語・イタリア語・スペイン語などは民衆語化したラテン語の直接の子孫である。この授業では、西欧の歴史や文学に興味をもつ人のみならず、英語やフランス語、さらには言語そのものを深く知りたいと望む人が、ラテン語とはどのような言語かを知って役立てることができるように、基本的な文法と簡単な文章を学ぶ。						
到達目標	ラテン語を発音し、名詞と動詞の初歩的な変化形を識別し、その範囲での簡単なラテン語の文章を理解できるようになること。						
授業計画	第1回：ラテン語とはどのような言語か？ 第2回：文字と発音(1) 第3回：文字と発音(2) 第4回：名詞の変化―第1変化名詞と第2変化名詞 第5回：形容詞の変化―第1・2変化形容詞 第6回：動詞の変化(1)―直説法・能動相・現在人称変化、動詞の4種類と不定法 第7回：動詞の変化(2)―未完了過去と未来 第8回：動詞の変化(3)―SUMとPOSSUM 第9回：前置詞、副詞、接続詞 第10回：動詞の変化(3)―受動相の現在・未完了過去・未来 第11回：第3変化の名詞と形容詞 第12回：簡単な文章を読む(1) 第13回：簡単な文章を読む(2) 第14回：簡単な文章を読む(3) 第15回：まとめと展望、テスト						
授業外における学習(準備学習の内容)	毎回の授業内容を教科書やプリントにそって復習し、宿題の練習問題で確認・習得すること。						
授業方法	教科書とプリントを用いながら講義する。受講者が発音から文法事項・変化のひとつひとつをきちんと理解し記憶することを前提に、ラテン文の訳読を適宜宿題として課す。						
評価基準と評価方法	授業への積極的参加、課題への取り組みなどの平常点50%、筆記テスト50%で評価する。						
教科書	『はじめてのラテン語』(講談社現代新書) 大西英文著 講談社 ISBN4-06-149353-1						
参考書	授業時に紹介する。						

科目区分	総合文芸学科専門教育科目						
科目名	世界の文芸I						
担当教員	多賀谷・武田（良）・柿沼・浦部						
学期	通年／Full Year	曜日・時限	火曜4	配当学年	1	単位数	4.0
授業のテーマ	近現代のイギリス・ドイツ・ロシア・中国の文学と文化						
授業の概要	<p>担当者：多賀谷 真吾 テーマ：文芸としての英米文学 英米文学における詩と劇の話をする。具体的には、シェイクスピアの劇、ワーズワスのロマン派の詩、そしてマザー・グースなどである。詩を身近に感じて、親しんでもらうことがこの授業の最大目標である。文学としてではなく、文芸としての詩の面白さを紹介するが、そのひとつのやり方として、後半の授業では、詩が映画という他の芸術領域と密接な関係を持つことを指摘する。</p> <p>担当者：武田 良材 テーマ：二つの世界大戦とドイツ文学 20世紀前半に活躍し、今なおドイツ文学界で最も有名なトーマス・マンならびにマン家を取り上げる。ノーベル賞作家トーマス・マン、その兄で、官能的作風の断固たる反戦の闘士ハインリヒ・マン、ナチスに敵対したトーマス・マンの子供たち。彼らの事績から、当時のドイツ文学をめぐる状況が幅広く知られる。同じく侵略国だった日本の文学状況を浮き上がらせる鏡でもある。受講に際しては、トーマス・マンの長編小説を一つは読んでおくことが望ましい。</p> <p>担当者：柿沼 伸明 テーマ：ロシア文化史 18世紀から20世紀にかけてのロシアの歴史、文学、美術、音楽、バレエ、アニメについて概説する。ロシア文学としては、19世紀の二大文豪であるトルストイとドストエフスキーの生涯と作品をとりあげる。音楽と美術は、世界的によく知られた作曲家や画家の作品を実際に鑑賞してみる。また、ロシアで開発されたピンスクリーンアニメ、切り絵アニメ、油絵アニメの制作方法を説明し、その映像効果を直接、味わってみる。</p> <p>担当者：浦部 依子 テーマ：中国近現代文学概論 アヘン戦争（1840）を境として、それまでの中国文化の体系は大きく変化し、内外の複雑な政治状況の中で胚胎した新しい文学は、近代中国の文学の方向を確実に形成していった。本講義は、清朝末期から五・四運動（1919）前までの中国近代文学の状況と、五・四運動から新中国の成立（1949）までの現代文学の状況、およびそれ以降の文芸上の重要事項をとりあげ、中国近現代文学の誕生の周辺とその諸相について講じる。 本講義で取り扱う中国の新しい文学は、文言に替わる口語体の文章の提唱など、中国伝統文学の特質とは異なるものであるが、その一方で変わることにない共通点もある。それは、中国文学はおおよそ何れの時代においても、政治を抜きにしては述べ難いという点である。 毎回の講義では各時期の社会背景を概説したのち、二人の作家を取りあげ、作品解釈やディベートなどを通じて、時代と作家が表現しようとしたものについての考察を進めてゆく。</p>						
到達目標	近現代のイギリス・ドイツ・ロシア・中国の文学と文化の理解						
授業計画	<p>担当者：多賀谷 真吾 第1回：イントロダクション 第2回：英語の詩ってどんなもの？ 第3回：マザー・グースとは？ 第4回：詩人と自然—ワーズワス 第5回：シェイクスピアの言葉の力 第6回：詩と映画の深い関係（1） 第7回：詩と映画の深い関係（2） 第8回：まとめと結論</p> <p>担当者：武田 良材 第1回：若きトーマス・マンの成功（大衆文学） 第2回：文化対文明の兄弟げんか 第3回：エーリカ・マンとクラウス・マンの反ナチス活動（ナチスの台頭） 第4回：アメリカでの成功（亡命） 第5回：悪魔との契約（第二次世界大戦） 第6回：クラウス・マンのアンガー・ジュマンと絶望（冷戦） 第7回：日本でのナチス文学ならびに亡命ドイツ文学（戦争責任）</p> <p>担当者：柿沼 伸明 第1回：ロシアのアニメ映画監督の紹介 第2回：ロシア史概観 第3回：19世紀ロシア文学史（トルストイ解説） 第4回：ロシアにおけるバレエの歴史とチャイコフスキー 第5回：19世紀ロシア文学史（ドストエフスキー解説） 第6回：18～20世紀ロシア美術小史</p>						

授業計画	<p>第7回：ロシアにおけるクラシック音楽小史</p> <p>担当者：浦部 依子 * 作家と作品は変更することがある。</p> <p>第1回：中国文学史における近現代文学の位置と特質</p> <p>第2回：清代後期の社会背景と文学 (龔自珍「詠史」・梁啓超「太平洋遇雨」/「少年中国説」・女流作家秋瑾「満江紅」)</p> <p>第3回：中華民国期の社会背景と文学(五四新文化運動とは・胡適・陳独秀・魯迅「狂人日記」)</p> <p>第4回：中華民国期の文学(女流作家謝冰心「二つの家庭」・魯迅「阿Q正伝」・郭沫若「漂流三部曲・岐路」)</p> <p>第5回：(小テスト①実施) 中華民国期の文学(茅盾「林商店」・巴金「家」・老舍「駱駝祥子」・女流作家丁玲「霞村にいた時」・毛沢東「文芸講話」とは)</p> <p>第6回：中華人民共和国(新中国)成立期の社会背景と文学(趙樹里「小二黒結婚」/「李有才板話」)</p> <p>第7回：新中国文革期の文芸(歴史戯曲 呉晗「海瑞罷官」・文化大革命とは・革命現代京劇)</p> <p>第8回：(小テスト②実施) 近現代文学のまとめ</p>
授業外における学習(準備学習の内容)	各授業担当者の指示に従うこと。
授業方法	4人の講師によるオムニバス形式の講義
評価基準と評価方法	出席30%、レポート70%で評価。4人の講師が出した評点の平均値によって成績が決定される。
教科書	プリントを配布
参考書	<p>授業中に紹介 (以下、浦部依子先生の授業の参考書)</p> <p>①吉田富夫『中国現代文学史 一九一五 - 四九』(朋友書店、1997)</p> <p>②藤井省三、大木康『新しい中国文学史』(ミネルヴァ書房、1997) * 第Ⅱ部「近現代の中国文学」(p. 102~)</p> <p>③魯迅、竹内好訳『阿Q正伝・狂人日記 他十二篇(呐喊)』(岩波書店、1981)</p> <p>④山田敬三『魯迅の世界』(大修館書店、1977)</p> <p>⑤丸山昇監修『中国現代文学珠玉選 小説〈1〉～〈3〉』(二玄社、2000~2001)</p> <p>⑥『中国現代文学選集』20巻(平凡社、1962~1963)</p> <p>⑦丸山昇、伊藤虎丸、新村徹編『中国現代文学事典』(東京堂出版、1985、1996)</p> <p>⑧中国文学研究会編『中国新文学事典』(河出文庫、1955)</p>

科目区分	総合文芸学科専門教育科目						
科目名	世界の文芸Ⅱ						
担当教員	山本・勝村・宮田・浦部・木下						
学期	通年／Full Year	曜日・時限	月曜2	配当学年	2	単位数	4.0
授業のテーマ	<p>古典となっている世界の文学や芸術作品について学ぶ。 担当者：山本のテーマは、「ヨーロッパの古典文芸」 担当者：宮田・勝村のテーマは、「古代オリエントの文芸作品」 担当者：浦部のテーマは、「中国古典戯曲のヒロインたち」 担当者：木下のテーマは、「古代ギリシャの文芸」</p>						
授業の概要	<p>オムニバス形式による講義である。以下に各担当者による授業の概要を述べる。 担当者：山本明美 ヨーロッパ17世紀末までの古典文芸をおおまかに理解するのが目的。ヨーロッパの古典文芸は、古代ギリシア・ローマ文化とキリスト教文化という二つの潮流の賜物である。これらの潮流がいかに古典の文芸を創造していったかを、こうした時代の社会状況にも触れながら以下の各テーマに焦点を合わせて眺めていく。 担当者：宮田玲・勝村弘也 古代メソポタミア、エジプト、シリア・パレスティナからは多くの文芸作品がわれわれにもたらされており、それらには旧約聖書の物語との関係もうかがえる。講義では、古代メソポタミア（バビロニア、アッシリア）とエジプトから、神話や物語を取り上げる。また、ヒエログリフとエジプト美術についても紹介する。 担当者：浦部依子 中国文学は、伝統的ジャンルの「詩・文」のほか、宋代頃には音楽を伴う「詞（ツイ）」が成長し、元明清には「戯曲・小説」の興隆を見ます。この講義で扱う女性や男女の文学主題は、特にこれらの後発的なジャンルにおいて、いっそうその精彩を放ちました。講義ではまず、中国文学の特質と戯曲文学の位置を講じたのち、毎回ひとつの名作を紹介し、映像資料によるレビューや討論、さらにグループ別の名作の寸劇発表などを通して、中国古典戯曲のヒロインの主体意識を多面的に考察します。 担当者：木下昌巳 古代ギリシアの文芸を概観し、その代表的作品を解説・鑑賞する。古代ギリシアの文化は、ヨーロッパにおいては、学問・芸術など広範囲に渡って、キリスト教と並びヨーロッパ全体の文化全体の源泉というべき地位を担い、多方面に圧倒的な影響を与えてきた。文芸においても、ギリシア古典期に書かれた諸作品は、近代に至るまで古典的規範として仰がれ、時代時代の精神を吹き込まれながら読まれ続け、さまざまな分野の芸術家たちにインスピレーションを与え続けてきたのである。この講義では、古代ギリシアの文芸作品のなかから、プラトンの対話篇『饗宴』を読み、ソポクレスの悲劇『オイディプス王』をDVDを使って鑑賞する。</p>						
到達目標	世界の古典的な作品に親しみ、3年次以降の学びの基礎を作る。						
授業計画	<p>担当者：山本明美 第1回 ヨーロッパの歴史・地域・文化 第2回 宗教観（天国と地獄、神と恋人）：ダンテ『神曲』 第3回 宗教制度・結婚生活：ボッカッチョ『デカメロン』、チョーサー『カンタベリー物語』 第4回 愛と服従：ペロー『童話集』 第5回 人の生き方：ペロー『童話集』 第6回 フランスの新旧論争について 第7回 試験</p> <p>担当者：宮田玲（第1－5回、第8回）・勝村弘也（第6－7回） 第1回 古代メソポタミアの風土と歴史。エヌマ・エリシュ ―バビロニア創造神話― 第2回 アトラ・ハシス ―大洪水物語― 第3回 ギルガメシュ叙事詩 ―英雄ギルガメシュの生と死― 第4回 ハムラビ法典 ―古代の判決集―、小テスト。 第5回 古代エジプトの風土。ヒエログリフ（その1）。 第6回 ヒエログリフ（その2）、古代エジプトの神話。 第7回 死者の書。 第8回 アテン賛歌、古代エジプト人の生活。</p> <p>担当者：浦部依子 * 戯曲設定は、変更することがあります。 第1回 a中国文学の特質と古典戯曲文学の位置 b匈奴へ嫁した宮女 王昭君「昭君出塞（しょうくんしゅっさい）」 第2回 メイドがとりもつお嬢様の恋 崔鶯鶯「西廂記（せいしやうき）」 第3回 糠（ぬか）をたべる嫁 趙五娘「琵琶記（びわき）」 第4回 生き返ったお嬢様 杜麗娘「牡丹亭（ぼたんてい）」 第5回 名妓が拾ったまことの恋 王美娘「占花魁（おいらんを占む）」 第6回 (レポート提出) 女性主体意識討論、発表 第7回 発表</p> <p>担当者：木下昌巳 1、ギリシアの文芸概観 2、文芸と哲学 3、プラトン『饗宴』を読む（1） 人はなぜ恋をするのか？ 4、プラトン『饗宴』を読む（2） 「プラトニック・ラブ」 5、ギリシア悲劇概観 6、ソポクレス『オイディプス王』を鑑賞する（1） 7、ソポクレス『オイディプス王』を鑑賞する（2）</p>						

授業計画	8、ギリシア悲劇と現代思想ーオイディプス・コンプレックスについて
授業外における学習（準備学習の内容）	配布資料を熟読しておくこと
授業方法	山本：講義と試験。学生は授業で解説を聞きながら諸作品の要約・抜粋を読み、試験を受ける。 宮田・勝村：講義 浦部：文学講義（映像資料によるレビューと討論を含む） 文学表現（グループによる名場面の寸劇発表） 木下：講義
評価基準と評価方法	担当者：山本明美 平常点24%、試験76%を総合評価。 担当者：宮田・勝村 平常点約40%、レポート約60% 担当者：浦部依子 平常点約40%、レポート約60% レポート提出に関する注意： ① 授業の戯曲内容に関する自由なトピック、あるいは戯曲1つを中心にして、任意の文字サイズで、A4横書き3頁（片面又は両面）以内に所見をまとめ、教務へ提出のこと。1行目には、講義名、トピック、学生番号、氏名を明記すること。 ② ネット上の不用意な転用は、剽窃となる事がある。自分の文と他人の文（引用文）を明確に区別し、引用範囲が一見してわかるようにする。引用は出典を書く。 ③ 提出者間で全く酷似したレポートは、再提出を依頼する事がある。 担当者：木下昌巳 レポート70%、平常点30%。
教科書	講義開始日に配布する資料。
参考書	担当者：山本 ペロー『ペロー童話集』（岩波文庫） 担当者：浦部 ・中国文学全般に関する参考文献（抜粋）： 倉石武四郎『中国文学講話』東京：岩波書店1974 ISBN-10: 4469230154 吉川幸次郎『中国文学入門』東京：弘文堂1976 ISBN-10: 406158023X 岩城秀夫『中国文学概論』京都：朋友書店1996 ISBN-10: 4892810479 興膳宏編『中国文学を学ぶ人のために』京都：世界思想社1991 ISBN-10: 479070386X 大木康『中国明清時代の文学』東京：放送大学教育振興会2001 ISBN-10: 4595670303 章培恒・駱玉明主編『中国文学史 新著』（全三冊）上海：復旦大学出版社2007 ISBN: 9787309054620（中国語） 浦部依子『花の中国文学漫歩』（月刊『東方』連載）東京：東方書店1998年3月～99年2月（205号～216号）ISSN: 0910-8904 ・戯曲の日本語訳書（抜粋）： 王昭君（おうしょうくん） 1「還魂記・漢宮秋」宮原民平訳 『国訳漢文大成』文学部第10巻//b 東京：国民文庫刊行會，1921.7 西廂記（せいしょうき） 1「西廂記・琵琶記」宮原民平訳註 『国訳漢文大成』文学部第9巻//a 東京：国民文庫刊行會，1923 2『西廂記』王実甫著、鹽谷節山訳 東京：昌平堂1948 3『新訳西廂記』岸春風楼訳 東京：文教社 1916（大正5年） 4『西廂記』岡島獻太郎訳 東京：團々社書店（発売）1894 琵琶記（びわき） 1「西廂記・琵琶記」宮原民平訳註 『国訳漢文大成』文学部第9巻//a東京：国民文庫刊行會，1923 2「國譯琵琶記」鹽谷温訳註 『国訳漢文大成』文学部第35冊（第9巻の3）東京：国民文庫刊行會，1923 杜麗娘「牡丹亭（ぼたんてい）」 1「還魂記・漢宮秋」宮原民平訳 『国訳漢文大成』文学部第10巻//b 東京：国民文庫刊行會，1921.7 2「還魂記」岩城秀夫訳『戯曲集 下』中国古典文学大系53 東京：平凡社 1971 王美娘「占花魁（おいらんを占む）」 1「売油郎独占花魁」千田九一・駒田信二訳『今古奇観 上』中国古典文学大系37東京：平凡社1970 担当者：木下昌巳 プラトン 著 森進一訳 『競演』（新潮文庫） ソポクレス 著 藤澤令夫訳 『オイディプス王』（岩波文庫） （必要な箇所は授業中に配布するので、各自で購入する必要はありません。）

科目区分	総合文芸学科専門教育科目						
科目名	世界の文芸IA						
担当教員	多賀谷 真吾・武田 良材						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	火曜4	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	近現代のイギリス・ドイツの文学と文化						
授業の概要	<p>担当者：多賀谷 真吾 テーマ：文芸としての英米文学 英米文学における詩と劇の話をする。具体的には、シェイクスピアの劇、ワーズワスのロマン派の詩、そしてマザー・グースなどである。詩を身近に感じて、親しんでもらうことがこの授業の最大目標である。文学としてではなく、文芸としての詩の面白さを紹介するが、そのひとつのやり方として、後半の授業では、詩が映画という他の芸術領域と密接な関係を持つことを指摘する。</p> <p>担当者：武田 良材 テーマ：二つの世界大戦とドイツ文学 20世紀前半に活躍し、今なおドイツ文学界で最も有名なトーマス・マンならびにマン家を取り上げる。ノーベル賞作家トーマス・マン、その兄で、官能的作風の断固たる反戦の闘士ハインリヒ・マン、ナチスに敵対したトーマス・マンの子供たち。彼らの事績から、当時のドイツ文学をめぐる状況が幅広く知られる。同じく侵略国だった日本の文学状況を浮き上がらせる鏡でもある。 受講に際しては、トーマス・マンの長編小説を一つは読んでおくことが望ましい。</p>						
到達目標	近現代のイギリス・ドイツ・ロシア・中国の文学と文化の理解						
授業計画	<p>担当者：多賀谷 真吾 第1回：イントロダクション 第2回：英語の詩ってどんなもの？ 第3回：マザー・グースとは？ 第4回：詩人と自然—ワーズワス 第5回：シェイクスピアの言葉の力 第6回：詩と映画の深い関係（1） 第7回：詩と映画の深い関係（2） 第8回：まとめと結論</p> <p>担当者：武田 良材 第1回：若きトーマス・マンの成功（大衆文学） 第2回：文化対文明の兄弟げんか 第3回：エーリカ・マンとクラウス・マンの反ナチス活動（ナチスの台頭） 第4回：アメリカでの成功（亡命） 第5回：悪魔との契約（第二次世界大戦） 第6回：クラウス・マンのアンガージュマンと絶望（冷戦） 第7回：日本でのナチス文学ならびに亡命ドイツ文学（戦争責任）</p>						
授業外における学習（準備学習の内容）	各授業担当者の指示に従うこと。						
授業方法	2人の講師によるオムニバス形式の講義。						
評価基準と評価方法	出席30%、レポート70%で評価。4人の講師が出した評点の平均値によって成績が決定される。						
教科書	プリントを配布。						
参考書	授業中に紹介。						

科目区分	総合文芸学科専門教育科目						
科目名	世界の文芸IB						
担当教員	柿沼 伸明・浦部 依子						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	火曜4	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	近現代のロシアと中国の文学・文化						
授業の概要	<p>担当者：柿沼 伸明 テーマ：ロシア文化史 18世紀から20世紀にかけてのロシアの歴史、文学、美術、音楽、バレエ、アニメについて概説する。ロシア文学としては、19世紀の二大文豪であるトルストイとドストエフスキーの生涯と作品をとりあげる。音楽と美術は、世界的によく知られた作曲家や画家の作品を実際に鑑賞してみる。また、ロシアで開発されたピンスクリーンアニメ、切り絵アニメ、油絵アニメの制作方法を説明し、その映像効果を直接、味わってみる。</p> <p>担当者：浦部 依子 テーマ：中国近現代文学概論 アヘン戦争（1840）を境として、それまでの中国文化の体系は大きく変化し、内外の複雑な政治状況の中で胚胎した新しい文学は、近代中国の文学の方向を確実に形成していった。本講義は、清朝末期から五・四運動（1919）前までの中国近代文学の状況と。五・四運動から新中国の成立（1949）までの現代文学の状況、およびそれ以降の文芸上の重要事項をとりあげ、中国近現代文学の誕生の周辺とその諸相について講じる。 本講義で取り扱う中国の新しい文学は、文言に替わる口語体の文章の提唱など、中国伝統文学の特質とは異なるものであるが、その一方で変わることのない共通点もある。それは、中国文学はおよそ何れの時代においても、政治を抜きにしては述べ難いという点である。 毎回の講義では各時期の社会背景を概説したのち、二人の作家を取りあげ、作品解釈やディベートなどを通じて、時代と作家が表現しようとしたものについての考察を進めてゆく。</p>						
到達目標	近現代のロシアと中国の文学・文化の理解						
授業計画	<p>担当者：柿沼 伸明 第1回：ロシアのアニメ映画監督の紹介 第2回：ロシア史概観 第3回：19世紀ロシア文学史（トルストイ解説） 第4回：ロシアにおけるバレエの歴史とチャイコフスキー 第5回：19世紀ロシア文学史（ドストエフスキー解説） 第6回：18～20世紀ロシア美術小史 第7回：ロシアにおけるクラシック音楽小史</p> <p>担当者：浦部 依子 *作家と作品は変更することがある。 第1回：中国文学史における近現代文学の位置と特質 第2回：清代後期の社会背景と文学 （龔自珍「詠史」、梁啓超「太平洋遇雨」/「少年中国説」、女流作家秋瑾「滿江紅」） 第3回：中華民国期の社会背景と文学（五四新文化運動とは・胡適・陳独秀・魯迅「狂人日記」） 第4回：中華民国期の文学（女流作家謝冰心「二つの家庭」、魯迅「阿Q正伝」、郭沫若「漂流三部曲・岐路」） 第5回：（小テスト①実施）中華民国期の文学（茅盾「林商店」、巴金「家」、老舍「駱駝祥子」、女流作家丁玲「霞村にいた時」、毛沢東「文芸講話」とは） 第6回：中華人民共和国（新中国）成立期の社会背景と文学（趙樹里「小二黒結婚」/「李有才板話」） 第7回：新中国文革期の文芸（歴史戯曲 吳晗「海瑞罷官」、文化大革命とは・革命現代京劇） 第8回：（小テスト②実施）近現代文学のまとめ</p>						
授業外における学習（準備学習の内容）	各授業担当者の指示に従うこと。						
授業方法	2人の講師によるオムニバス形式の講義						
評価基準と評価方法	出席30%、レポート70%で評価。2人の講師が出した評点の平均値によって成績が決定される。						
教科書	プリントを配布						

参考書	授業中に紹介 (以下、浦部依子先生の授業の参考書) ①吉田富夫『中国現代文学史 一九一五 - 四九』(朋友書店、1997) ②藤井省三、大木康『新しい中国文学史』(ミネルヴァ書房、1997) * 第Ⅱ部「近現代の中国文学」(p.102~) ③魯迅、竹内好訳『阿Q正伝・狂人日記 他十二篇(呐喊)』(岩波書店、1981) ④山田敬三『魯迅の世界』(大修館書店、1977) ⑤丸山昇監修『中国現代文学珠玉選 小説〈1〉～〈3〉』(二玄社、2000~2001) ⑥『中国現代文学選集』20巻(平凡社、1962~1963) ⑦丸山昇、伊藤虎丸、新村徹編『中国現代文学事典』(東京堂出版、1985、1996) ⑧中国文学研究会編『中国新文学事典』(河出文庫、1955)
-----	---

科目区分	総合文芸学科専門教育科目						
科目名	世界の文芸IIA						
担当教員	山本 明美・勝村 弘也・宮田 玲						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	月曜2	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	古典となっている世界の文学や芸術作品について学ぶ。 担当者：山本のテーマは、「ヨーロッパの古典文芸」 担当者：宮田・勝村のテーマは、「古代オリエントの文芸作品」						
授業の概要	3名の担当者による講義である。以下に各担当者による授業の概要を述べる。 担当者：山本明美 ヨーロッパ17世紀末までの古典文芸をおおまかに理解するのが目的。ヨーロッパの古典文芸は、古代ギリシア・ローマ文化とキリスト教文化という二つの潮流の賜物である。これらの潮流がいかに古典の文芸を創造していったかを、こうした時代の社会状況にも触れながら以下の各テーマに焦点を合わせて眺めていく。 担当者：宮田玲・勝村弘也 古代メソポタミア、エジプト、シリア・パレスティナからは多くの文芸作品がわれわれにもたらされており、それらには旧約聖書の物語との関係もうかがえる。講義では、古代メソポタミア（バビロニア、アッシリア）とエジプトから、神話や物語を取り上げる。また、ヒエログリフとエジプト美術についても紹介する。						
到達目標	世界の古典的な作品に親しみ、3年次以降の学びの基礎を作る。						
授業計画	<p>担当者：山本明美</p> <p>第1回 ヨーロッパの歴史・地域・文化</p> <p>第2回 宗教観（天国と地獄、神と恋人）：ダンテ『神曲』</p> <p>第3回 宗教制度・結婚生活：ボッカッチョ『デカメロン』、チョーサー『カンタベリー物語』</p> <p>第4回 愛と服従：ペロー『童話集』</p> <p>第5回 人の生き方：ペロー『童話集』</p> <p>第6回 フランスの新旧論争について</p> <p>第7回 試験</p> <p>担当者：宮田玲（第1－5回、第8回）・勝村弘也（第6－7回）</p> <p>第1回 古代メソポタミアの風土と歴史。エヌマ・エリシュ―バビロニア創造神話―</p> <p>第2回 アトラ・ハシス―大洪水物語―</p> <p>第3回 ギルガメシュ叙事詩―英雄ギルガメシュの生と死―</p> <p>第4回 ハンムラビ法典―古代の判決集―。小テスト。</p> <p>第5回 古代エジプトの風土。ヒエログリフ（その1）。</p> <p>第6回 ヒエログリフ（その2）、古代エジプトの教訓文学、神話。</p> <p>第7回 死者の書。</p> <p>第8回 アテン賛歌、古代エジプト人の生活。</p>						
授業外における学習（準備学習の内容）	配布資料を熟読しておくこと						
授業方法	山本：講義と試験。学生は授業で解説を聞きながら諸作品の要約・抜粋を読み、試験を受ける。 宮田・勝村：講義						
評価基準と評価方法	担当者：山本明美 平常点24%、試験76%を総合評価。 担当者：宮田・勝村 平常点約40%、レポート約60%						
教科書	講義開始日に配布する資料。						
参考書							

科目区分	総合文芸学科専門教育科目						
科目名	世界の文芸IIB						
担当教員	浦部 依子・木下 昌巳						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	月曜2	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	古典となっている世界の文学や芸術作品について学ぶ。 担当者：浦部依子のテーマ：中国古典戯曲のヒロインたち。 担当者：木下昌巳のテーマ：古代ギリシャの文芸						
授業の概要	2名の担当者による講義である。以下に各担当者による授業の概要を述べる。 担当者：浦部依子 中国文学は、伝統的ジャンルの「詩・文」のほか、宋代頃には音楽を伴う「詞（ツイー）」が成長し、元明清には「戯曲・小説」の興隆を見ます。この講義で扱う女性や男女の文学主題は、特にこれらの後発的なジャンルにおいて、いっそうその精彩を放ちました。講義ではまず、中国文学の特質と戯曲文学の位置を講じたのち、毎回ひとつの名作を紹介し、映像資料によるレビューや討論、さらにグループ別の名作の寸劇発表などを通して、中国古典戯曲のヒロインの主体意識を多面的に考察します。 担当者：木下昌巳 古代ギリシアの文芸を概観し、その代表的作品を解説・鑑賞する。古代ギリシアの文化は、ヨーロッパにおいては、学問・芸術など広範囲に渡って、キリスト教と並びヨーロッパ全体の文化全体の源泉というべき地位を担い、多方面に圧倒的な影響を与えてきた。文芸においても、ギリシア古典期に書かれた諸作品は、近代に至るまで古典的規範として仰がれ、時代時代の精神を吹き込まれながら読まれ続け、さまざまな分野の芸術家たちにインスピレーションを与え続けてきたのである。この講義では、古代ギリシアの文芸作品のなかから、プラトンの対話篇『饗宴』を読み、ソポクレスの悲劇『オイディプス王』をDVDを使って鑑賞する。						
到達目標	世界の古典的な作品に親しみ、3年次以降の学びの基礎を作る。						
授業計画	担当者：浦部依子 * 戯曲設定は、変更することがあります。 第1回 a中国文学の特質と古典戯曲文学の位置 b匈奴へ嫁した宮女 王昭君「昭君出塞（しょうくんしゅっさい）」 第2回 メイドがとりもつお嬢様の恋 崔鶯鶯「西廂記（せいしょうき）」 第3回 糠（ぬか）をたべる嫁 趙五娘「琵琶記（びわき）」 第4回 生き返ったお嬢様 杜麗娘「牡丹亭（ぼたんてい）」 第5回 名妓が拾ったまことの恋 王美娘「占花魁（おいらんを占む）」 第6回 (レポート提出) 女性主体意識討論、発表 第7回 発表 担当者：木下昌巳 1、ギリシアの文芸概観 2、文芸と哲学 3、プラトン『饗宴』を読む(1) 人はなぜ恋をするのか？ 4、プラトン『饗宴』を読む(2) 「プラトニック・ラブ」 5、ギリシア悲劇概観 6、ソポクレス『オイディプス王』を鑑賞する(1) 7、ソポクレス『オイディプス王』を鑑賞する(2) 8、ギリシア悲劇と現代思想—オイディプス・コンプレックスについて						
授業外における学習(準備学習の内容)	配布資料を熟読しておくこと						
授業方法	浦部：文学講義（映像資料によるレビューと討論を含む） 文学表現（グループによる名場面の寸劇発表） 木下：講義						
評価基準と評価方法	担当者：浦部依子 平常点約40%、レポート約60% レポート提出に関する注意： ① 授業の戯曲内容に関する自由なトピック、あるいは戯曲1つを中心にして、任意の文字サイズで、A4横書き3頁（片面又は両面）以内に所見をまとめ、教務へ提出のこと。1行目には、講義名、トピック、学生番号、氏名を明記すること。 ② ネット上の不用意な文転用は、剽窃となる事がある。自分の文と他人の文（引用文）を明確に区別し、引用範囲が一見してわかるようにする。引用は出典を書く。 ③ 提出者間で全く酷似したレポートは、再提出を依頼する場合がある。 担当者：木下昌巳 レポート70%、平常点30%。						
教科書	講義開始日に配布する資料。						

<p style="text-align: center;">参考書</p>	<p>担当者：浦部</p> <p>・中国文学全般に関する参考文献（抜粋）：</p> <p>倉石武四郎『中国文学講話』東京：岩波書店1974 ISBN-10: 4469230154 吉川幸次郎『中国文学入門』東京：弘文堂1976 ISBN-10: 406158023X 岩城秀夫『中国文学概論』京都：朋友書店1996 ISBN-10: 4892810479 興膳宏編『中国文学を学ぶ人のために』京都：世界思想社1991 ISBN-10: 479070386X 大木康『中国明清時代の文学』東京：放送大学教育振興会2001 ISBN-10: 4595670303 章培恒・駱玉明主編『中国文学史 新著』（全三冊）上海：復旦大学出版社2007 ISBN: 9787309054620（中国語） 浦部依子「花の中国文学漫歩」（月刊『東方』連載）東京：東方書店1998年3月～99年2月（205号～216号）ISSN: 0910-8904</p> <p>・戯曲の日本語訳書（抜粋）：</p> <p>王昭君（おうしょうくん） 1「還魂記・漢宮秋」宮原民平訳 『国訳漢文大成』文学部第10巻//b 東京：国民文庫刊行會，1921.7 西廂記（せいしょうき） 1「西廂記・琵琶記」宮原民平訳註 『国訳漢文大成』文学部第9巻//a 東京：国民文庫刊行會，1923 2『西廂記』王奕甫著、鹽谷節山訳 東京：昌平堂1948 3『新訳西廂記』岸春風楼訳 東京：文教社 1916（大正5年） 4『西廂記』岡島獻太郎訳 東京：團々社書店（発売）1894 琵琶記（びわき） 1「西廂記・琵琶記」宮原民平訳註 『国訳漢文大成』文学部第9巻//a東京：国民文庫刊行會，1923 2「國譯琵琶記」鹽谷温訳註 『国訳漢文大成』文学部第35冊（第9帙の3）東京：国民文庫刊行會，1923 杜麗娘「牡丹亭（ぼたんてい）」 1「還魂記・漢宮秋」宮原民平訳 『国訳漢文大成』文学部第10巻//b 東京：国民文庫刊行會，1921.7 2「還魂記」岩城秀夫訳『戯曲集 下』中国古典文学大系53 東京：平凡社 1971</p> <p>王美娘「占花魁（おいらんを占む）」 1「売油郎独占花魁」千田九一・駒田信二訳『今古奇観 上』中国古典文学大系37東京：平凡社1970</p> <p>担当者：木下昌巳 プラトン 著 森進一訳 『競演』（新潮文庫） ソポクレス 著 藤澤令夫訳 『オイディプス王』（岩波文庫） （必要な箇所はは授業中に配布するので、各自で購入する必要はありません。）</p>
--	---

科目区分	総合文芸学科専門教育科目						
科目名	卒業研究/Graduation Thesis						
担当教員	柿沼 伸明						
学期	通年/Full Year	曜日・時限	水曜4	配当学年	4	単位数	8.0
授業のテーマ	卒業論文の指導						
授業の概要	卒業論文執筆のための基本作業と細かな文章作法を教え、各人が自分の関心テーマに沿って充実した卒業論文を完成させることを助ける。						
到達目標	卒業論文の完成						
授業計画	<p>第1回：卒業論文提出までの日程・課題の説明する。</p> <p>第2～6回：卒業論文のテーマの見つけ方、参考文献の探し方、卒業論文の書き方、日本語の文章作法等を指導する。</p> <p>第7～15回：受講者各人が卒論原案について口頭発表（1人2回）。お互いに討議し、問題点を指摘し合う。</p> <p>（第14回目に、卒論の章構成・各章内容の箇条書き・参考文献リストを提出すること）</p> <p>第16～20回：論理展開の方法、引用と脚注の仕方など卒論の細則について解説する。受講者は、執筆中の章の内容について詳しく口頭発表せねばならない。</p> <p>（10月中旬までに、少なくとも完成させた卒論の1章を指導教官に提出すること）</p> <p>21回目以降：提出された文章を添削し、論理構成や日本語表現などについて個別に指導する。</p> <p>（書き終えた章はどんどん指導教官のもとに持ってくる。1人3～4回程度、卒論テキストを校閲する。最終的にOKが出されたとき初めて、卒論制作が終了する）</p> <p>1月中旬：卒論を教務課に提出。</p> <p>（OKの出されていない卒論制作者は、引き続き作業を継続すること。OKの出た卒論も、もう一度精読する）</p>						
授業外における学習（準備学習の内容）	卒論のテーマが定まったならば、関連書籍・論文をどんどん読んでいくこと。						
授業方法	初めは講義、原稿をもってきた段階から文章添削と個別指導。						
評価基準と評価方法	出席20%、卒業論文の内容80%で評価。						
教科書							
参考書							

科目区分	総合文芸学科専門教育科目						
科目名	卒業研究/Graduation Thesis						
担当教員	勝村 弘也						
学期	通年/Full Year	曜日・時限	水曜1	配当学年	4	単位数	8.0
授業のテーマ	卒業研究の指導						
授業の概要	研究テーマの設定、各自のテーマに応じた研究方法の指導、論文の書き方などを指導する。						
到達目標	適切なテーマを設定して、論文の形式にまとめあげること。						
授業計画	前期は、卒業年次学生の関心に対応した文献の講読を中心とする。研究の方向性を見出し、それに対応した研究方法を考える。前期末までに主要な参考文献を確定する。 後期は、個別指導を原則とする。11月に中間発表を行う。						
授業外における学習（準備学習の内容）	各自で必要なフルドワークを行ったり、参考文献を読む。						
授業方法	講義形式、読書会形式、個別指導、学生の研究発表など。						
評価基準と評価方法	卒業研究の結果のみ（100パーセント）で評価する。						
教科書							
参考書							

科目区分	総合文芸学科専門教育科目						
科目名	卒業研究/Graduation Thesis						
担当教員	勝村 弘也						
学期	通年/Full Year	曜日・時限	水曜4	配当学年	4	単位数	8.0
授業のテーマ	卒業研究の指導						
授業の概要	研究テーマの設定、各自のテーマに応じた研究方法の指導、論文の書き方などを指導する。						
到達目標	適切なテーマを設定して、論文の形式にまとめあげること。						
授業計画	前期は、卒業年次学生の関心に対応した文献の講読を中心とする。研究の方向性を見出し、それに対応した研究方法を考える。前期末までに主要な参考文献を確定する。 後期は、個別指導を原則とする。11月に中間発表を行う。						
授業外における学習（準備学習の内容）	各自で必要なフルドワークを行ったり、参考文献を読む。						
授業方法	講義形式、読書会形式、個別指導、学生の研究発表など。						
評価基準と評価方法	卒業研究の結果のみ（100パーセント）で評価する。						
教科書							
参考書							

科目区分	総合文芸学科専門教育科目						
科目名	卒業研究/Graduation Thesis						
担当教員	木村 勲						
学期	通年/Full Year	曜日・時限	金曜4	配当学年	4	単位数	8.0
授業のテーマ	論文の書き方						
授業の概要	演習。10月までは順番に各自の進捗状況を報告、11月から個別指導。						
到達目標	「論文」といえる論文の完成。						
授業計画	1 心構え：学業の仕上げと就職活動について 2 論文の書き方① 章・節構成など。 3 論文の書き方② 文献調査法、脚注の付し方など(以上、当方説明) 4—9 各回2人ずつ、自己のテーマについて概要報告。 10—15 各回2人ずつ、より具体化した2度目の報告。 16—18 各回4人ずつ、夏休みの成果報告。 19—30 各回数人ずつ文章指導(該当者以外の者は真摯・静粛に自習)						
授業外における学習(準備学習の内容)	自己のテーマの基本文献を読み込む。						
授業方法	1学期は全員相手に一葉への関心を報告。2学期からは個別指導。						
評価基準と評価方法	論文のでき(100点満点で)。						
教科書							
参考書							

科目区分	総合文芸学科専門教育科目						
科目名	卒業研究/Graduation Thesis						
担当教員	宗像 衣子						
学期	通年/Full Year	曜日・時限	木曜2	配当学年	4	単位数	8.0
授業のテーマ	卒論を書こう						
授業の概要	文学・芸術・文化（近現代中心、欧米－日本中心） 各学生の関心に沿ったテーマによる卒業論文の作成を目指して個別指導する。						
到達目標	卒論完成						
授業計画	完全個別指導。各学生と相談し、日時（場所）、内容、回数を決めます。						
授業外における学習（準備学習の内容）	卒論制作						
授業方法	演習						
評価基準と評価方法	平常点20%、論文80%						
教科書							
参考書							

科目区分	総合文芸学科専門教育科目						
科目名	卒業研究/Graduation Thesis						
担当教員	村上 知彦						
学期	通年/Full Year	曜日・時限	金曜4	配当学年	4	単位数	8.0
授業のテーマ	雑誌・出版とメディア文化 卒業研究および卒論指導						
授業の概要	雑誌・出版とメディア文化に関わるテーマについての、卒業研究の個人発表および関連テキストの講読。発表と全体討論、および個別指導による卒業論文の執筆指導。						
到達目標	卒業研究の主題となる問題を発見し、発表・討論をふまえて卒業論文を書き上げる。						
授業計画	<p>前期</p> <p>(1) 卒業研究の進め方 (2) ~ (3) 卒業論文の書き方・文章作法の指導 (4) ~ (9) 卒論テーマについての第1回口頭発表、関連文献講読、全体討論 (10) ~ (14) 卒論テーマについての第2回口頭発表、討論と個別指導、卒論原案作成 (15) 卒論原案についての全体指導</p> <p>後期</p> <p>(16) ~ (18) 夏休み期間の研究状況報告と中間発表 (19) ~ (26) 個別指導、仮提出、論点・構成および文章指導 (27) ~ (28) 全体試問、修正指導 (29) ~ (30) 提出論文の発表、再提出指導</p>						
授業外における学習(準備学習の内容)	授業前学習：文献探索、調査などを積極的におこなう。 授業後学習：討論での意見、教員の指導を積極的に活用する。						
授業方法	演習形式および個別指導						
評価基準と評価方法	卒業論文80%、中間発表および研究に取り組む姿勢20%						
教科書	「勝つための論文の書き方」鹿島茂、文春新書 ISBN4-16-660295-0 「論文の教室 レポートから卒論まで」戸田山和久、日本放送出版協会 ISBN 978-4-14-001954-2						
参考書	「よくわかるメディアスタディーズ」伊藤守編著、ミネルヴァ書房 ISBN 978-4623052066 その他、各人のテーマに応じて授業中に紹介します。						

科目区分	総合文芸学科専門教育科目						
科目名	卒業研究/Graduation Thesis						
担当教員	山田 道夫						
学期	通年/Full Year	曜日・時限	水曜4	配当学年	4	単位数	8.0
授業のテーマ	卒業研究・論文作成の指導						
授業の概要	文芸第一演習Ⅳを修得した者を対象に、神話の文芸を題材とする比較文学・文芸批評的研究の領域において、卒業研究および卒業論文作成を指導する。						
到達目標	受講生各自が選択した主要テキストを綿密に読解考察し、参考文献を探索調査して、自分なりの問題を見出し、有意味で総合的な解答を構築するという作業を完遂することが到達すべき目標です。これによって、これまでさまざまな授業で積み上げてきた「読んで考える力、考えて書く力」に総仕上げを施すことになる。						
授業計画	<p>前期</p> <p>第1回 インタロダクションー卒業研究と卒業論文について</p> <p>第2回 広い研究トピックの選定(1)</p> <p>第3回 広い研究トピックの選定(2)</p> <p>第4回 主要テキストの選定(1)</p> <p>第5回 主要テキストの選定(2)</p> <p>第6回 主要テキストの選定(3)</p> <p>第7回 参考文献の探索(1)</p> <p>第8回 参考文献の探索(2)</p> <p>第9回 主要テキストの解題と参考文献リストの作成</p> <p>第10回 問題の探索(1)</p> <p>第11回 問題の探索(2)</p> <p>第12回 問題の探索(3)</p> <p>第13回 先行研究・資料の収集(1)</p> <p>第14回 先行研究・資料の収集(2)</p> <p>第15回 問題の絞込みと夏休み期間中の研究計画</p> <p>後期</p> <p>第1回 第一次草稿提出</p> <p>第2回 中間報告会(1)</p> <p>第3回 中間報告会(2)</p> <p>第4回 個別指導による研究の展開と執筆</p> <p>第5回 個別指導による研究の展開と執筆</p> <p>第6回 個別指導による研究の展開と執筆</p> <p>第7回 個別指導による研究の展開と執筆</p> <p>第8回 個別指導による研究の展開と執筆</p> <p>第9回 個別指導による研究の展開と執筆</p> <p>第10回 個別指導による研究の展開と執筆</p> <p>第11回 第二次草稿提出</p> <p>第12回 提出前点検</p> <p>第13回 提出前点検</p> <p>第14回 卒業論文試問</p> <p>第15回 卒業論文試問</p>						
授業外における学習(準備学習の内容)	卒業研究は卒業年次の大半の時間をあてて取り組むべき授業である。授業外における広範な文献・資料調査が要求される。						
授業方法	前期は演習形式で、順番に経過報告・発表しながらディスカッションする。後期は中間報告会のあとは個別指導による研究の展開と執筆。毎週2～3名ずつ面談する。						
評価基準と評価方法	卒業研究への取り組み30%、提出された卒業論文の出来具合70%で評価する。						
教科書	授業時に指示する。						

参考書	授業時に指示する。
-----	-----------

科目区分	総合文芸学科専門教育科目						
科目名	卒業研究/Graduation Thesis						
担当教員	山田 道夫						
学期	集中講義	曜日・時限	集中1	配当学年	4	単位数	8.0
授業のテーマ	卒業研究・論文作成の指導						
授業の概要	文芸第一演習Ⅳを修得した者を対象に、神話の文芸を題材とする比較文学・文芸批評的研究の領域において、卒業研究および卒業論文作成を指導する。						
到達目標	受講生各自が選択した主要テキストを綿密に読解考察し、参考文献を探索調査して、自分なりの問題を見出し、有意義で整合的な解答を構築するという作業を完遂することが到達すべき目標です。これによって、これまでさまざまな授業で積み上げてきた「読んで考える力、考えて書く力」に総仕上げを施すことになる。						
授業計画	第1回 インTRODakションー卒業研究と卒業論文について 第2回 広い研究トピックの選定(1) 第3回 広い研究トピックの選定(2) 第4回 主要テキストの選定(1) 第5回 主要テキストの選定(2) 第6回 主要テキストの選定(3) 第7回 参考文献の探索(1) 第8回 参考文献の探索(2) 第9回 主要テキストの解題と参考文献リストの作成 第10回 問題の探索(1) 第11回 問題の探索(2) 第12回 問題の探索(3) 第13回 先行研究・資料の収集(1) 第14回 先行研究・資料の収集(2) 第15回 問題の絞込みと夏休み期間中の研究計画 第16回 第一次草稿提出 第17回 中間報告会(1) 第18回 中間報告会(2) 第19回 個別指導による研究の展開と執筆 第20回 個別指導による研究の展開と執筆 第21回 個別指導による研究の展開と執筆 第22回 個別指導による研究の展開と執筆 第23回 個別指導による研究の展開と執筆 第24回 個別指導による研究の展開と執筆 第25回 個別指導による研究の展開と執筆 第26回 第二次草稿提出 第27回 提出前点検 第28回 提出前点検 第29回 卒業論文試問 第30回 卒業論文試問						
授業外における学習(準備学習の内容)	卒業研究は卒業年次の大半の時間をあてて取り組むべき授業である。授業外における広範な文献・資料調査が要求される。						
授業方法	前期は演習形式で、順番に経過報告・発表しながらディスカッションする。後期は中間報告会のあとは個別指導による研究の展開と執筆。毎週2～3名ずつ面談する。						
評価基準と評価方法	卒業研究への取組み30%、提出された卒業論文の出来具合70%で評価する。						
教科書	授業時に指示する。						
参考書	授業時に指示する。						

科目区分	総合文芸学科専門教育科目						
科目名	比較文化I／比較文化論I						
担当教員	宗像 衣子						
学期	通年／Full Year	曜日・時限	火曜2	配当学年	2～4	単位数	4.0
授業のテーマ	文芸と文化						
授業の概要	<p>文学・芸術等を広い視野から深く吟味する能力を養うために、文芸を生み出す「文化」、また文芸によって築かれてゆく「文化」について考察する必要がある。日本文化を比較的に捉え直すことも目指して、西洋の諸文化との比較検討を行う。</p> <p>ここでは、日本と他の国（フランスを中心にヨーロッパ・アメリカ諸国）とのつながりを見る比較研究、そして諸ジャンル（文学・美術・音楽・演劇・社会・思想・歴史等）の間の関連を探る比較研究を、現代文化へと開かれる「19世紀文芸・文化、アール・ヌーヴォー、ジャポニスム」を中心にして、試みたい。</p> <p>このようにして、様々な作品や文化を視聴覚教材も加えて見たり聴いたり読んだりしながら、私たちにとって身近な親しい事柄の源に、思いもかけず出会えます。</p>						
到達目標	私たちの日常の生活や関心がどのような幅広い奥深い歴史をもっているかを発見しながら、多様な文化・文学・芸術に接する楽しみ・よろこびを豊かに味わいましょう。						
授業計画	<p>以下、授業の性質上、受講生の実践状況等によって修正されることがある。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 オリエンテーション 2 19世紀西欧文化 3 西欧文化と日本文化 4 序論・歴史状況 欧米と日本1（フランス・ベルギー） 5 欧米と日本2（ドイツ・オーストリア） 6 欧米と日本3（イギリス・アメリカ） 7 欧米と日本4（スペイン・イタリア） 8 欧米と日本5（日本） 9 総論・文芸の全体 欧米と日本1（フランス・ベルギー） 10 欧米と日本2（ドイツ・オーストリア） 11 欧米と日本3（イギリス・アメリカ） 12 欧米と日本4（スペイン・イタリア） 13 欧米と日本5（日本） 14 まとめ 15 学習の展望 <ol style="list-style-type: none"> 16 研究ガイダンス 17 各論・個別の芸術家や作品 18 欧米と日本1（フランス） 19 欧米と日本2（ベルギー） 20 欧米と日本3（ドイツ） 21 欧米と日本4（オーストリア） 22 欧米と日本5（イギリス） 23 欧米と日本6（アメリカ） 24 欧米と日本7（スペイン） 25 欧米と日本8（イタリア） 26 欧米と日本9（日本） 27 世紀末文化・芸術の射程 28 比較文化の成果と意義 29 研究の展望 30 総合 						
授業外における学習（準備学習の内容）	課題学習						
授業方法	講義と演習						
評価基準と評価方法	平常点75%、レポート等25%						

教科書	授業中に関連資料や参考書を紹介・配付する。
参考書	ジャポニズム 大島清次著（講談社学術文庫）

科目区分	総合文芸学科専門教育科目						
科目名	比較文化III／比較文化論III						
担当教員	柿沼 伸明						
学期	通年／Full Year	曜日・時限	月曜3	配当学年	2～4	単位数	4.0
授業のテーマ	映画に見る現代社会						
授業の概要	授業内容：映画を鑑賞しながら、世界各国の社会や文化の様相を理解することを目的とします。グローバル化した複雑な現代社会を理解するためには、世界の地域地域の個別的な歴史的・社会的な事情を把握しておく必要があります。他方、優れた映画は、それぞれの社会を映す鏡のような存在です。映画のなかで描き出された社会の固有のありさまを、専門書の読書によって理解し、現在、自分の置かれている状況と比較しながら考えてみてください。鑑賞する映画作品は、日本も含め、できる限り世界各国を網羅する予定です。						
到達目標	映像を通しての現代世界の理解						
授業計画	1回 授業概要と成績評価基準の説明 2回 『北京バイオリン』の背景（現代中国の巨大な社会格差）解説 3回 『北京バイオリン』鑑賞 4回 『北京バイオリン』鑑賞後の解説、感想文記入 5回 『グッバイ、レーニン』の背景（1989年の東欧革命と1990年のドイツ統一）解説 6回 『グッバイ、レーニン』鑑賞後の解説、感想文記入 7回 『女はみんな生きている』の背景（現代フランスの移民問題、あるいはマグレブ差別）解説 8回 『女はみんな生きている』鑑賞後の解説、感想文記入 9回 『逆噴射家族』の背景（1980年代の日本の家族形態の変化、または家族の絆の危機）解説 10回 『逆噴射家族』鑑賞後の解説、感想文記入 11回 『ウォール街』の背景（1980年代のアメリカの金融資本主義醸成と拝金主義）解説 12回 『ウォール街』鑑賞 13回 『ウォール街』鑑賞後の解説、感想文記入 14回 『不適切な真実』の背景（現代世界を脅かす地球温暖化）解説 15回 『不適切な真実』鑑賞後の解説、感想文記入 16回 『Always 三丁目の夕日』の背景（1950年代後半の日本の高度成長期における地域社会の絆）解説 17回 『Always 三丁目の夕日』鑑賞後の解説、感想文記入 18回 『ブラッド・ダイヤモンド』の背景（1990年代アフリカ小国シエラレオネの内戦と資源搾取の状況）解説 19回 『ブラッド・ダイヤモンド』鑑賞 20回 『ブラッド・ダイヤモンド』鑑賞後の解説、感想文記入 21回 『猟奇的な彼女』の背景（現代韓国の社会事情）解説 22回 『猟奇的な彼女』鑑賞後の解説、感想文記入 23回 『モスクワは涙を信じない』の背景（1950年代後半～70年代後半のソ連の市民生活）解説 24回 『モスクワは涙を信じない』鑑賞 25回 『モスクワは涙を信じない』鑑賞後の解説、感想文記入 26回 『中国の小さなお針子』の背景（1970年代初頭の文革期中国の下放政策と改革開放後の現代中国）解説 27回 『中国の小さなお針子』鑑賞後の解説、感想文記入 28回 『遠い夜明け』の背景（1980年代の南アフリカ共和国の人種隔離政策と人権闘争）解説 29回 『遠い夜明け』鑑賞 30回 『遠い夜明け』鑑賞後の解説、感想文記入						
授業外における学習（準備学習の内容）	興味をもった映画で描かれた社会・歴史に関する専門書2冊以上を読むこと。						
授業方法	映画に映し出された現実の歴史的・社会的背景を理解してもらうための講義。						
評価基準と評価方法	映画鑑賞後の感想文20%、レポート（前期後期1回ずつ）80%。						
教科書	毎回、解説プリントを配布します。						
参考書							

科目区分	総合文芸学科専門教育科目						
科目名	比較文化Ⅳ／比較文化論Ⅳ						
担当教員	植 朗子						
学期	通年／Full Year	曜日・時限	水曜3	配当学年	2～4	単位数	4.0
授業のテーマ	悲恋の女性像						
授業の概要	映画・オペラ・演劇などに登場する〈悲恋の女性像〉をテーマとします。片思い、失恋、恋人との別離、恋愛によって不幸にみまわれるなど、悲恋には多くの種類がありますが、本授業では、恋愛成就を妨げる障害と、その原因となっている文化的・社会的背景をとくに取り上げます。DVDなどを視聴し、具体的な〈悲恋の女性像〉にまつわる諸作品を見て理解を深めていただきます。						
到達目標	〈悲恋の女性像〉にかんする諸作品を通じて、悲恋の原因がどのように描かれているか検証することによって、さまざまな文化の比較と、その諸相について明らかにします。						
授業計画	<p>○前期</p> <p>第1回 主旨説明</p> <p>第2回 『ローマの休日』</p> <p>第3回 『王様と私』①</p> <p>第4回 『王様と私』②</p> <p>第5回 『ロミオとジュリエット』①</p> <p>第6回 『ロミオとジュリエット』②</p> <p>第7回 『トリスタンとイゾルデ』①</p> <p>第8回 『トリスタンとイゾルデ』②</p> <p>第9回 『オペラ座の怪人』①</p> <p>第10回 『オペラ座の怪人』②</p> <p>第11回 『エリザベート』①</p> <p>第12回 『エリザベート』②</p> <p>第13回 『エリザベート』③</p> <p>第14回 『ヴァン・ヘルシング』</p> <p>第15回 質疑応答と試験</p> <p>○後期</p> <p>第1回 主旨説明</p> <p>第2回 『蝶々夫人』①</p> <p>第3回 『蝶々夫人』②</p> <p>第4回 『ピアノ・レッスン』</p> <p>第5回 『トニー滝谷』①</p> <p>第6回 『トニー滝谷』②</p> <p>第7回 『時をかける少女』</p> <p>第8回 『ムーラン・ルーージュ』①</p> <p>第9回 『ムーラン・ルーージュ』②</p> <p>第10回 『椿姫』</p> <p>第11回 『ハムレット』①</p> <p>第12回 『ハムレット』②</p> <p>第13回 『さまよえるオランダ人』①</p> <p>第14回 『さまよえるオランダ人』②</p> <p>第15回 質疑応答と試験</p>						
授業外における学習（準備学習の内容）	特になし。						
授業方法	講義。						
評価基準と評価方法	テスト60% 平常点40%						
教科書	なし（プリントを配布します）。						

参考書	特になし。
-----	-------

科目区分	総合文芸学科専門教育科目						
科目名	比較文化V／比較文化論V						
担当教員	光田 和伸						
学期	通年／Full Year	曜日・時限	金曜1	配当学年	2～4	単位数	4.0
授業のテーマ	前期：衣服の歴史 後期：家庭の火と明かり						
授業の概要	前期：私たちの先祖が身につけた衣服の素材と仕立て方をふり返ります。 後期：調理と灯火の歴史について考えます。						
到達目標	前期：衣服がたんに消費されるものになるまえの、自分で生産するものもであった時代を知って、人間らしい生活とはなにかについて考えます。 後期：熱源と光源とを自給していた時代をふり返り、現在のエネルギー問題の将来について考える一助とします。						
授業計画	<p>前期：テキストとして『木綿以前の事』(柳田国男)を使い、次の章を購読します。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 「自序」「解説」 2 「木綿以前の事」① 3 「木綿以前の事」② 4 「何を着ていたか」① 5 「何を着ていたか」② 6 「働く人の着物」 7 「団子と昔話」 8 「餅と臼と搗鉢」① 9 「餅と臼と搗鉢」② 10 「餅と臼と搗鉢」③ 11 「囲炉俵談」 12 「火吹竹のことなど」 13 「女と煙草」 14 「酒の飲みやうの変遷」① 15 「酒の飲みやうの変遷」② <p>後期：テキストとして『火の昔』(柳田国男)を使い、次の章を購読します。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 「自序」と解説 2 「闇と月夜」「挑灯の形」 3 「蠟燭の変遷」「炬火の起り」 4 「盆の火」「灯籠と蠟燭」 5 「家の灯火」「油と行灯」 6 「灯芯と灯明皿」「油屋の発生」 7 「ランプと石油」「松のヒデ」 8 「松とうがい」「屋外の灯火」 9 「火の番と火事」「火を大切にする人」 10 「火を作る法」「ほくち及びたきつけ」 11 「硫黄付木と火吹竹」「民の煙」 12 「柴と割木」「火を留める」 13 「ほだと埋火」「炉端の作法」 14 「下座と木尻」「火を焚く楽しみ」 15 「火正月」「炉の鉤のいろいろ」 						
授業外における学習(準備学習の内容)	未知の語彙、事項は、できるだけ調べておいてください。						
授業方法	購読形式ですが、スローリーディングに徹します。						
評価基準と評価方法	レポートを予定しています。						
教科書	授業の冒頭で指示します。						

参考書	柳田国男の著作類。
-----	-----------

科目区分	総合文芸学科専門教育科目						
科目名	比較文化Ⅶ / (広報広告論)						
担当教員	西川 純司						
学期	通年 / Full Year	曜日・時限	水曜4	配当学年	2~4	単位数	4.0
授業のテーマ	広告活動の理解 / 社会のなかの広告：文化・都市・メディア						
授業の概要	<p>前期の講義では、広告活動についての基本的な知識を習得することを目指します。私たちはふつう広告を受け取る側において、それがどのようにして制作されているのかを知る機会がほとんどありません。しかし、広告が私たちに届けられるまでには多くの人や組織が関わり、多大な時間とお金がかけています。講義では、こうした広告活動を理解するために必要な、広告の定義や分類、広告計画のインプットからアウトプットの過程、さらには広告関連の法規や規制などの基礎的な知識を学びます。実際にテレビCMや雑誌広告、ネット広告などを見ながら解説していきたいと思います。</p> <p>後期の講義では、「社会のなかの広告」をテーマに、いかに広告が社会と結びついているかを考えます。とりわけ、文化、都市、メディアという3つの観点から、社会学的な知見を参照しつつ、それぞれ具体的なトピックを取り上げて検討していきます。実際の広告物を取り上げて、それを批判的に捉えてみることもします。また、実際に広告をつくることにも挑戦してもらいます。講義の進め方として、毎回テーマに沿ったかたちで講義を行うだけでなく、文章を読んだり映画鑑賞したうえでグループで議論をする機会を設けます。</p>						
到達目標	<p>前期を受講することで、広告の送り手（広告主・広告会社）がどのような流れで広告を制作しているのか、その実務的なプロセスについて体系的な知識を習得することができます。実際の広告物を専門用語を使って分析し、体系的に説明できるようになることを目指します。また、グループワークを通じて、自分で考え、発言し、議論する力が鍛えられます。</p> <p>後期を受講することで、広告をその背後にある「社会」と関連づけて分析できるだけの広い視野と考察力を身につけることができます。また、他者の文章を正確に読解したり、映画の内容を読み解くなかで、それらに対する自分の考え方をまとめ、発言し、他の受講生と議論する力の向上を図ります。さらに、広告の本質を理解したうえで、自分で簡単な広告をつくるできるようになります。</p>						
授業計画	<p>前期</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 イン트로ダクション 2 広告とは何か 3 マーケティング計画と広告 4 広告主と広告会社の組織構造 5 広告計画の構造と調査 6 広告戦略の立案 7 広告予算の決定方法 8 広告コミュニケーション過程と効果 9 広告表現の計画 10 広告媒体の計画 11 ブランド・コミュニケーション 12 広告効果の測定/広告関連の法規と規制 13 インターネット広告 14 課題レポート検討会 15 まとめ <p>後期</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 イン트로ダクション：社会における広告 2 文化と広告(1)：若者の消費 3 文化と広告(2)：若者女性の消費 4 文化と広告(3)：「消費しない若者」論と若者のリアル 5 広告のいま：広告鑑賞(1) 6 都市と広告(1)：映画鑑賞 『トゥルーマン・ショー』 7 都市と広告(2)：映画鑑賞 『トゥルーマン・ショー』 8 都市と広告(3)：テーマパークと広告 9 広告のいま：広告鑑賞(2) 10 メディアと広告(1)：広告をつくる 11 メディアと広告(2)：広告をつくる 12 メディアと広告(3)：広告をつくる 13 メディアと広告(4)：広告をつくる 14 制作課題発表会 15 まとめ 						
授業外における学習(準備学習の内容)	<p>授業の前後に参考書を読んでおくと理解が深まります。また、簡単な宿題を出すことがあるので、その時はしっかりと取り組んでほしいと思います。</p> <p>日常的に広告を意識するようになっておくと、レポート作成や制作課題に役立ちます。</p>						
授業方法	<p>講義を中心としますが、テレビCMや映画などの映像を観たり、簡単なグループワークをする機会も多く設けます。</p>						

評価基準と評価方法	中間レポート 35%、期末制作課題 35%、平常点（欠席した場合は減点）30%、で評価します。
教科書	毎回プリントを配布します。
参考書	前期のみ 『現代広告論 [新版]』、岸志津江・田中洋・嶋村和恵、有斐閣、ISBN978-4-641-12356-4

科目区分	総合文芸学科専門教育科目						
科目名	比較文化IA						
担当教員	宗像 衣子						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	火曜2	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	文芸と文化						
授業の概要	<p>文学・芸術等を広い視野から深く吟味する能力を養うために、文芸を生み出す「文化」、また文芸によって築かれてゆく「文化」について考察する必要がある。日本文化を比較的に捉え直すことをも目指して、西洋の諸文化との比較検討を行う。</p> <p>ここでは、日本と他の国（フランスを中心にヨーロッパ・アメリカ諸国）とのつながりを見る比較研究、そして諸ジャンル（文学・美術・音楽・演劇・社会・思想・歴史等）の間の関連を探る比較研究を、現代文化へと開かれる「19世紀文芸・文化、アール・ヌーヴォー、ジャポニスム」を中心にして、試みたい。</p> <p>このようにして、様々な作品や文化を視聴覚教材も加えて見たり聴いたり読んだりしながら、私たちににとって身近な親しい事柄の源に、思いもかけず出会えます。</p>						
到達目標	私たちの日常の生活や関心がどのような幅広い奥深い歴史をもっているかを発見しながら、多様な文化・文学・芸術に接する楽しみ・よろこびを豊かに味わいましょう。						
授業計画	<p>以下、授業の性質上、受講生の実践状況等によって修正されることがある。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 オリエンテーション 2 19世紀西欧文化 3 西欧文化と日本文化 4 序論・歴史状況 欧米と日本1（フランス・ベルギー） 5 欧米と日本2（ドイツ・オーストリア） 6 欧米と日本3（イギリス・アメリカ） 7 欧米と日本4（スペイン・イタリア） 8 欧米と日本5（日本） 9 総論・文芸の全体 欧米と日本1（フランス・ベルギー） 10 欧米と日本2（ドイツ・オーストリア） 11 欧米と日本3（イギリス・アメリカ） 12 欧米と日本4（スペイン・イタリア） 13 欧米と日本5（日本） 14 まとめ 15 学習の展望 						
授業外における学習（準備学習の内容）	課題学習						
授業方法	講義と演習						
評価基準と評価方法	平常点75%、レポート等25%						
教科書	授業中に関連資料や参考書を紹介・配付する。						
参考書	ジャポニスム 大島清次著（講談社学術文庫）						

科目区分	総合文芸学科専門教育科目						
科目名	比較文化IB						
担当教員	宗像 衣子						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	火曜2	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	文芸と文化						
授業の概要	<p>文学・芸術等を広い視野から深く吟味する能力を養うために、文芸を生み出す「文化」、また文芸によって築かれてゆく「文化」について考察する必要がある。日本文化を比較的に捉え直すことも目指して、西洋の諸文化との比較検討を行う。</p> <p>ここでは、日本と他の国（フランスを中心にヨーロッパ・アメリカ諸国）とのつながりを見る比較研究、そして諸ジャンル（文学・美術・音楽・演劇・社会・思想・歴史等）の間の関連を探る比較研究を、現代文化へと開かれる「19世紀文芸・文化、アール・ヌーヴォー、ジャポニスム」を中心にして、試みたい。</p> <p>このようにして、様々な作品や文化を視聴覚教材も加えて見たり聴いたり読んだりしながら、私たちににとって身近な親しい事柄の源に、思いもかけず出会えます。</p>						
到達目標	私たちの日常の生活や関心がどのような幅広い奥深い歴史をもっているかを発見しながら、多様な文化・文学・芸術に接する楽しみ・よろこびを豊かに味わいましょう。						
授業計画	<p>以下、授業の性質上、受講生の実践状況等によって修正されることがある。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 研究ガイダンス 2 各論・個別の芸術家や作品 3 欧米と日本1（フランス） 4 欧米と日本2（ベルギー） 5 欧米と日本3（ドイツ） 6 欧米と日本4（オーストリア） 7 欧米と日本5（イギリス） 8 欧米と日本6（アメリカ） 9 欧米と日本7（スペイン） 10 欧米と日本8（イタリア） 11 欧米と日本9（日本） 12 世紀末文化・芸術の射程 13 比較文化の成果と意義 14 研究の展望 15 総合 						
授業外における学習（準備学習の内容）	課題学習						
授業方法	講義と演習						
評価基準と評価方法	平常点75%、レポート等25%						
教科書	授業中に関連資料や参考書を紹介・配付する。						
参考書	ジャポニスム 大島清次著（講談社学術文庫）						

科目区分	総合文芸学科専門教育科目						
科目名	比較文化IIA						
担当教員	柿沼 伸明						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	月曜3	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	映画に見る現代社会						
授業の概要	授業内容：映画を鑑賞しながら、世界各国の社会や文化の様相を理解することを目的とします。グローバル化した複雑な現代社会を理解するためには、世界の地域地域の個別的な歴史的・社会的な事情を把握しておく必要があります。他方、優れた映画は、それぞれの社会を映す鏡のような存在です。映画のなかで描き出された社会の固有のありさまを、専門書の読書によって理解し、現在、自分の置かれている状況と比較しながら考えてみてください。鑑賞する映画作品は、日本も含め、できる限り世界各国を網羅する予定です。						
到達目標	映像を通しての現代世界の理解						
授業計画	1回 授業概要と成績評価基準の説明 2回 『北京バイオリン』の背景（現代中国の巨大な社会格差）解説 3回 『北京バイオリン』鑑賞 4回 『北京バイオリン』鑑賞後の解説、感想文記入 5回 『グッバイ、レーニン』の背景（1989年の東欧革命と1990年のドイツ統一）解説 6回 『グッバイ、レーニン』鑑賞後の解説、感想文記入 7回 『女はみんな生きている』の背景（現代フランスの移民問題、あるいはマグレブ差別）解説 8回 『女はみんな生きている』鑑賞後の解説、感想文記入 9回 『逆噴射家族』の背景（1980年代の日本の家族形態の変化、または家族の絆の危機）解説 10回 『逆噴射家族』鑑賞後の解説、感想文記入 11回 『ウォール街』の背景（1980年代のアメリカの金融資本主義醸成と拝金主義）解説 12回 『ウォール街』鑑賞 13回 『ウォール街』鑑賞後の解説、感想文記入 14回 『不適切な真実』の背景（現代世界を脅かす地球温暖化）解説 15回 『不適切な真実』鑑賞後の解説、感想文記入						
授業外における学習（準備学習の内容）	興味をもった映画で描かれている社会・歴史に関する専門書2冊以上を読むこと。						
授業方法	映画に映し出された現実の歴史的・社会的背景を理解してもらうための講義。						
評価基準と評価方法	映画鑑賞後の感想文20%、レポート（前期後期1回ずつ）80%。						
教科書	毎回、解説プリントを配布します。						
参考書							

科目区分	総合文芸学科専門教育科目						
科目名	比較文化IIB						
担当教員	柿沼 申明						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	月曜3	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	映画に見る現代社会						
授業の概要	授業内容：映画を鑑賞しながら、世界各国の社会や文化の様相を理解することを目的とします。グローバル化した複雑な現代社会を理解するためには、世界の地域地域の個別的な歴史的・社会的な事情を把握しておく必要があります。他方、優れた映画は、それぞれの社会を映す鏡のような存在です。映画のなかで描き出された社会の固有のありさまを、専門書の読書によって理解し、現在、自分の置かれている状況と比較しながら考えてみてください。鑑賞する映画作品は、日本も含め、できる限り世界各国を網羅する予定です。						
到達目標	映像を通しての現代世界の理解						
授業計画	1回 『Always 三丁目の夕日』の背景（1950年代後半の日本の高度成長期における地域社会の絆）解説 2回 『Always 三丁目の夕日』鑑賞後の解説、感想文記入 3回 『ブラッド・ダイヤモンド』の背景（1990年代アフリカ小国シエラレオネの内戦と資源搾取の状況）解説 4回 『ブラッド・ダイヤモンド』鑑賞 5回 『ブラッド・ダイヤモンド』鑑賞後の解説、感想文記入 6回 『猟奇的な彼女』の背景（現代韓国の社会事情）解説 7回 『猟奇的な彼女』鑑賞後の解説、感想文記入 8回 『モスクワは涙を信じない』の背景（1950年代後半～70年代後半のソ連の市民生活）解説 9回 『モスクワは涙を信じない』鑑賞 10回 『モスクワは涙を信じない』鑑賞後の解説、感想文記入 11回 『中国の小さなお針子』の背景（1970年代初頭の文革期中国の下放政策と改革開放後の現代中国）解説 12回 『中国の小さなお針子』鑑賞後の解説、感想文記入 13回 『遠い夜明け』の背景（1980年代の南アフリカ共和国の人種隔離政策と人権闘争）解説 14回 『遠い夜明け』鑑賞 15回 『遠い夜明け』鑑賞後の解説、感想文記入						
授業外における学習（準備学習の内容）	興味をもった映画で描かれている社会・歴史に関する専門書2冊以上を読むこと。						
授業方法	映画に映し出された現実の歴史的・社会的背景を理解してもらうための講義。						
評価基準と評価方法	映画鑑賞後の感想文20%、レポート（前期後期1回ずつ）80%。						
教科書	毎回、解説プリントを配布します。						
参考書							

科目区分	総合文芸学科専門教育科目						
科目名	比較文化IIIA						
担当教員	植 朗子						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	水曜3	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	悲恋の女性像①						
授業の概要	映画・オペラ・演劇などに登場する〈悲恋の女性像〉をテーマとします。片思い、失恋、恋人との別離、恋愛によって不幸にみまわれるなど、悲恋には多くの類型がありますが、本授業では、恋愛成就を妨げる障害と、その原因となっている文化的・社会的背景をとくに取り上げます。DVDなどを視聴し、具体的な〈悲恋の女性像〉にまつわる諸作品を見て理解を深めていただきます。						
到達目標	〈悲恋の女性像〉にかんする諸作品を通じて、悲恋の原因がどのように描かれているか検証することによって、さまざまな文化の比較と、その諸相について明らかにします。						
授業計画	第1回 主旨説明 第2回 『ローマの休日』 第3回 『王様と私』① 第4回 『王様と私』② 第5回 『ロミオとジュリエット』① 第6回 『ロミオとジュリエット』② 第7回 『トリスタンとイゾルデ』① 第8回 『トリスタンとイゾルデ』② 第9回 『オペラ座の怪人』① 第10回 『オペラ座の怪人』② 第11回 『エリザベート』① 第12回 『エリザベート』① 第13回 『エリザベート』③ 第14回 『ヴァン・ヘルシング』 第15回 質疑応答と試験						
授業外における学習（準備学習の内容）	特になし。						
授業方法	講義。						
評価基準と評価方法	テスト60% 平常点40%						
教科書	なし（プリントを配布します）。						
参考書	特になし。						

科目区分	総合文芸学科専門教育科目						
科目名	比較文化IIIB						
担当教員	植 朗子						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	水曜3	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	悲恋の女性像②						
授業の概要	映画・オペラ・演劇などに登場する〈悲恋の女性像〉をテーマとします。片思い、失恋、恋人との別離、恋愛によって不幸にみまわれるなど、悲恋には多くの種類がありますが、本授業では、恋愛成就を妨げる障害と、その原因となっている文化的・社会的背景をとくに取り上げます。DVDなどを視聴し、具体的な〈悲恋の女性像〉にまつわる諸作品を見て理解を深めていただきます。						
到達目標	〈悲恋の女性像〉にかんする諸作品を通じて、悲恋の原因がどのように描かれているか検証することによって、さまざまな文化の比較と、その諸相について明らかにします。						
授業計画	第1回 主旨説明 第2回 『蝶々夫人』① 第3回 『蝶々夫人』② 第4回 『ピアノ・レッスン』 第5回 『トニー滝谷』① 第6回 『トニー滝谷』② 第7回 『時をかける少女』 第8回 『ムーラン・ルージュ』① 第9回 『ムーラン・ルージュ』② 第10回 『椿姫』 第11回 『ハムレット』① 第12回 『ハムレット』② 第13回 『さまよえるオランダ人』① 第14回 『さまよえるオランダ人』② 第15回 質疑応答と試験						
授業外における学習（準備学習の内容）	特になし。						
授業方法	講義。						
評価基準と評価方法	テスト60% 平常点40%						
教科書	なし（プリントを配布します）。						
参考書	特になし。						

科目区分	総合文芸学科専門教育科目						
科目名	比較文化IVA						
担当教員	光田 和伸						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	金曜1	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	衣服の歴史						
授業の概要	私たちの先祖が身につけた衣服の素材と仕立て方をふり返ります。						
到達目標	衣服がたんに消費されるものになるまえの、自分で生産するものもであった時代を知って、人間らしい生活とはなにかについて考えます。						
授業計画	<p>テキストとして『木綿以前の事子』（柳田国男）を使い、次の章を購読します。</p> <p>1 「自序」「解説」 2 「木綿以前の事」① 3 「木綿以前の事」② 4 「何を着ていたか」① 5 「何を着ていたか」② 6 「働く人の着物」 7 「団子と昔話」 8 「餅と臼と搗鉢」① 9 「餅と臼と搗鉢」② 10 「餅と臼と搗鉢」③ 11 「囲炉俵談」 12 「火吹竹のことなど」 13 「女と煙草」 14 「酒の飲みやうの変遷」① 15 「酒の飲みやうの変遷」②</p>						
授業外における学習（準備学習の内容）	未知の語彙、事項は、できるだけ調べておいてください。						
授業方法	購読形式ですが、スローリーディングに徹します。						
評価基準と評価方法	レポートを予定しています。						
教科書	授業の冒頭で指示します。						
参考書	柳田国男の著作類。						

科目区分	総合文芸学科専門教育科目						
科目名	比較文化IVB						
担当教員	光田 和伸						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	金曜1	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	家庭の火と明かり						
授業の概要	調理と灯火の歴史について考えます。						
到達目標	熱源と光源とを自給していた時代をふり返り、現在のエネルギー問題の将来について考える一助とします。						
授業計画	<p>テキストとして『火の昔』（柳田国男）を使い、次の章を購読します。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 「自序」と解説 2 「闇と月夜」「挑灯の形」 3 「蠟燭の変遷」「炬火の起り」 4 「盆の火」「灯籠と蠟燭」 5 「家の灯火」「油と行灯」 6 「灯芯と灯明皿」「油屋の発生」 7 「ランプと石油」「松のヒデ」 8 「松とうがい」「屋外の灯火」 9 「火の番と火事」「火を大切にする人」 10 「火を作る法」「ほくち及びたきつけ」 11 「硫黄付木と火吹竹」「民の煙」 12 「柴と割木」「火を留める」 13 「ほだと埋火」「炉端の作法」 14 「下座と木尻」「火を焚く楽しみ」 15 「火正月」「炉の鉤のいろいろ」 						
授業外における学習（準備学習の内容）	未知の語彙、事項があれば、できるだけ調べてきてください。						
授業方法	購読形式をとりますが、スローリーディングに徹します。						
評価基準と評価方法	レポートを予定しています。						
教科書	授業の冒頭に指示します。						
参考書	柳田国男の著作類。						

科目区分	総合文芸学科専門教育科目						
科目名	比較文化VA						
担当教員	西川 純司						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	水曜4	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	広告活動の理解						
授業の概要	<p>広告活動についての基本的な知識を習得することを目指します。私たちはふつう広告を受け取る側において、それがどのようにして制作されているのかを知る機会がほとんどありません。しかし、広告が私たちに届けられるまでには多くの人や組織が関わり、多大な時間とお金がかかれています。講義では、こうした広告活動を理解するために必要な、広告の定義や分類、広告計画のインプットからアウトプットの過程、さらには広告関連の法規や規制などの基礎的な知識を学びます。実際にテレビCMや雑誌広告、ネット広告などを見ながら解説していきたいと思えます。</p>						
到達目標	<p>受講することで、広告の送り手（広告主・広告会社）がどのような流れで広告を制作しているのか、その実務的なプロセスについて体系的な知識を習得することができます。実際の広告物を専門用語を使って分析し、体系的に説明できるようになることを目指します。また、グループワークを通じて、自分で考え、発言し、議論する力が鍛えられます。</p>						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 イントロダクション 2 広告とは何か 3 マーケティング計画と広告 4 広告主と広告会社の組織構造 5 広告計画の構造と調査 6 広告戦略の立案 7 広告予算の決定方法 8 広告コミュニケーション過程と効果 9 広告表現の計画 10 広告媒体の計画 11 ブランド・コミュニケーション 12 広告効果の測定/広告関連の法規と規制 13 インターネット広告 14 課題レポート検討会 15 まとめ 						
授業外における学習（準備学習の内容）	<p>授業の前後に参考書を読んでおくことで理解が深まります。また、簡単な宿題を出すことがあるので、その時はしっかりと取り組んでほしいと思えます。日常的に広告を意識するようにしておくことで、レポート作成に役立ちます。</p>						
授業方法	<p>講義を中心としますが、テレビCMなどの映像を観たり、簡単なグループワークをする機会も多く設けます。</p>						
評価基準と評価方法	<p>期末レポート 70%、平常点（欠席した場合は減点）30%、で評価します。</p>						
教科書	<p>毎回プリントを配布します。</p>						
参考書	<p>前期 『現代広告論 [新版]』、岸志津江・田中洋・嶋村和恵、有斐閣、ISBN978-4-641-12356-4</p>						

科目区分	総合文芸学科専門教育科目						
科目名	比較文化VB						
担当教員	西川 純司						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	水曜4	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	社会のなかの広告：文化・都市・メディア						
授業の概要	<p>「社会のなかの広告」をテーマに、いかに広告が社会と結びついているかを考えます。とりわけ、文化、都市、メディアという3つの観点から、社会学的な知見を参照しつつ、それぞれ具体的なトピックを取り上げて検討していきます。実際の広告物を取り上げて、それを批評的に捉えてみることもします。また、実際に広告をつくることにも挑戦してもらいます。講義の進め方として、毎回テーマに沿ったかたちで講義を行うだけでなく、文章を読んだり映画鑑賞したうえでグループで議論をする機会を設けます。</p>						
到達目標	<p>受講することで、広告をその背後にある「社会」と関連づけて分析できるだけの広い視野と考察力を身につけることができます。また、他者の文章を正確に読解したり、映画の内容を読み解くなかで、それらに対する自分の考え方をまとめ、発言し、他の受講生と議論する力の向上を図ります。さらに、広告の本質を理解したうえで、自分で簡単な広告をつくるできるようになります。</p>						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 イン트로ダクション：社会における広告 2 文化と広告(1)：若者の消費 3 文化と広告(2)：若者女性の消費 4 文化と広告(3)：「消費しない若者」論と若者のリアル 5 広告のいま：広告鑑賞(1) 6 都市と広告(1)：映画鑑賞『トゥルーマン・ショー』 7 都市と広告(2)：映画鑑賞『トゥルーマン・ショー』 8 都市と広告(3)：テーマパークと広告 9 広告のいま：広告鑑賞(2) 10 メディアと広告(1)：広告をつくる 11 メディアと広告(2)：広告をつくる 12 メディアと広告(3)：広告をつくる 13 メディアと広告(4)：広告をつくる 14 制作課題発表会 15 まとめ 						
授業外における学習（準備学習の内容）	<p>簡単な宿題を出すことがあるので、その時はしっかりと取り組んでほしいと思います。日常的に広告を意識するようにしておくこと、制作課題に役立ちます。</p>						
授業方法	<p>講義を中心としますが、テレビCMや映画などの映像を観たり、簡単なグループワークをする機会も多く設けます。</p>						
評価基準と評価方法	<p>期末制作課題 70%、平常点（欠席した場合は減点）30%、で評価します。</p>						
教科書	<p>毎回プリントを配布します。</p>						
参考書							

科目区分	総合文芸学科専門教育科目						
科目名	美術入門						
担当教員	上久保 真理						
学期	通年／Full Year	曜日・時限	木曜2	配当学年	1～4	単位数	4.0
授業のテーマ	美術の歴史や技術の基礎的な知識に触れる。						
授業の概要	美術とはどんなもの？何のためのもの？改めて問われると、答えるのに困ったりする。マンガやアニメなど、日本の美術が海外で人気だが、わたしたちはそのルーツについて意外に知らないことが多い。この授業では美術の歴史の概略を辿りつつ、美術制作の基礎に触れることを目指す。長い歴史の中で、それぞれの文化の中で、人々が美術にどのような思いを託してきたのかを感じよう。						
到達目標	美術作品を通して、その歴史や文化、技法について考え、社会的、思想的背景を感じとろうとする姿勢を養う。						
授業計画	第1回 導入（授業についての注意、授業計画など） 第2回 美術の始まり1ー刻むー 第3回 美術の始まり2ー転写するー 第4回 美術の始まり3ー合成するー 第5回 美術の始まり4ー形づくるー 第6回 美術の始まり5ーイメージするー 第7回 美術の始まり6ーことばから絵へー 第8回 デッサン1ー観察するー 第9回 デッサン2ー空間を描くー 第10回 デッサン3ー遠近法という発明ー 第11回 アナモルフォーズ1ーグリッドの応用ー 第12回 アナモルフォーズ2ーデフォルメするー 第13回 デザインする1ーイメージを広げるー 第14回 デザインする2ー構成するー 第15回 まとめ 第1回 導入 第2回 絵巻の世界ー物語を動かすー 第3回 アニメーションを作る1ー描くー 第4回 アニメーションを作る2ー動かすー 第5回 浮世絵の世界ー簡略化と平面性ー 第6回 浮世絵を作る1ー下絵ー 第7回 浮世絵を作る2ー版を彫るー 第8回 浮世絵を作る3ー版を彩るー 第9回 浮世絵を作る4ー版を摺るー 第10回 西洋と日本 第11回 マンガの手法 第12回 記号化と引用 第13回 日本の現代美術 第14回 自由制作 第15回 まとめと展望						
授業外における学習（準備学習の内容）	各回のテーマについて、各自が前もって調べてみることを。また授業で興味を持ったことがらについてさらに掘り下げて調べてみることを。授業内で取り上げる時代や技法などについての宿題レポートや発表準備。						
授業方法	講義と演習を織り交ぜ、ワークショップ形式も取り入れて授業を進める。スライド、DVDなどの使用。希望により学外演習なども含む。個人もしくはグループ単位での発表やコンピュータ室での作業もあり。						
評価基準と評価方法	平常点（毎回のコメントを含む）30%、提出物や発表40%、期末レポート30%の総合による。						
教科書	適宜プリントを配布する。						
参考書	授業中に随時紹介する。						

科目区分	総合文芸学科専門教育科目						
科目名	美術入門A						
担当教員	上久保 真理						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	木曜2	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	美術の歴史や技法の基礎的な知識に触れる。						
授業の概要	美術とはどんなもの？何のためのもの？改めて問われると、わたしたちは意外に美術について知らないことに気付く。この授業では美術の歴史の概略を辿りつつ、美術制作の基礎に触れることを目指す。長い歴史の中で、それぞれの文化の中で、人々が美術にどのような思いを託してきたのかを感じよう。						
到達目標	美術作品を通して、その歴史や文化、技法について考え、社会的、思想的背景を感じようとする姿勢を養う。						
授業計画	第1回 導入（授業についての注意、授業計画など） 第2回 美術の始まり1ー刻むー 第3回 美術の始まり2ー転写するー 第4回 美術の始まり3ー合成するー 第5回 美術の始まり4ー形づくるー 第6回 美術の始まり5ーイメージするー 第7回 美術の始まり6ーことばから絵へー 第8回 デッサン1ー観察するー 第9回 デッサン2ー空間を描くー 第10回 デッサン3ー遠近法という発明ー 第11回 アナモルフォーズ1ーグリッドの応用ー 第12回 アナモルフォーズ2ーデフォルメするー 第13回 デザインする1ーイメージを広げるー 第14回 デザインする2ー構成するー 第15回 まとめと展望						
授業外における学習（準備学習の内容）	各回のテーマや制作内容について、各自が前もって調べてみることに。また授業で興味を持ったことさらに掘り下げて調べてみることに。授業内で取り上げる時代や技法などについての宿題レポートや発表準備。						
授業方法	講義と演習を織り交ぜ、ワークショップ形式も取り入れて授業を進める。スライド、DVDなどの使用。希望により学外演習なども含む。個人もしくはグループ単位での発表や、コンピュータ室での作業もあり。						
評価基準と評価方法	平常点（毎回のコメントを含む）30%、提出物や発表40%、期末レポート30%の総合による。						
教科書	適宜プリントを配布する。						
参考書	授業中に随時紹介する。						

科目区分	総合文芸学科専門教育科目						
科目名	美術入門B						
担当教員	上久保 真理						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	木曜2	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	日本の美術の歴史や技術の基礎的な知識に触れる.						
授業の概要	マンガやアニメなど、日本の美術が海外で人気だ。でも、わたしたちはそのルーツについて意外に知らないことが多い。この授業では日本美術の歴史や技法の基礎的知識の一端に触れることを目指す。長い歴史や文化の中で、人々が美術にどのような思いを託してきたのかを感じよう。						
到達目標	日本の美術作品を通して、その歴史や文化、技法について考え、社会的、思想的背景を感じようとする姿勢を養う。						
授業計画	第1回 導入（授業についての注意、授業計画など） 第2回 絵巻の世界―物語を動かす― 第3回 アニメーションを作る1―描く― 第4回 アニメーションを作る2―動かす― 第5回 浮世絵の世界―簡略化と平面性― 第6回 浮世絵を作る1―下絵― 第7回 浮世絵を作る2―版を彫る― 第8回 浮世絵を作る3―版を彩る― 第9回 浮世絵を作る4―版を摺る― 第10回 西洋と日本 第11回 マンガの手法 第12回 記号化と引用 第13回 日本の現代美術 第14回 自由制作 第15回 まとめと展望						
授業外における学習（準備学習の内容）	各回のテーマや制作内容について、各自が前もって調べてみることに。また授業で興味を持ったことがらについてさらに掘り下げて調べてみることに。授業内で取り上げる時代や技法などについての宿題レポートや発表準備。						
授業方法	講義と演習を織り交ぜ、ワークショップ形式も取り入れて授業を進める。スライド、DVDなどの使用。希望により学外演習なども含む。個人もしくはグループ単位での発表やコンピュータ室での作業もあり。						
評価基準と評価方法	平常点（毎回のコメントを含む）30%、提出物や発表40%、期末レポート30%の総合による。						
教科書	適宜プリントを配布する。						
参考書	授業中に随時紹介する。						

科目区分	総合文芸学科専門教育科目						
科目名	文学入門A/日本文学入門I						
担当教員	石原 のり子						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	水曜3	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	日本文学史を概観することで、日本の文化・文芸を理解するために必要となる基礎的な知識の習得を目的とする。文学史だけでなく、我が国の文学が形成される背景となった歴史や異文化の受容なども学ぶ。						
授業の概要	前期は、古代から中世までの文学作品を対象とする。						
到達目標	総合文芸学科で学ぶために必要となる、日本文学の基礎を学ぶ。						
授業計画	<p>第一回：ガイダンス 授業で取り扱う作品の概要を学ぶ</p> <p>第二回：神話の世界 取り上げる作品：『日本書紀』など 我が国最初の正史である『日本書紀』を取り上げ、我が国の成り立ちの神話について学ぶ。</p> <p>第三回：和歌の発展 取り上げる作品：『万葉集』 漢字の伝来により、それまでは語りつぐことにより遺されていた言葉（歌謡なども含む）が、万葉仮名を使って表現されるようになったことを学ぶ。またこの頃になると、専門歌人とも言うべき人々が現れた。しかし、当時の公的文学はあくまでも漢詩であり、『懐風藻』をはじめ、多くの漢詩集が編まれたことを知る。</p> <p>第四回：公的文学としての和歌 取り上げる作品：『古今和歌集』 遣唐使の廃止により、国風文化が花開く。天皇の勅命により、やまとうたを集めた初の和歌集『古今和歌集』が編纂される。これにより、我が国の公的文学は漢詩文から和歌へと変容を遂げる。</p> <p>第五回：映像で見る『万葉集』の世界</p> <p>第六回：かな文字の普及 取り上げる作品：『蜻蛉日記』 仮名文字が生まれ、女性も日記を書くようになる。（依然として男性貴族の日記は漢文体で書かれていたことも確認する）階級を異にする夫との結婚によって生じた苦悩を赤裸々に描いた『蜻蛉日記』は、後世の文学に大きな影響を与えた。</p> <p>第七回：物語の誕生 取り上げる作品：『竹取物語』 『源氏物語』に「物語の出来はじめの祖」と書かれた『竹取物語』、和歌を中心に据えて物語を構成する歌物語など、以後の物語文学に大きな影響を与えた作品を概観する。</p> <p>第八回：女流文学の隆盛 取り上げる作品：『枕草子』 女流日記文学から、平安時代の宮廷文化、貴族の生活などを学ぶ。『源氏物語』の生まれる土壌となった、宮廷サロンについても学ぶ。</p> <p>第九回：物語の完成 取り上げる作品：『源氏物語』 我が国の文学史上屈指の傑作である『源氏物語』について学ぶ。プロット、心理描写、修辞などに優れ、これ以後、本作品の影響を受けていない文学はないと言っても過言ではない。平安後期から鎌倉時代にかけて、『源氏物語』に触発された、中世王朝物語が数多く生まれたことも学ぶ。</p> <p>第十回：映像で見る『源氏物語』の世界</p> <p>第十一回：隠者の文学 取り上げる作品：『方丈記』『徒然草』 仮名と漢字の混ざった和漢混濁文による随筆。乱世に生きた鴨長明の描き出す無常観は、その時代の空気を反映していると言える。一方、兼好法師は「心に思ふまま」を綴る。軽妙洒脱で皮肉のきいた作品の妙味を味わう。</p> <p>第十二回：軍記物語の世界 取り上げる作品：『平家物語』『太平記』 前者は琵琶法師、後者は太平記読みによって、庶民にも享受された。能楽や浄瑠璃など、後世の芸能にも大きな影響を与えた。</p>						

授業計画	第十三回：芸能の発展 取り上げる作品：能楽（『葵上』『敦盛』など） 世阿弥によって大成された能楽は、往古の文学を摂取し、花開いた。古典作品を題材にした作品を取り上げる。 第十四回：能楽鑑賞 第十五回 まとめと試験
授業外における学習（準備学習の内容）	古代から中世までの文学史を概観するため、授業で取り上げる作品や事柄はおのずと限られてくる。授業内の学習だけで、わが国の文学史の詳細を把握することは難しい。よって、取り上げる作品・時代の背景の予習、授業後、授業中に紹介した作品や資料についての復習、および各自の興味や専門に関わる事柄を調べるのが求められる。
授業方法	講義形式で行う。
評価基準と評価方法	平常点（小テスト・感想カードを含む）40%、期末試験60%
教科書	プリントを配布する。
参考書	

科目区分	総合文芸学科専門教育科目						
科目名	文学入門B／日本文学入門II						
担当教員	藤原 美佳						
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	水曜3	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	日本文学史を概観することで、日本の文化・文芸を理解するために必要となる基礎的な知識の習得を目的とする。文学史だけでなく、我が国の文学が形成される背景となった歴史や異文化の受容なども学ぶ。						
授業の概要	後期は、近世から現代までの文学作品を対象とする。						
到達目標	総合文芸学科で学ぶために必要となる、日本文学の基礎を学ぶ。						
授業計画	第1回 ガイダンス—近世から現代への流れ 第2回 文学の大衆化—写本の時代から版本の時代へ 第3回 元禄文学—井原西鶴、近松門左衛門など 第4回 俳諧文学—松永貞徳、松尾芭蕉など 第5回 近世中後期の小説の系譜—上田秋成、曲亭馬琴 第6回 近世から近代へ—坪内逍遙、二葉亭四迷 第7回 日清・日露戦争の時代—尾崎紅葉、樋口一葉など 第8回 映像で見る『外科室』 第9回 明治から大正へ—自然主義と反自然主義 第10回 大正の文学 第11回 プロレタリア文学と芸術派 第12回 昭和十年代の文学 第13回 戦後の文学 第14回 近代詩—明治から大正まで 第15回 まとめと試験						
授業外における学習（準備学習の内容）	近世から現代までの流れを概観するため、授業で取り上げる作品や事柄はおのずと限られてくる。事前に取り上げる時代について予習しておく。また、授業中に紹介された参考文献などを中心に、授業に関わる文献を読み、さらに理解を深める。						
授業方法	講義形式で行う						
評価基準と評価方法	平常点（小テスト・感想カードを含む）40%、期末試験60%						
教科書	プリントを配布する。						
参考書							

科目区分	総合文芸学科専門教育科目						
科目名	文芸講読IA／文芸講読A						
担当教員	宗像 衣子						
学期	前期／1st semester	曜日・時限	木曜3	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	文芸の味わい						
授業の概要	<p>文芸諸ジャンルの交流を味わいながら、文芸が文化の全体において考察されるおもしろさを実感してもらいたい。 文学と芸術にまたがる身近なテーマをもった文章を、思想・歴史・宗教・社会・科学といった文化を浮き彫りにするものとして学び、文芸が幅広く関係し合う様子を確認する。</p> <p>ヨーロッパ、主にフランスの近現代、印象派以降の美術（画家たち、たとえばモネ・ゴッホ・ゴーギャン・ピカソ・マチスなど）と文学（詩人・作家・演劇家・映画人・批評家たち）に関わるテキストを読みながら（そのプロセスで音楽性・音楽家にも触れることになる）（また関係して、日本の作家・作品についても学ぶ）（テキスト形態は論説評論文だけでなく、詩や小説、随筆・手紙・映像等にまたがる）、様々な「物の見方・感じ方」に接して、文芸・文化の多様性に親しんで、着実に読解力と広い視野を手に入れてほしい。</p>						
到達目標	<p>文字を読むだけでなく、美術・映像を見たり音楽を聞いたり、という総合文芸学科ならではの学び方・楽しみ方で全体的な手ごたえを得ましょう。 同時に、皆さんの身近な文芸・文化との色々な関わりに出会えるはずです。</p>						
授業計画	<p>以下、授業の性質上、受講生の学習状況・希望等によって修正・変更されることがある。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 オリエンテーション 2 ヨーロッパ近現代の芸術家達 3 印象派と文学 4 印象派画家と文学者 5 印象派以降～現代美術と日本の芸術 6 印象派以降～現代美術と日本の文化 7 その他関連資料1（文芸） 8 その他関連資料2（文化） 9 ヨーロッパと日本の芸術家達 10 日本の文芸 11 日本の芸術 12 その他関連研究1（身辺の文芸） 13 その他関連研究2（身辺の文化） 14 まとめとレポート 15 反省・展開 						
授業外における学習（準備学習の内容）	課題学習						
授業方法	演習						
評価基準と評価方法	平常点75%、レポート等25%						
教科書	授業中に関連資料や参考書を配付・紹介する。						
参考書							

科目区分	総合文芸学科専門教育科目						
科目名	文芸講読IB／文芸講読B						
担当教員	宗像 衣子						
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	木曜3	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	文芸の味わい						
授業の概要	<p>文芸諸ジャンルの交流を味わいながら、文芸が文化の全体において考察されるおもしろさを実感してもらいたい。 文学と芸術にまたがる身近なテーマをもった文章を、思想・歴史・宗教・社会・科学といった文化を浮き彫りにするものとして学び、文芸が幅広く関係し合う様子を確認する。</p> <p>ヨーロッパ、主にフランスの近現代、印象派以降の美術（画家たち、たとえばモネ・ゴッホ・ゴーギャン・ピカソ・マチスなど）と文学（詩人・作家・演劇家・映画人・批評家たち）に関わるテキストを読みながら（そのプロセスで音楽性・音楽家にも触れることになる）（また関係して、日本の作家・作品についても学ぶ）（テキスト形態は論説評論文だけでなく、詩や小説、随筆・手紙・映像等にまたがる）、様々な「物の見方・感じ方」に接して、文芸・文化の多様性に親しんで、着実に読解力と広い視野を手に入れてほしい。</p>						
到達目標	<p>文字を読むだけでなく、美術・映像を見たり音楽を聞いたり、という総合文芸学科ならではの学び方・楽しみ方で全体的な手ごたえを得ましょう。 同時に、皆さんの身近な文芸・文化との色々な関わりに出会えるはずです。</p>						
授業計画	<p>後期授業前に再確認します。 以下は、常にヨーロッパの芸術・文化、美術・音楽・文学との関係において学びます。出席者の様子・意向に応じて下記内容が変更される場合があります。</p> <p>1回 全員で授業出発点の合意・話し合い 2回 文芸講読の価値と目標 3回 日本の画家（東山魁夷等）テキスト1（生涯） 4回 同 テキスト2（初期） 5回 同 テキスト3（中期） 6回 同 テキスト4（後期） 7回 同 テキスト5（最晩年） 8回 全員討議 9回 希望と状況により学外見学 10回 アンソロジー1（西洋・絵と言葉） 11回 同テキスト2（東洋・絵と言葉） 12回 同テキスト3（東西文化） 13回 討議・討論 14回 復習とレポート 15回 反省とまとめ</p>						
授業外における学習（準備学習の内容）	課題学習						
授業方法	演習						
評価基準と評価方法	平常点75%、レポート等25%						
教科書	授業中に関連資料や参考書を配付・紹介する。						
参考書							

科目区分	総合文芸学科専門教育科目						
科目名	文芸講読IIA/文芸講読C						
担当教員	山田 道夫						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	月曜3	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	『シラノ・ド・ベルジュラック』を読む						
授業の概要	19世紀末フランスの耽美主義と古典的教養を融合させて、文学史上最大の人気者「鼻のシラノ」を生み出した、ロマンチック・ラブの最高傑作『シラノ・ド・ベルジュラック』を講読する。筋の組み立て、人物造型、思想、時代背景、古典の影響など、多様な観点から批判的に読解する。						
到達目標	テキストをさまざまな視点から読み解いて、自分なりの分析や品評（文芸作品としてどのような卓越性・創造性を作り出しているか）を行うための技能を身につける。						
授業計画	第1回 インTRODクシヨN（授業の受け方、出席要件、評価方法、テキスト概説） 第2回 第一幕 第3回 第一幕、映画ビデオ 第4回 第二幕、漢字読み取りテスト 第5回 第二幕、映画ビデオ 第6回 第三幕、漢字読み取りテスト 第7回 第三幕、映画ビデオ 第8回 第四幕、漢字読み取りテスト 第9回 第四幕、映画ビデオ 第10回 第五幕、漢字読み取りテスト 第11回 第五幕、映画ビデオ 第12回 レポRトの課題と書き方、漢字読み取りテスト 第13回 『シラノ』のロマンチック・ラブについて 第14回 シラノとソクラテス 第15回 まとめと展望、期末レポート提出						
授業外における学習（準備学習の内容）	毎回の授業で講読するテキストの範囲を授業までに辞書等を調べながら読んで、疑問点を整理してこなければならない。						
授業方法	講読、教員による質問、解説、問題点の指摘などを交えながら一緒に読んでゆく。1幕ごとに漢字の読み取りテストをし、映画『シラノ・ド・ベルジュラック』の対応箇所を観る。						
評価基準と評価方法	授業への参加度や漢字テストの点数等による平常点（30%）と期末レポートの出来具合（70%）で評価する。						
教科書	『シラノ・ド・ベルジュラック』（岩波文庫） エドモン・ロスタン著、鈴木信太郎・辰野隆訳						
参考書	『シラノ・ド・ベルジュラック』（光文社古典新訳文庫） ロスタン著、渡辺守章訳						

科目区分	総合文芸学科専門教育科目						
科目名	文芸講読IIB／文芸講読D						
担当教員	山田 道夫						
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	月曜3	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	エウリピデスの悲劇『メデシア』を読む						
授業の概要	ギリシア古典期の三大悲劇作家のうち、後世もっとも人気のあったエウリピデスの現存作品のうち、映画に舞台にと現代人に対してもとりわけ強烈な訴求力をもつ『メデシア』を講読する。筋の組み立て、人物造型、思想、神話的背景等の多様な観点から批判的に読解する。						
到達目標	テキストをさまざまな視点から読み解いて、自分なりの分析や品評を展開するための技能を身につける。						
授業計画	第1回 イン트로ダクション（テキストおよびギリシア悲劇について） 第2回 プロロゴスとパロドス 第3回 第1エペイソディオン、第1スタシモン 第4回 第2エペイソディオン、第2スタシモン 第5回 第3エペイソディオン、第3スタシモン 第6回 第4エペイソディオン、第4スタシモン 第7回 第5エペイソディオン、第5スタシモン 第8回 第6エペイソディオン、第6スタシモン 第9回 エクソドス 第10回 ビデオで見る『メデシア』 第11回 レポートの課題と考察の観点について 第12回 メデシアはなぜ子殺しをしなければならなかったのか、あるいは殺したのか？ 第13回 『メデシア』のエクソドスについて 第14回 エウリピデスの「機械仕掛けの神（デウス・エクス・マーキナー）」について 第15回 まとめと展望						
授業外における学習（準備学習の内容）	毎回の授業で読むテキストをあらかじめ自分でよく読んで疑問点を整理し、授業後にも読み返す、参考文献を読むなどの予習復習が必要。						
授業方法	講読。教員による質問、解説、問題点の指摘などを交えながら、一緒に読んでゆく。						
評価基準と評価方法	授業への参加度、予習・復習の状況などの平常点を30%、学期末レポートの出来具合（70%）で評価する。						
教科書	『ギリシア悲劇Ⅲ』（ちくま文庫） エウリピデス著、松平千秋他訳、筑摩書房						
参考書							

科目区分	総合文芸学科専門教育科目						
科目名	文芸講読VA／文芸講読K						
担当教員	村上 知彦						
学期	前期／1st semester	曜日・時限	水曜3	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	まんがと性別越境-「リボンの騎士」と少女まんがの展開						
授業の概要	現代の物語まんがは、文学とはまたちがった形でさまざまな主題を表現してきた。この講義では、戦後少女まんがの出発点ともいえる手塚治虫「リボンの騎士」を取り上げ、そこに表現された性別越境の主題を手がかりに、少女まんがにおけるその展開とまんが史の中での位置づけ、その後のまんが表現に与えた影響、さらにはまんがという表現の特質にまで考察を進めたい。作品の読解を中心に、多様な関連作品を解説、比較しながら進めるので、テキストを充分理解して授業に臨むことはもちろん、まんが研究への幅広い関心を持ち、紹介する作品についても可能なかぎり目を通すなど、授業への積極的参加を望みたい。						
到達目標	「リボンの騎士」を手がかりに、そこから多様に広がる手塚まんがの一貫した主題を知る。また「性別越境」という一つの主題がさまざまに展開する、現代少女まんがの表現の広がりを理解する。						
授業計画	(1) インTRODakシヨン/ストーリー少女まんがの誕生 (2) 「リボンの騎士」を読む/1 (3) 「リボンの騎士」を読む/2 (4) 「リボンの騎士」論の諸相 藤本/中野/竹内の「リボンの騎士」論 (5) 「リボンの騎士」論の展開/1 押山の“ジェンダー表象”論(1) (6) 「リボンの騎士」論の展開/2 押山の“ジェンダー表象”論(2) (7) 「リボンの騎士」と宝塚歌劇/手塚治虫と宝塚 (8) 手塚まんがと性別越境/1 ロボットと人形 (9) 手塚まんがと性別越境/2 昆虫とクローン/母と少年 (10) 少女まんがの性別越境/1 ベルサイユのばら (11) 少女まんがの性別越境/2 雪の子/シュリンクス・パーン (12) 少女まんがの性別越境/3 風と木の詩/日出処の天子 (13) 少女まんがの性別越境/4 櫻の園/STAY/大奥 (14) 戦う少女たち BASARA/少女革命ウテナ (15) まとめ/まんがと性別表現						
授業外における学習(準備学習の内容)	授業前学習: テキストは必ず事前に通読の上、授業計画に従って精読して授業に臨むこと。 授業後学習: 授業で取り上げた作品について、関心を持ったものを読んでみよう。						
授業方法	講義						
評価基準と評価方法	期末レポート(60%)、提出物および平常点等(40%)						
教科書	「リボンの騎士・少女クラブ版」手塚治虫、講談社漫画文庫 ISBN4-06-260656-9						
参考書	「少女マンガ ジェンダー表象論」押山美知子、彩流社 ISBN4779112443 その他、授業中に紹介します。						

科目区分	総合文芸学科専門教育科目						
科目名	文芸講読VB／文芸講読L						
担当教員	村上 知彦						
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	水曜3	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	まんがと批評-まんがの論じ方						
授業の概要	絵と言葉によってつづられる文芸の一形式であり、戦後日本の重要な文化でもあるまんがをめぐる多様な主題を論じた批評・研究を概観し、それらをふまえて、まんが作品を批評的に読み解く。指定テキストの他、受講者の希望するまんが作品もテキストとして取り上げ、それらの作品についての批評・研究などを参照しながら授業内での発表・討議をおこない、最終的には短い批評的文章を、各自レポートとして書き上げることを目指す。テキストをもとにした講義、および発表形式。何度か、課題等の提出を求める。						
到達目標	まんが作品を批評的に読み解く方法を学び、まんが作品に対する受講者自身による批評文を、レポートとして書き上げる。						
授業計画	(1) イントロダクション (2) まんがの論じ方/まんが批評小史 (3) まんがと批評/批評とは何か (4) コードとコンテキスト/物語のコード分析 (5) 作品講読1-1/課題・萩尾望都「トーマの心臓」 (6) 作品講読1-2 作者とタイトル (7) 作品講読1-3 書き出しと主人公 (8) 作品講読1-4 物語のコード (9) 作品講読1-5 描写と表現 (10) 作品講読2-1 (課題作品は授業中に決定) (11) 作品講読2-2 作者とタイトル (12) 作品講読2-3 書き出しと主人公 (13) 作品講読2-4 物語のコード (14) 作品講読2-5 描写と表現 (15) まとめ/作品分析のヒント						
授業外における学習(準備学習の内容)	授業前学習：テキストは必ず事前に通読の上、授業計画に従って精読して授業に臨むこと。 授業後学習：毎回の学んだことをふまえて、自分自身の作品の読みとり方を文章化してみる。						
授業方法	講義および個人発表						
評価基準と評価方法	期末レポート(50%)、および発表・提出物・平常点等(50%)により総合的に評価する。						
教科書	「トーマの心臓」萩尾望都、小学館文庫 ISBN4-09-191013-0 その他、授業中に指示します。						
参考書	「増補 文学テキスト入門」前田愛、ちくま学芸文庫 ISBN4-480-08095-3 その他、授業中に紹介します。						

科目区分	総合文芸学科専門教育科目						
科目名	文芸講読IIIA						
担当教員	柿沼 伸明						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	火曜3	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	西洋文芸と映画 ラディゲ『肉体の悪魔』とその映画表現の比較						
授業の概要	レーモン・ラディゲは、夭折（ようせつ）した天才作家である。彼が16～18歳のときに『肉体の悪魔』を書き、20歳で出版して、フランス文壇に一大センセーションを巻き起こし、同年、腸チフスで死んでしまう。作品は「フランス心理主義の伝統の再現」「古典主義的な美」などと評された。『肉体の悪魔』は3度、映画化された。1947年のフランス映画、1985年のオーストリア映画、1986年のイタリア映画（伊仏合作）。イタリア映画は原作の翻案で、舞台もパリからローマに移されている。オーストリア映画は入手不能なので、小説を読んだ後、他の2つの映画作品を鑑賞し、原作と比較してみたい。						
到達目標	文学テキストの読解と、その映像的解釈の鑑賞						
授業計画	第1回：単位認定の説明、ラディゲの生涯・20世紀初めのフランスに関する解説 第2回：p. 6-p. 26 輪読 第3回：p. 27-p. 47 輪読 第4回：p. 48-p. 68 輪読 第5回：p. 69-p. 89 輪読 第6回：p. 90-p. 110 輪読 第7回：p. 111-p. 131 輪読 第8回：p. 132-p. 152 輪読 第9回：p. 153-p. 173 輪読 第10回：p. 174-p. 194 輪読 第11回：p. 195-最後 輪読 第12回：フランス映画『肉体の悪魔』鑑賞 第13回：フランス映画『肉体の悪魔』鑑賞、仮レポート提出 第14回：イタリア映画『肉体の悪魔』鑑賞 第15回：イタリア映画『肉体の悪魔』鑑賞、添削後、仮レポート返却						
授業外における学習（準備学習の内容）	自分で小説を読んでおくこと						
授業方法	講義						
評価基準と評価方法	出席率とレポート内容に基づき総合的に評価						
教科書	ラディゲ、中条省平訳『肉体の悪魔』（光文社古典新訳文庫）						
参考書							

科目区分	総合文芸学科専門教育科目						
科目名	文芸講読IIIB						
担当教員	柿沼 申明						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	火曜3	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	日本文芸と映画 夏目漱石『それから』とその映画表現の比較						
授業の概要	漱石『それから』の舞台は、日露戦争勝利後の日本。西欧列強に追いつき、追い越せとばかり、国中がアクセクしているなか、親からの仕送りをもらい、朝食には紅茶とトーストを食べ、暇にまかせて英文書を読み漁る主人公の代助。優雅な高等遊民生活を送っていた彼だが、友人の妻を愛することによって運命が一変する。個人主義のなかった明治期日本で、個人的情念を貫いた結果、社会や家族制度によって個人がいかに押しつぶされていくかが、この小説のテーマである。1985年製作の森田芳光監督の映画化作品は、当時の社会風景と主人公の内的葛藤を、独特な映像センスで活写している。代助を演じる松田優作も味がある。						
到達目標	文学テキストの読解と、その映像的解釈の鑑賞						
授業計画	第1回：単位認定の説明、『それから』と日露戦争後の日本に関する解説 第2回：p. 5-p. 30 輪読 第3回：p. 31-p. 61 輪読 第4回：p. 62-p. 92 輪読 第5回：p. 93-p. 123 輪読 第6回：p. 124-p. 154 輪読 第7回：p. 155-p. 185 輪読 第8回：p. 186-p. 216 輪読 第9回：p. 217-p. 247 輪読 第10回：映画『それから』鑑賞 第11回：映画『それから』鑑賞 第12回：p. 245-p. 275 輪読 第13回：p. 276-p. 306 輪読、仮レポート提出 第14回：p. 307-最後 輪読 第15回：『それから』に関する評論の輪読、添削した仮レポート返却						
授業外における学習（準備学習の内容）	自分で小説を読んでおくこと						
授業方法	講義						
評価基準と評価方法	出席率とレポート内容に基づき総合的に評価						
教科書	夏目漱石『それから』（新潮文庫）						
参考書							

科目区分	総合文芸学科専門教育科目						
科目名	文芸第1演習I						
担当教員	宗像 衣子						
学期	通年／Full Year	曜日・時限	火曜3	配当学年	3	単位数	4.0
授業のテーマ	文学・芸術の創造性と文化の諸相						
授業の概要	<p>文芸をめぐる諸問題を、以下の視点から検討してゆく。 分野：言語・文学—芸術（美術・音楽）—社会・思想—文化 時代：近代（18・19世紀）—現代（20・21世紀）を軸に 地域：フランスを中心に西洋・アメリカ—東洋・日本</p> <p>ここから広がる関連領域にどのような研究テーマの可能性があるかを紹介し、 数例の探究を経験した上で、出席者が各々関心をもっている事柄を手掛かりに研究発表をしてゆく。 その突き合わせによって、種々の研究内容・方法を学び、関連資料に接しながら、 全員がそれぞれ文学・芸術・文化に関する知見を深めて、 自らの研究課題を発掘し見直しつつ、より豊かな地平から探究してゆくことを目指す。</p>						
到達目標	身近な関心から出発し、視聴覚資料も見たり聞いたりしながら、様々な「見方・感じ方」に触れて、 関心と意識と知識を充実させ、広い視野を開拓してほしい。 出席者皆の感性・知性を重ねることで、思いもかけない楽しみや自分が変わるよろこびを たくさん発見できます。						
授業計画	以下、授業の性質上、受講生の人数・状況等によって修正されることがある。 前期 1回 演習オリエンテーション 2～11回 4年生による研究発表と討論 12～15回 補足討論・関連資料研究・まとめ 見学授業を含む場合がある 後期 16回 演習ガイダンス 17～24回 3年生による研究発表と討議 25～30回 補足討論・関連資料研究 見学授業を含む場合がある						
授業外における学習（準備学習の内容）	課題学習						
授業方法	演習						
評価基準と評価方法	平常点80%、レポート等20%						
教科書	授業内容に即した各種資料や参考書を配付・紹介する。						
参考書	日本の風景・西欧の景観 著 A.ベルク 篠田勝英訳（講談社）						

科目区分	総合文芸学科専門教育科目						
科目名	文芸第1演習II						
担当教員	勝村 弘也						
学期	通年／Full Year	曜日・時限	水曜3	配当学年	3	単位数	4.0
授業のテーマ	民俗学と歴史研究						
授業の概要	2年サイクルの授業計画に従っている演習。昨年度は、「民俗学」を中心とした授業でした。本年度は、まず昔話や寓話の背景にある人間の生活や思想について考えます。その後、19世紀の西欧の学問や芸術のありかたについて調べ、現代の芸術や思想の特徴について学びます。						
到達目標	自分でテーマを設定して、歴史を研究する。						
授業計画	<p>前期</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) オリエンテーション、民俗学とはどんな学問か 2) 4回生による発表、歴史研究の方法(1) 学生発表者の分担。 3) 4回生による発表、歴史研究の方法(2) 4) グリム昔話集を題材とした昔話の研究の方法(1) 5) グリム昔話集を題材とした昔話の研究の方法(2) 6) 世界の物語集(1) 7) 世界の物語集(2) 8) 世界の物語集(3) 9) 日本の物語集(1) 10) 日本の物語集(2) 11) ロマン主義の祖、J・J・ルソーの生涯と思想 12) フランス革命と啓蒙思想 13) ドイツ・ロマン主義、ロマン主義絵画 14) ロマンチックな音楽 15) 前期のレポートの課題 <p>後期</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 前期レポートの講評と学生発表の分担 2) ロマン主義、提出レポートによる研究発表 3) 歴史研究の方法(つづき) 4) 現代の思想と学問 5) 文化人類学(1) 6) 文化人類学(2) 7) 「交換」、クラについて考える(1) 8) 「交換」、クラについて考える(2) 9) 現代芸術について考える(1) 10) 現代芸術について考える(2) 11) 芸術評論文を読む 12) 現代文明の諸問題(1) 13) 現代文明の諸問題(2) 14) 後期レポートの課題発表、学生発表予備日 15) レポート個別指導 						
授業外における学習(準備学習の内容)	特に発表に当たった時は、参考文献などを読み、決められた課題について適当な長さにまとめて印刷すること。簡単な課題については、口頭発表できるように知識を整理しておくこと。						
授業方法	学生による研究発表と討論を中心とした演習形式。簡単な課題は、全員に課されることがある。						
評価基準と評価方法	出席(単なる「出席」の意味ではなく、課題の発表、討論への参加が前提条件である)。テーマごとに割り当てられる研究発表(ここまでの項目で約60パーセント)。各学期末のレポート(約40パーセント)などを総合する。評価の比率については目安である。レポートに関しては加点されることがある。						
教科書							

参考書	毎回のように入業中に紹介します。
-----	------------------

科目区分	総合文芸学科専門教育科目						
科目名	文芸第1演習III／文芸第1演習IV						
担当教員	山田 道夫						
学期	通年／Full Year	曜日・時限	水曜3	配当学年	3	単位数	4.0
授業のテーマ	神話と悲劇のヒーロー像、ヒロイン像をさぐる						
授業の概要	ギリシア神話や日本の神話のさまざまなトピックを比較文学的、文芸批評的に考察する。取り扱う主要なテキストはホメロス、ギリシア悲劇、古事記。前期はソポクレス劇のなかでどのようなヒーロー像、ヒロイン像が造型されているかを、その情念と規範意識に着目して調べてゆく。後期はそれらと対照させて古事記やエウリピデスに考察の範囲を広げる。古代の文芸における悲劇的人物像をさぐってゆくという作業を通じて、さまざまな文芸テキストを深く、また相互に比較して多面的に考察する力、自分なりの解釈や批評を整合的に組み立てる力を養うのが授業の目的である。						
到達目標	古代の文芸におけるヒーローやヒロインの姿をさぐってゆくという作業を通して、さまざまな文芸テキストを深く、また相互に比較して多面的に考察する力、自分なりの解釈や筋の通った批評を組み立てる力を養う。						
授業計画	<p>前期</p> <p>第1回：イントロダクション、テキスト・参考文献概説</p> <p>第2回：『オイディプス王』と『コロノスのオイディプス』(1)</p> <p>第3回：『オイディプス王』と『コロノスのオイディプス』(2)</p> <p>第4回：『オイディプス王』と『コロノスのオイディプス』(3)</p> <p>第5回：『アイアス』を読む(1)</p> <p>第6回：『アイアス』を読む(2)</p> <p>第7回：『トラキスの女たち』を読む(1)</p> <p>第8回：『トラキスの女たち』を読む(2)</p> <p>第9回：『アンティゴネー』を読む(1)</p> <p>第10回：『アンティゴネー』を読む(2)</p> <p>第11回：ソポクレス劇の人物造型—4回生による調査発表(1)</p> <p>第12回：ソポクレス劇の人物造型—4回生による調査発表(2)</p> <p>第13回：ソポクレス劇の人物造型—4回生による調査発表(3)</p> <p>第14回：ソポクレス劇の人物造型—4回生による調査発表(4)</p> <p>第15回：まとめと展望、レポート課題の説明</p> <p>後期</p> <p>第1回：『古事記』の英雄と女たち(1)スサノオ、前期レポート提出</p> <p>第2回：『古事記』の英雄と女たち(2)オオクニヌシ</p> <p>第3回：『古事記』の英雄と女たち(3)ヤマトタケル</p> <p>第4回：『古事記』の英雄と女たち(4)ヤマトタケル</p> <p>第5回：『トロイアの女たち』を読む(1)</p> <p>第6回：『トロイアの女たち』を読む(2)</p> <p>第7回：『アンドロマケー』を読む(1)</p> <p>第8回：『アンドロマケー』を読む(2)</p> <p>第9回：アンドロマケーとペネロペイア(1)</p> <p>第10回：アンドロマケーとペネロペイア(2)</p> <p>第11回：3回生による調査発表とディスカッション(1)</p> <p>第12回：3回生による調査発表とディスカッション(2)</p> <p>第13回：3回生による調査発表とディスカッション(3)</p> <p>第14回：3回生による調査発表とディスカッション(4)</p> <p>第15回：まとめと展望、後期レポート提出</p>						
授業外における学習(準備学習の内容)	シラバスを見て、各回の授業で取り上げるテキストや参考文献をあらかじめよく読み、問題点を整理しておくこと。						
授業方法	演習。あらかじめじぶんで拾い出した問題点とそれについての解釈を提起しあい議論する。4回生は前期、3回生は後期に、ひとり一度ずつまとまった研究発表を行う。						
評価基準と評価方法	平常の授業への参加度、取組みかたなどの平常点50%、学期末のレポート50%で評価する。						

教科書	授業時に指示する
参考書	

科目区分	総合文芸学科専門教育科目						
科目名	文芸第1演習IV／文芸第1演習V						
担当教員	柿沼 伸明						
学期	通年／Full Year	曜日・時限	水曜3	配当学年	3	単位数	4.0
授業のテーマ	ミヒヤエル・エンデの童話『モモ』をもとに「お金」と「時間」の問題について考える。						
授業の概要	<p>『モモ』は、1973年、作者エンデが44歳のときに発表された児童文学作品で、これまで多数の言語に翻訳され、映画化もされました。しかし、エンデのなかでは、単なる子供向けのおとぎ話を考え出すことよりも、近代ならびに現代の社会システムへの批判という創作動機のほうが強くありました。</p> <p>『モモ』には、時間貯蓄銀行から派遣された灰色の男たちが登場し、自分の時間を預ければ利子によって人生の何十倍もの時間を享受できると言って、人々を勧誘します。人間がお金を崇拜し、その虜となっていく傾向は、近代の大規模な資本主義的生産様式の進展と深いつながりがあります。また、中世ヨーロッパで発明された機械時計は、より正確に時を刻む技術が追求されていき、産業革命後、労働の効率的な管理の重要な手段となりました。こうした「お金」と「時間」についての哲学的・社会学的な見方が、作品の背景にあります。</p> <p>『モモ』と『エンデの遺言 ―根本からお金を問うこと』を読み、社会史的問題にも配慮しながら、現代社会のあり方について一緒に考えていきたいと思います。「お金」と「時間」の問題を考察した、歴史・哲学・社会学・文化史の分野の論文をもってきますので、担当者はこれを要約発表してください。</p> <p>以上とは別に、受講者に毎回1名、研究発表をしてもらいます。3回生は前期後期それぞれ1回、4回生は1年1回が義務です。</p>						
到達目標	専門書の読解能力の向上。						
授業計画	<p>第1回：授業概要・成績評価の説明。エンデの生涯について概説。研究発表者の割り振り。</p> <p>第2～3回：『モモ』を一緒に読む。</p> <p>第4～15回：1回に1人が研究発表、1人が『モモ』の要約発表、1人が渡された論文の要約発表。 (『モモ』を読了した時点で映画を鑑賞)</p> <p>第16～18回：『エンデの遺言』を一緒に読む。</p> <p>第19～30回：1回に1人が研究発表、1人が『エンデの遺言』の要約発表、1人が渡された論文の要約発表。</p>						
授業外における学習(準備学習の内容)	論文の要約と自己研究の発表を課する。						
授業方法	初めはテキストの回読。 慣れてきたら個人研究発表、テキストの要約発表、論文の要約発表の3本立て。						
評価基準と評価方法	出席率、授業に対する熱意、個人発表内容、レポート内容に基づき総合的に評価。						
教科書	ミヒヤエル・エンデ、大島かおり訳『モモ』(岩波少年文庫127、2005年)						
参考書	<p>角山榮『時計の社会史』(中公新書、1984年)</p> <p>ゲルハルト・ドールン・ファン・ロスマ、藤田幸一郎他訳『時間の歴史 ―近代の時間秩序の誕生』(大月書店、1999年)</p> <p>子安美知子『エンデと語る』(朝日選書、1986年)</p> <p>福井憲彦『時間と習俗の社会史 ―生きられたフランス近代へ』(ちくま学芸文庫、1996年)</p>						

科目区分	総合文芸学科専門教育科目						
科目名	文芸第1演習VI／文芸第1演習VII						
担当教員	村上 知彦						
学期	通年／Full Year	曜日・時限	金曜3	配当学年	3	単位数	4.0
授業のテーマ	現代メディア文化の研究						
授業の概要	文学、映画、テレビ、ラジオ、音楽、まんが、アニメ、ゲーム、ファッション、広告、インターネットなど現代のメディア文化全般について、それらがメディアによってどのように表現され、時代や社会とどのように関わってきたかを考察する。メディア研究の理論と方法、メディア文化に関わる主題をみつける視点を、文献や先行研究を通して身につける。 授業は、前期はメディア研究の基礎的テキストの講読および課題についての個人またはグループ発表、後期は各人の関心のある、メディア文化に関わるテーマについての個人発表と発展テキストの講読、および卒論計画の検討と発表によって進める。						
到達目標	メディア研究の基礎的テキストの講読を通して、現代のメディア文化の多様な広がりを知る。メディア文化に関わる先行研究や文献の講読を手がかりに、私たちの暮らしや文化とメディアとのかかわりを考察し、卒業研究の主題の発見へとつなげる。						
授業計画	<p>・以下は、受講生による議論の広がりや授業の進展等により、随時修整される可能性がある。</p> <p>前期</p> <p>(1) イントロダクション/メディア研究の理論と方法 (2) テキスト概説/はじめてのメディア研究 (3) テキスト概説と発表者割り振り (4) テキスト講読・1メディア・リテラシー (5) テキスト講読・2メディア史を概観する (6) テキスト講読・3ジャーナリズムの歴史と課題 (7) テキスト講読・4メディアと社会の理論 (8) テキスト講読・5メディアと文化の理論 (9) テキスト講読・まとめとディスカッション (10) ～(14) 選択課題につき発表とディスカッション (15) まとめ</p> <p>後期</p> <p>(16) イントロダクション/メディア文化研究の意義と展望 (17) ～(18) 「メディア文化論」講義と発表者割り振り (19) ～(27) 個人発表、およびテキスト講読と関連講義 (28) ～(29) 卒論テーマの検討と研究計画の発表 (30) レポート指導とまとめ</p>						
授業外における学習(準備学習の内容)	授業前学習：指示した文献の精読、発表の準備などを十分に行った上で授業に臨むこと。 授業後学習：配布資料、レジュメ等を整理し、自分自身の関心にひきつけて考えをまとめてみる。授業で紹介した参考文献、作品資料などのうち、関心を持ったものには積極的に目を通す。						
授業方法	学生による発表と討論を中心にした演習形式						
評価基準と評価方法	発表内容、授業への参加度、提出物等により総合的に評価する。						
教科書	「はじめてのメディア研究」浪田陽子・福間良明編、世界思想社 ISBN978-4-7907-1563-4 その他、授業中に指示します。						
参考書	授業中に紹介します						

科目区分	総合文芸学科専門教育科目						
科目名	文芸第2演習I						
担当教員	宗像 衣子						
学期	通年／Full Year	曜日・時限	火曜3	配当学年	4	単位数	4.0
授業のテーマ	文学・芸術の創造性と文化の諸相						
授業の概要	<p>文芸をめぐる諸問題を、以下の視点から検討してゆく。 分野：言語・文学—芸術（美術・音楽）—社会・思想—文化 時代：近代（18・19世紀）—現代（20・21世紀）を軸に 地域：フランスを中心に西洋・アメリカ—東洋・日本</p> <p>ここから広がる関連領域にどのような研究テーマの可能性があるかを紹介し、 数例の探究を経験した上で、出席者が各々関心をもっている事柄を手掛かりに研究発表をしてゆく。 その突き合わせによって、種々の研究内容・方法を学び、関連資料に接しながら、 全員がこの研究領域に関する知見を深めて、 自らの研究課題を発掘し見直しつつ、より豊かな地平から探究してゆくことを目指す。</p>						
到達目標	身近な関心から出発し、視聴覚資料も見たり聞いたりしながら、様々な「見方・感じ方」に触れて、 関心と意識と知識を充実させ、広い視野を開拓してほしい。 出席者皆の感性・知性を重ねることで、思いもかけない楽しみや自分が変わるよろこびを たくさん発見できます。						
授業計画	以下、授業の性質上、受講生の人数・状況等によって修正されることがある。 前期 1回 演習オリエンテーション 2～11回 4年生による研究発表と討論 12～15回 補足討論・関連資料研究・まとめ 見学授業を含む場合がある 後期 16回 演習ガイダンス 17～24回 3年生による研究発表と討議 25～30回 補足討論・関連資料研究 見学授業を含む場合がある						
授業外における学習（準備学習の内容）	課題学習						
授業方法	演習						
評価基準と評価方法	平常点80%、レポート等20%						
教科書	授業内容に即した各種資料や参考書を配付・紹介する。						
参考書	日本の風景・西欧の景観 著 A.ベルク 篠田勝英訳(講談社)						

科目区分	総合文芸学科専門教育科目						
科目名	文芸第2演習II						
担当教員	勝村 弘也						
学期	通年／Full Year	曜日・時限	水曜3	配当学年	4	単位数	4.0
授業のテーマ	民俗学と歴史研究						
授業の概要	2年サイクルの授業計画に従っている演習。昨年度は、「民俗学」を中心とした授業でした。本年度は、まず昔話や寓話の背景にある人間の生活や思想について考えます。その後、19世紀の西欧の学問や芸術のありかたについて調べ、現代の芸術や思想の特徴について学びます。						
到達目標	自分でテーマを設定して、歴史を研究する。						
授業計画	<p>前期</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) オリエンテーション、民俗学とはどんな学問か 2) 4回生による発表、歴史研究の方法(1) 学生発表者の分担。 3) 4回生による発表、歴史研究の方法(2) 4) グリム昔話集を題材とした昔話の研究手法(1) 5) グリム昔話集を題材とした昔話の研究手法(2) 6) 世界の物語集(1) 7) 世界の物語集(2) 8) 世界の物語集(3) 9) 日本の物語集(1) 10) 日本の物語集(2) 11) ロマン主義の祖、J・J・ルソーの生涯と思想 12) フランス革命と啓蒙思想 13) ドイツ・ロマン主義、ロマン主義絵画 14) ロマンチックな音楽 15) 前期のレポートの課題 <p>後期</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 前期レポートの講評と学生発表の分担 2) ロマン主義、提出レポートによる研究発表 3) 歴史研究の方法(つづき) 4) 現代の思想と学問 5) 文化人類学(1) 6) 文化人類学(2) 7) 「交換」、クラについて考える(1) 8) 「交換」、クラについて考える(2) 9) 現代芸術について考える(1) 10) 現代芸術について考える(2) 11) 芸術評論文を読む 12) 現代文明の諸問題(1) 13) 現代文明の諸問題(2) 14) 後期レポートの課題発表、学生発表予備日 15) レポート個別指導 						
授業外における学習(準備学習の内容)	特に発表に当たった時は、参考文献などを読み、決められた課題について適当な長さにまとめて印刷すること。簡単な課題については、口頭発表できるように知識を整理しておくこと。						
授業方法	学生による研究発表と討論を中心とした演習形式。簡単な課題は、全員に課されることがある。						
評価基準と評価方法	出席(単なる「出席」の意味ではなく、課題の発表、討論への参加が前提条件である)。テーマごとに割り当てられる研究発表(ここまでの項目で約60パーセント)。各学期末のレポート(約40パーセント)などを総合する。評価の比率については目安である。レポートに関しては加点されることがある。						
教科書							

参考書	毎回のように入業中に紹介します。
-----	------------------

科目区分	総合文芸学科専門教育科目						
科目名	文芸第2演習Ⅳ						
担当教員	山田 道夫						
学期	通年／Full Year	曜日・時限	水曜3	配当学年	4	単位数	4.0
授業のテーマ	神話と悲劇のヒーロー像、ヒロイン像をさぐる						
授業の概要	ギリシア神話や日本の神話のさまざまなトピックを比較文学的、文芸批評的に考察する。取り扱う主要なテキストはホメロス、ギリシア悲劇、古事記。前期はソポクレス劇のなかでどのようなヒーロー像、ヒロイン像が造型されているかを、その情念と規範意識に着目して調べてゆく。後期はそれらと対照させて古事記やエウリピデスに考察の範囲を広げる。古代の文芸における悲劇的人物像をさぐってゆくという作業を通じて、さまざまな文芸テキストを深く、また相互に比較して多面的に考察する力、自分なりの解釈や批評を整合的に組み立てる力を養うのが授業の目的である。						
到達目標	古代の文芸におけるヒーローやヒロインの姿をさぐってゆくという作業を通して、さまざまな文芸テキストを深く、また相互に比較して多面的に考察する力、自分なりの解釈や筋の通った批評を組み立てる力を養う。						
授業計画	<p>前期</p> <p>第1回：イントロダクション、テキスト・参考文献概説</p> <p>第2回：『オイディプス王』と『コロノスのオイディプス』(1)</p> <p>第3回：『オイディプス王』と『コロノスのオイディプス』(2)</p> <p>第4回：『オイディプス王』と『コロノスのオイディプス』(3)</p> <p>第5回：『アイアス』を読む(1)</p> <p>第6回：『アイアス』を読む(2)</p> <p>第7回：『トラキスの女たち』を読む(1)</p> <p>第8回：『トラキスの女たち』を読む(2)</p> <p>第9回：『アンティゴネー』を読む(1)</p> <p>第10回：『アンティゴネー』を読む(2)</p> <p>第11回：ソポクレス劇の人物造型—4回生による調査発表(1)</p> <p>第12回：ソポクレス劇の人物造型—4回生による調査発表(2)</p> <p>第13回：ソポクレス劇の人物造型—4回生による調査発表(3)</p> <p>第14回：ソポクレス劇の人物造型—4回生による調査発表(4)</p> <p>第15回：まとめと展望、レポート課題の説明</p> <p>後期</p> <p>第1回：『古事記』の英雄と女たち(1)スサノオ、前期レポート提出</p> <p>第2回：『古事記』の英雄と女たち(2)オオクニヌシ</p> <p>第3回：『古事記』の英雄と女たち(3)ヤマトタケル</p> <p>第4回：『古事記』の英雄と女たち(4)ヤマトタケル</p> <p>第5回：『トロイアの女たち』を読む(1)</p> <p>第6回：『トロイアの女たち』を読む(2)</p> <p>第7回：『アンドロマケー』を読む(1)</p> <p>第8回：『アンドロマケー』を読む(2)</p> <p>第9回：アンドロマケーとペネロペイア(1)</p> <p>第10回：アンドロマケーとペネロペイア(2)</p> <p>第11回：3回生による調査発表とディスカッション(1)</p> <p>第12回：3回生による調査発表とディスカッション(2)</p> <p>第13回：3回生による調査発表とディスカッション(3)</p> <p>第14回：3回生による調査発表とディスカッション(4)</p> <p>第15回：まとめと展望、後期レポート提出</p>						
授業外における学習(準備学習の内容)	シラバスを見て、各回の授業で取り上げるテキストや参考文献をあらかじめよく読み、問題点を整理しておくこと。						
授業方法	演習。あらかじめじぶんで拾い出した問題点とそれについての解釈を提起しあい議論する。4回生は前期、3回生は後期に、ひとり一度ずつまとまった研究発表を行う。						
評価基準と評価方法	平常の授業への参加度、取組みかたなどの平常点50%、学期末のレポート50%で評価する。						

教科書	授業時に指示する
参考書	

科目区分	総合文芸学科専門教育科目						
科目名	文芸第2演習V						
担当教員	柿沼 伸明						
学期	通年／Full Year	曜日・時限	水曜3	配当学年	4	単位数	4.0
授業のテーマ	ミヒヤエル・エンデの童話『モモ』をもとに「お金」と「時間」の問題について考える。						
授業の概要	<p>『モモ』は、1973年、作者エンデが44歳のときに発表された児童文学作品で、これまで多数の言語に翻訳され、映画化もされました。しかし、エンデのなかでは、単なる子供向けのおとぎ話を考え出すことよりも、近代ならびに現代の社会システムへの批判という創作動機のほうが強くありました。</p> <p>『モモ』には、時間貯蓄銀行から派遣された灰色の男たちが登場し、自分の時間を預ければ利子によって人生の何十倍もの時間を享受できると言って、人々を勧誘します。人間がお金を崇拜し、その虜となっていく傾向は、近代の大規模な資本主義的生産様式の進展と深いつながりがあります。また、中世ヨーロッパで発明された機械時計は、より正確に時を刻む技術が追求されていき、産業革命後、労働の効率的な管理の重要な手段となりました。こうした「お金」と「時間」についての哲学的・社会学的な見方が、作品の背景にあります。</p> <p>『モモ』と『エンデの遺言 ―根本からお金を問うこと』を読み、社会史的な問題にも配慮しながら、現代社会のあり方について一緒に考えていきたいと思います。「お金」と「時間」の問題を考察した、歴史・哲学・社会学・文化史の分野の論文をもってきますので、担当者はこれを要約発表してください。</p> <p>以上とは別に、受講者に毎回1名、研究発表をしてもらいます。3回生は前期後期それぞれ1回、4回生は1年1回が義務です。</p>						
到達目標	専門書の読解能力の向上。						
授業計画	<p>第1回：授業概要・成績評価の説明。エンデの生涯について概説。研究発表者の割り振り。</p> <p>第2～3回：『モモ』を一緒に読む。</p> <p>第4～15回：1回に1人が研究発表、1人が『モモ』の要約発表、1人が渡された論文の要約発表。 (『モモ』を読了した時点で映画を鑑賞)</p> <p>第16～18回：『エンデの遺言』を一緒に読む。</p> <p>第19～30回：1回に1人が研究発表、1人が『エンデの遺言』の要約発表、1人が渡された論文の要約発表。</p>						
授業外における学習(準備学習の内容)	論文の要約と自己研究の発表を課する。						
授業方法	初めはテキストの回読。 慣れてきたら個人研究発表、テキストの要約発表、論文の要約発表の3本立て。						
評価基準と評価方法	出席率、授業に対する熱意、個人発表内容、レポート内容に基づき総合的に評価。						
教科書	ミヒヤエル・エンデ、大島かおり訳『モモ』(岩波少年文庫127、2005年)						
参考書	<p>角山榮『時計の社会史』(中公新書、1984年)</p> <p>ゲルハルト・ドールン・ファン・ロスマ、藤田幸一郎他訳『時間の歴史 ―近代の時間秩序の誕生』(大月書店、1999年)</p> <p>子安美知子『エンデと語る』(朝日選書、1986年)</p> <p>福井憲彦『時間と習俗の社会史 ―生きられたフランス近代へ』(ちくま学芸文庫、1996年)</p>						

科目区分	総合文芸学科専門教育科目						
科目名	文芸第2演習VI						
担当教員	木村 勲						
学期	通年／Full Year	曜日・時限	金曜3	配当学年	4	単位数	4.0
授業のテーマ	近代文芸とメディア						
授業の概要	樋口一葉の『たけくらべ』を引き続き読む。一葉の作・生涯を軸に明治に成立した近代文学を考えていく。						
到達目標	近代文芸成立期の特徴把握						
授業計画	<p>前期 ①四章「三味の音色」②五章「待つ身につらき」③六章「喧嘩の相手」④七章「龍華寺」⑤八章「紺屋の乙娘」⑥九章「後新造」⑦十章「田町の姉」⑧十一章「行く後影」⑨十二章「鞍馬の石灯籠」⑩一三章「生憎の雨」⑪一四章「角町京町」⑫十五章「嶋田の髷」⑬十六章「喧嘩」⑭補足説明・時代的背景⑮同・『にごりえ』との比較</p> <p>なお後期は「卒論研究」として各人に即しての指導、3限と4限「卒論研究」を通して行います。</p>						
授業外における学習（準備学習の内容）	各自、卒論テーマを意識しつつ読む。						
授業方法	ゼミ。ゼミは通常の講義とは逆に学生からの発信が基本。順番に報告してもらう。報告者は持ち時間をフル活用して、自己の考えを開陳すること。聞く側も遠慮なく意見をいうこと。ともに権利である。						
評価基準と評価方法	報告・討議への意欲、小レポート（以上50%）、期末レポート（50%）を総合して。						
教科書	樋口一葉「にごりえ たけくらべ」岩波文庫 ISBN 4-00-310251-7						
参考書	馬場弧蝶「明治文壇の人々」ウェッジ文庫						

科目区分	総合文芸学科専門教育科目						
科目名	文芸第2演習VII						
担当教員	村上 知彦						
学期	通年／Full Year	曜日・時限	金曜3	配当学年	4	単位数	4.0
授業のテーマ	現代メディア文化の研究						
授業の概要	文学、映画、テレビ、ラジオ、音楽、まんが、アニメ、ゲーム、ファッション、広告、インターネットなど現代のメディア文化全般について、それらがメディアによってどのように表現され、時代や社会とどのように関わってきたかを考察する。メディア研究の理論と方法、メディア文化に関わる主題をみつける視点を、文献や先行研究を通して身につける。授業は、前期はメディア研究の基礎的テキストの講読および各自の卒論テーマに関する個人発表、後期は発展テキストの講読によって進める。						
到達目標	メディア研究の基礎的テキストの講読を通して、現代のメディア文化の多様な広がりを知る。メディア文化に関わる先行研究や文献の講読を手がかりに、私たちの暮らしや文化とメディアとのかかわりを考察し、卒業研究の主題の考察へと生かす。						
授業計画	<p>・以下は、受講生による議論の広がりや授業の進展等により、随時修整される可能性がある。</p> <p>前期</p> <p>(1) イントロダクション/メディア研究の理論と方法 (2) テキスト概説/はじめてのメディア研究 (3) テキスト概説と発表者割り振り (4) テキスト講読・1メディア・リテラシー (5) テキスト講読・2メディア史を概観する (6) テキスト講読・3ジャーナリズムの歴史と課題 (7) テキスト講読・4メディアと社会の理論 (8) テキスト講読・5メディアと文化の理論 (9) テキスト講読・まとめとディスカッション (10) ～(14) 卒論テーマに関する個人発表とディスカッション (15) まとめ</p> <p>後期</p> <p>(16) イントロダクション/メディア文化研究の意義と展望 (17) ～(18) 「メディア文化論」講義と発表者割り振り (19) ～(27) 3年個人発表へのコメント、およびテキスト講読と関連講義 (28) ～(29) 3年卒論テーマの検討・発表への討論参加 (30) まとめ</p>						
授業外における学習(準備学習の内容)	授業前学習：指示した文献の精読、発表の準備などを十分に行った上で授業に臨むこと。 授業後学習：配布資料、レジュメ等を整理し、自分自身の関心にひきつけて考えをまとめてみる。授業で紹介した参考文献、作品資料などのうち、関心を持ったものには積極的に目を通す。						
授業方法	学生による発表と討論を中心にした演習形式						
評価基準と評価方法	発表内容、授業への参加度、提出物等により総合的に評価する。						
教科書	「はじめてのメディア研究」浪田陽子・福間良明編、世界思想社 ISBN978-4-7907-1563-4 その他、授業中に指示します。						
参考書	授業中に紹介します						

科目区分	総合文芸学科専門教育科目						
科目名	文芸特殊講義IA／文芸特殊講義C／（世界の民俗と民話）						
担当教員	勝村 弘也						
学期	前期／1st semester	曜日・時限	水曜2	配当学年	3～4	単位数	2.0
授業のテーマ	世界の民話の研究						
授業の概要	民話の研究方法に関する基礎知識を学ぶ。グリム昔話など海外の民話を中心に扱う。						
到達目標	世界各地の民話を比較研究するために必要な基礎知識を獲得し、自分で簡単なテーマを立てて、研究できるようになること。						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1) 口頭伝承の比較と分類 2) グリム兄弟の生涯とその時代 3) 民俗学とは、どのような学問か？ 4) バジールとグリムとペローの「眠り姫」を比較する 5) 「白雪姫」の小人 6) マックス・リュウティの昔話研究 7) マックス・リュウティの昔話研究（つづき） 8) 物語の構造 9) 世界の物語集 10) パンチャタントラと日本文学 <ol style="list-style-type: none"> 11) 寓話 12) 死体化生物起源神話 13) 「嫁殺し田」伝説 14) 怪談「番町皿屋敷」のお菊 15) まとめ 						
授業外における学習（準備学習の内容）	適宜講義の中で指示する。ウェブサイトから簡単に得ることの出来る情報を事前に見ておくように指示することがある。						
授業方法	主として講義形式、受講者による簡単な報告を適宜行う。						
評価基準と評価方法	授業への参加（単なる出席ではなく受講態度をも含む。30パーセント）、小レポート（30－40パーセント）、学期末のレポート（30－40パーセント）を総合して評価する。						
教科書							
参考書	講義時間中に適宜紹介する。「グリム昔話集」は文庫本などを各自で購入しておくことが望ましい。						

科目区分	総合文芸学科専門教育科目						
科目名	文芸特殊講義IB／文芸特殊講義D／（日本の民俗と民話）						
担当教員	勝村 弘也						
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	水曜2	配当学年	3～4	単位数	2.0
授業のテーマ	日本の民話と生活文化						
授業の概要	日本の昔話・伝説の研究方法について学びながら、日本文化の基底にある生活文化について考察する。						
到達目標	民話を民衆の生活との関係で考えるための方法を習得する						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1) 日本の代表的な昔話、日本の気候と風土 2) 照葉樹林文化、アジアの食文化 3) 河童 4) 河童（つづき）、浦島太郎 5) 浦島太郎（つづき） 6) さるかに合戦、カチカチ山 7) 天人女房（1） 8) 天人女房（2） 9) 日本の食文化（酒ともち）、暦 10) 客人の訪問、大蔵の客 11) 酒呑童子 12) 日本の年中行事 13) 森と生活文化、日本の野生生物、レポートの書き方 14) 伝説や古典文学から災害について考える 15) 照葉樹林文化について再考する 						
授業外における学習（準備学習の内容）	テーマごとに簡単な予習をすること。数回の小レポートの作成。						
授業方法	講義形式。受講者による簡単な報告を求められることがある。						
評価基準と評価方法	平常点40—60%（小レポートなどを含む）、期末のレポート60—40%。提出の義務づけられていないレポートを提出した場合には、平常点の割合を大きくすることがある。 *注記：この科目には、義務化されていないレポートの提出があります。これは講義期間中に提出するものです。出しておいた場合は、期末レポートの評価方法が違ってきます。						
教科書							
参考書	参考文献は、テーマごとに講義の中で知らせる。基本的文献としては、日本伝説大系、柳田國男全集、折口信夫全集がある。また、野本寛一の著書（『生態と民俗』『焼畑民俗文化論』など）はいずれも重要である。						

科目区分	総合文芸学科専門教育科目						
科目名	文芸特殊講義IIA/文芸特殊講義E/ (キリスト教美術A)						
担当教員	横川 典古						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	火曜4	配当学年	3~4	単位数	2.0
授業のテーマ	キリスト教美術を読み解く						
授業の概要	<p>東方キリスト教美術史</p> <p>「はじめに言葉ありき」とは、ヨハネによる福音書の冒頭をかざる有名な文章ですが、ことば（ロゴス）を重要視するキリスト教は同時に、イメージ言語とも言うべき図像も重要なものとして発展させました。草創期のキリスト教教会においては、画像表現を偶像崇拜につながるものとして禁止していたユダヤ教の影響が強かったため、美術表現を危険視していました。しかしローマ帝国の権力と結びつき、さらにヨーロッパ世界におけるキリスト教信仰の普及と共に、視覚芸術を壮麗に創造し、西洋美術の根幹を形成してきました。前期は、古代オリエント美術から古代ギリシャ・ローマ美術をへて、東方キリスト教美術であるビザンティン美術をとりあげます。</p>						
到達目標	<p>この講義では、東方キリスト教世界のキリスト教美術を知り鑑賞する為に、キリスト教図像学を理解することを目標に置きますが、そのために先行する古代オリエント美術、さらに古代ギリシャ・ローマ美術を美術史的に学びます。</p> <p>また、後期にとりあげる西方キリスト教美術とあわせて概観することにより、時代や地域によって様々に変化発展するキリスト教美術を通して、キリスト教文化をより深く理解することが目的です。</p>						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 西洋美術史と図像解釈学 2. 古代エジプト美術 3. 古代メソポタミア美術 4. 地中海文明とエーゲ海美術 5. 古代ギリシャ美術 6. 古代ローマ美術 7. 初期キリスト教美術 8. コンスタンティヌス大帝と古代末期の美術 9. キリスト教建築の形成 10. テオドシウス朝の美術 11. ビザンティン帝国と東方キリスト教美術 12. ユスティニアヌス朝の美術 13. モザイク装飾とイコン 14. 聖像論争とイコノクラスム 15. 末期ビザンティン美術 						
授業外における学習（準備学習の内容）	<p>授業で扱った作例を、画集やインターネットによる画像などを通じて確認し、作品を鑑賞するようにしてください。さらに、関連のある美術展が開催される時には授業中に案内しますので、積極的に足を運び本物に多く触れるよう心がけてください。</p>						
授業方法	講義						
評価基準と評価方法	平常点50%、期末テストまたは期末レポート50%						
教科書							
参考書	H. W. ジャンソン著/木村重信・辻成史訳『美術の歴史』創元社						

科目区分	総合文芸学科専門教育科目						
科目名	文芸特殊講義IIB／文芸特殊講義F／（キリスト教と美術B）						
担当教員	横川 典古						
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	火曜4	配当学年	3～4	単位数	2.0
授業のテーマ	キリスト教美術を読み解く						
授業の概要	<p>西方キリスト教美術史</p> <p>「はじめに言葉ありき」とは、ヨハネによる福音書の冒頭をかざる有名な文章ですが、ことば（ロゴス）を重要視するキリスト教は同時に、イメージ言語ともいうべき図像も重要なものとして発展させました。草創期のキリスト教教会においては、画像表現を偶像崇拜につながるものとして禁止していたユダヤ教の影響が強かったため、美術表現を危険視していました。しかしローマ帝国の権力と結びつき、ヨーロッパ世界におけるキリスト教信仰の普及と共に視覚芸術を壮大に発展させ、西洋美術の根幹を形成してきました。この講義では、こうしたキリスト教美術を理解し鑑賞する為に、キリスト教図像学を中心にした西洋美術史を概観していきます。</p> <p>西ローマ帝国の崩壊後、西ヨーロッパはしばらく暗黒時代に入りますが、中世キリスト教社会の中で形成されていく西方キリスト教美術をとりあげ、さらにルネサンス時代に発展をとげて、バロック時代Jに至るまでのキリスト教美術までを概観します。</p>						
到達目標	この講義では、西方キリスト教世界のキリスト教美術を知り鑑賞する為に、キリスト教図像学を中心にした西洋美術史を学びます。さらに前期に学んだ東方キリスト教美術と比較しながら、キリスト教美術の特色と歴史的役割について考察し、キリスト教理解をより深めるのがねらいです。						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 16. ローマ帝国の崩壊と西ヨーロッパの誕生 17. ケルト・ゲルマンの美術 18. カロリング朝の美術とキリスト教図像学 19. オットー朝の美術とキリスト教修道主義 20. ロマネスク美術と聖地巡礼 21. ゴシックの大聖堂と光の美学 22. 都市の発展とゴシック美術 23. 国際ゴシック様式と写本挿絵芸術 24. プロト・ルネサンス 25. 初期イタリアルネサンスの美術 26. ローマ教皇庁と盛期ルネサンス 27. 北方ルネサンス 28. 宗教改革とマニエリスムの美術 29. 南欧バロック美術と対抗宗教改革 30. 北方バロック美術とプロテスタントイズム 						
授業外における学習（準備学習の内容）	授業で扱った作例を、画集やインターネットによる画像などを通じて確認し、作品を鑑賞するようにしてください。さらに、関連のある美術展が開催される時には授業中に案内しますので、積極的に足を運び本物に多く触れるよう心がけてください。						
授業方法	講義						
評価基準と評価方法	平常点50%、期末テストまたは期末レポート50%						
教科書							
参考書	H. W. ジャンソン著/木村重信・辻成史訳『美術の歴史』創元社						

科目区分	総合文芸学科専門教育科目						
科目名	文芸特殊講義IIIA / (日本ジャーナリズム史)						
担当教員	木村 勲						
学期	前期 / 1st semester	曜日・時限	木曜2	配当学年	3~4	単位数	2.0
授業のテーマ	今年はジャーナリズム史のうちの文芸ジャーナリズムに絞ります。						
授業の概要	明治に始まった日本の新聞は政論新聞として語られることが普通ですが、じつは文芸分野でも独自の発展を遂げました。雑誌とりわけ文芸誌が大きな役割をしました(今も雑誌・新聞系の賞が権威をもつ)。それは大虚構より、小現実の尾を引くフィクションを主流にし、比較的マイナーな作品・作家の登場を容易にした効能もありました。ハーン(小泉八雲)、樋口一葉、与謝野晶子、漱石をその媒体をベースに置いて考えます。						
到達目標	抽象的に文芸があるのではなく、媒体(メディア)があって文芸があるという認識へ。						
授業計画	① 江戸のメディア ② ジョセフ・ヒコの「海外新聞」 ③ ジャーナリスト作家・ハーン ④ 「文芸倶楽部」M28年5月、一葉『にぎりえ』1 展開 ⑤ 同2 舞台設定 ⑥ 同3 なにを描こうとしたか ⑦ 「よしあし草」M30年、明星を準備した大阪の雑誌 ⑧ 「明星」1 与謝野晶子の叫び ⑨ 同2 山川登美子の誤解 ⑩ 同3 石上露子の悲愁 ⑪ 「明星」「スバル」石川啄木の挑戦 ⑫ 朝日新聞 M41年7月25日 漱石『夢十夜』第1夜 百年眠る美女 ⑬ 同 28日 同第3夜 ずしり重くなった背中の子 ⑭ 同 8月5日 第10夜 打っても打っても出てくる豚 ⑮ 「新思潮(第4次)」T4 芥川龍之介『鼻』						
授業外における学習(準備学習の内容)	下記「履修上の注意」と同じ						
授業方法	通常講義						
評価基準と評価方法	期末レポート50%、出席・受講態度50%						
教科書	なし。明星作品などは適宜プリント配布						
参考書							

科目区分	総合文芸学科専門教育科目						
科目名	文芸特殊講義IIIIB／（メディア社会の諸問題）						
担当教員	木村 勲						
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	木曜2	配当学年	3～4	単位数	2.0
授業のテーマ	メディアがつくる幻影、幻影に支配されるメディア						
授業の概要	商業メディアを根っこで制約しているのが、紙面・時間帯を埋めることです。異常な事件はもとより歓迎、歓迎せざるは「なにもないこと」です。どうそこを埋めるかが本質的な衝動となっている。そこで、つくります（全くの嘘ということではない）。条件の重なり合いでブレイクすることがある。芸能界がわかりやすい例です（じつは冤罪事件にも同様な構造がある）。するとつくってあげた気だった当のメディアが、それを上位の存在とみなす（膝を屈することさえある）。これは人間がつくったものに人間が逆に支配される、哲学でいう疎外です。ことがらがメディア効果で波及・拡大していく。疎外・共同幻想からのメディアを考えます。						
到達目標	疎外・共同幻想としてのメディアの認識						
授業計画	<ul style="list-style-type: none"> ① 「有名人」ということ ② 時代の寵児 1 米映画「スミス都へ行く」に見る原型 ③ 同映画の背景 ④ 人気政治家の誕生 ⑤ 『坂の上の雲』1 どう読むか ⑥ 同2 どうつくられたか ⑦ 同3 小説と歴史学 ⑧ 同4 小説→映像化→ブーム（群れ）の構造 ⑨ 「皆がそうだ」、俺も…の安心感 ⑩ 「奴が犯人だ」の安心感 1 免田事件 ⑪ 同2 東電女性社員事件 ⑫ 現場はどう「現場」として伝えられるか ⑬ 原発報道 1 「被爆国だから平和利用」 ⑭ 同2 メディア・スキルを原発広報に ⑮ メディア・コントロールとは 						
授業外における学習（準備学習の内容）	日頃の新聞・テレビを社・局ごとどう違うか、の意識をもって						
授業方法	通常講義。適宜プリントを配布。						
評価基準と評価方法	期末レポートと出席・受講態度半々で						
教科書	なし						
参考書	吉本隆明『マス・イメージ論』大和書房、パッペンハイム『近代人の疎外』岩波新書、木村勲『「坂の上の雲」の幻影』論創社						

科目区分	総合文芸学科専門教育科目						
科目名	文芸特殊講義IVA／文芸特殊講義A／（まんが文化論A）						
担当教員	村上 知彦						
学期	前期／1st semester	曜日・時限	木曜3	配当学年	3～4	単位数	2.0
授業のテーマ	メディア文化論-メディアの発達とまんが・アニメ						
授業の概要	印刷メディアから映像、放送メディア、現代のデジタルメディアまで、メディアの発達と大衆文化との関わりを、まんが・アニメを中心に概観する。絵と文の融合した表現であるまんがは、歴史的には文学からも絵画からもはみ出した、いわばサブジャンルとして位置づけられてきた。しかし、量的にも質的にも飛躍的に発達した現代まんがは、もはやそれだけでは片づけられない位置を現代文化の中に占め、あらゆる表現分野にさまざまな影響を与えている。戦後、独自の発展をとげた日本のまんが・アニメが、メディアの発達とどう関わり、何を描き出してきたかを、メディア史の視点から跡づけたい。						
到達目標	まんが・アニメとさまざまなメディアとの関わりを通して、メディアの発達の歴史とその文化的意味を理解する。まんがと、現代の多様な表現分野との影響関係を知ること、メディア文化の最前線にふれ、その可能性や問題点について考える。						
授業計画	(1) イントロダクション (2) メディア文化とは何か/メディアとしてのまんが (3) まんが文化の現在 (4) メディアの発達とまんがの歴史1 前史～手塚治虫 (5) メディアの発達とまんがの歴史2 月刊誌～週刊誌 (6) メディアの発達とまんがの歴史3 貸本劇画と青年メディア (7) メディアの発達とまんがの歴史4 少女雑誌と少女メディア (8) 映画メディアとまんが (9) 映画メディアとアニメ (10) テレビ・メディアとまんが/アニメ (11) メディア文化の現在とまんが/アニメ (12) メディア・アートとまんが表現 (13) まんが/メディア文化と著作権 (14) グローバル化するまんが/メディア文化 (15) まとめ まんが/メディア文化の未来						
授業外における学習（準備学習の内容）	授業前学習：前回授業で理解できなかった点の質問を準備するなど、授業の流れを確認して授業に臨む。 授業後学習：配布資料はもういちど精読し、授業の要点をまとめておく。授業で紹介した参考文献、作品資料などのうち、関心を持ったものには積極的に目を通す。						
授業方法	講義						
評価基準と評価方法	期末レポート（60%）、提出物および平常点等（40%）						
教科書	適宜プリントを配布します。						
参考書	「メディア文化論—メディアを学ぶ人のための15話 改訂版」吉見俊哉、有斐閣 ISBN978-4-641-12487-5 「マンガ産業論」中野晴行、筑摩書房 ISBN 4-480-87346-5 「マンガ進化論」中野晴行、ブルース・インターアクションズ ISBN 978-4-86020-348-1 その他、授業中に紹介します。						

科目区分	総合文芸学科専門教育科目						
科目名	文芸特殊講義IVB／文芸特殊講義B／（まんが文化論B）						
担当教員	村上 知彦						
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	木曜3	配当学年	3～4	単位数	2.0
授業のテーマ	メディア文化論-メディアとしての街・都市という文化						
授業の概要	現代のさまざまな情報文化は、都市という場で私たちの生活と関わりあいながら、都市の生活文化となってゆく。映画館や美術館、書店や喫茶店、マーケットや住宅、学校や交通機関といった都市の構成要素は、情報の発信装置であると同時に日々の生活の一部でもある。そのような情報と生活の接する場としての都市に生成し、さまざまなスポットを通して発信される「都市の情報文化」の諸相を、タウン情報誌など各種メディアにあらわれた情報によって読み解きながら、メディアとしての街について考える。						
到達目標	前期に考察したさまざまなメディア文化は、わたしたちの日々の生活とどのように関わっているか。わたしたちの暮らす都市という場をひとつのメディアとしてとらえ、その情報発信装置としてのなりたちと、都市を構成する諸要素の役割や意義を理解する。						
授業計画	<ul style="list-style-type: none"> (1) イントロダクション (2) 都市と情報文化/情報誌的世界のなりたち (3) 考現学入門 (4) 映画と都市1/シネコンと映画街 (5) 映画と都市2/ミニシアターと名画座 (6) 音楽と都市 ホール/ライブハウス（ジャズ喫茶） (7) 演劇と都市 劇場/寄席（ポスター） (8) 美術と都市 美術館/画廊 (9) 文学と都市 図書館/書店/文学館 (10) 消費と都市1/飲食店（喫茶店/カフェ/レストラン/バー） (11) 消費と都市2/百貨店と商店街（地下街） (12) 交通と都市 沿線文化/遊園地 (13) 街並みと都市 街路/建築 (14) メディアとしての街 (15) まとめ 						
授業外における学習（準備学習の内容）	授業前学習： 前回授業で理解できなかった点の質問を準備するなど、授業の流れを確認して授業に臨む。 授業後学習： 配布資料はもういちど精読し、授業の要点をまとめておく。紹介した都市の情報文化に実際にふれてみるなど、授業内容の実践的理解を心がける。						
授業方法	講義						
評価基準と評価方法	期末レポート（70%）、提出物および平常点等（30%）。						
教科書	適宜プリントを配布します。						
参考書	「情報誌的世界のなりたち」村上知彦、思想の科学社 ISBN 「『ブガジャ』の時代」大阪府立文化情報センター編、ブレンセンター ISBN978-4-8339-0701-9 「ミーツへの道 『街の雑誌』の時代」江弘毅、本の雑誌社 ISBN978-4-86011-205-9 その他、授業中に紹介します。						

科目区分	総合文芸学科専門教育科目						
科目名	文芸との触れ合い／文学との触れ合い／（詩と小説）						
担当教員	青木 和						
学期	通年／Full Year	曜日・時限	木曜4	配当学年	2	単位数	4.0
授業のテーマ	文芸作品の創作						
授業の概要	作品を実際に制作することにより、創作文芸における表現力とは何かを学習します。授業では、与えられた課題について各自が作成した作品を鑑賞します。						
到達目標	文芸作品を創作する上での心構えと基本的な技術を身につけます。						
授業計画	<p>(前期)</p> <p>第1回 創作する目的について考える</p> <p>第2回 原稿用紙の使い方</p> <p>第3回 作品の組み立てについて考える</p> <p>第4回 書き出すにあたって考える</p> <p>第5回 作品鑑賞 (1) 課題①身近なもの-1</p> <p>第6回 作品鑑賞 (2) 課題①身近なもの-2</p> <p>第7回 作品鑑賞 (3) 課題②風景・現象-1</p> <p>第8回 作品鑑賞 (4) 課題②風景・現象-2</p> <p>第9回 作品鑑賞 (5) 課題③目に見えないもの-1</p> <p>第10回 作品鑑賞 (6) 課題③目に見えないもの-2</p> <p>第11回 作品鑑賞 (7) 課題④感情-1</p> <p>第12回 作品鑑賞 (8) 課題④感情-2</p> <p>第13回 作品鑑賞 (9) 課題⑤感覚-1</p> <p>第14回 作品鑑賞 (10) 課題⑤感覚-2</p> <p>第15回 まとめと質疑応答</p> <p>(後期)</p> <p>第1回 導入と質疑応答</p> <p>第2回 作品の磨き方について考える</p> <p>第3回 作品鑑賞 (1) 課題①抽象的なこと-1</p> <p>第4回 作品鑑賞 (2) 課題①抽象的なこと-2</p> <p>第5回 作品鑑賞 (3) 課題②抽象的なこと-1</p> <p>第6回 作品鑑賞 (4) 課題②抽象的なこと-2</p> <p>第7回 作品鑑賞 (5) 課題③状況から-1</p> <p>第8回 作品鑑賞 (6) 課題③状況から-2</p> <p>第9回 作品鑑賞 (7) 課題④状況から-1</p> <p>第10回 作品鑑賞 (8) 課題④状況から-2</p> <p>第11回 作品鑑賞 (9) 課題⑤設定から-1</p> <p>第12回 作品鑑賞 (10) 課題⑤設定から-2</p> <p>第13回 作品鑑賞 (11) 自由課題-1</p> <p>第14回 作品鑑賞 (12) 自由課題-2</p> <p>第15回 まとめ</p>						
授業外における学習（準備学習の内容）	課題に従って、四〇〇字詰め原稿用紙五枚程度までの作品を制作し、期限内に提出して下さい。						
授業方法	講義および受講生作品の鑑賞						
評価基準と評価方法	平常点50%、課題点50%						
教科書	プリント配布						

参考書	なし
-----	----

科目区分	総合文芸学科専門教育科目						
科目名	文芸との触れ合いII／文学との触れ合いIII／（朗読・演劇）						
担当教員	岩崎 正裕						
学期	通年／Full Year	曜日・時限	火曜3	配当学年	2	単位数	4.0
授業のテーマ	文芸作品の音読研究						
授業の概要	<p>前期：戯曲という文芸作品を声に出して読みます。戯曲の中心は対話であり、その行間には様々な解釈が成り立ちます。現代・近代・古典の戯曲の中から抜粋し、登場人物の感情や行動を分析し、実際の劇表現を体験します。</p> <p>後期：日本の現代戯曲をテキストに、リーディングを行います。リーディングとは、複数の相手とコミュニケーションをとりながら台詞を声に出して表見する行為です。何度も反復練習しながら作品をどのように立体化するかを模索します。</p>						
到達目標	<p>前期：台詞の分析、音読を通して現代における対話の可能性を探ります。それは自分自身のコミュニケーションを見直す機会ともなり、他者との意思疎通の向上にも役立ちます。</p> <p>後期：台詞を中心とする文学が戯曲です。作品が具体化するにつれて立体的な空間が現れます。相手との呼吸や距離を意識することによって、普段のコミュニケーションを見つめ直す機会となります。</p>						
授業計画	<p>前期</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. シェイクスピア「ロミオとジュリエット」を読む 物語と構造を中心に 2. シェイクスピア「ロミオとジュリエット」を読む 恋愛と登場人物について 3. シェイクスピア「ロミオとジュリエット」を読む 現代における翻案の可能性 4. シェイクスピア「ロミオとジュリエット」を読む 音読と実践 5. チェーホフ「かもめ」を読む 物語と構造を中心に 6. チェーホフ「かもめ」を読む 人物の関係性と恋愛模様 7. チェーホフ「かもめ」を読む 台詞の解釈と謎解き 8. チェーホフ「かもめ」を読む 音読と実践 9. 地域言語による戯曲の可能性Ⅰ 関西弁の台詞を読む 10. 地域言語による戯曲の可能性Ⅱ 関西弁と標準語の差異 11. 現代詩を群読するⅠ 12. 現代詩を群読するⅡ 13. 日本の戯曲 日本の現代演劇史の中から 14. 日本の戯曲 現代演劇の領域と実践 15. 前期のまとめと発展 <p>後期</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. リーディング候補作の提案 2. リーディング候補作の選定 3. 登場人物の関係性と背景（実践） 4. 立って読む、座って読む（立ち座りの実践） 5. 行動を起こす（音読と行為） 6. 相手との距離（近づく離れる） 7. 空間と身体（有効なポジションとは） 8. 感情の開放と抑制（生きた役を作る） 9. 場面を創造する（作品の可視化） 10. 戯曲に頼らず演技する（台詞に戻るための即興練習） I 1. 言葉と向き合う（即興から戯曲へ。新たな発見） I 2. 関係の構築Ⅰ（呼吸と距離の点検） 13. 関係の構築Ⅱ（呼吸と距離の点検、その発展） 14. リーディング発表（2班体制で発表） 15. 後期のまとめ（発表の合評会） 						
授業外における学習（準備学習の内容）	<p>前期：特に「ロミオとジュリエット」「かもめ」については一読しておいて下さい。その他のテキストについては随時配布します。</p> <p>後期：台詞を暗誦することが目的ではありませんが、日々の際際に作品をよく読むことが大切です。</p>						
授業方法	<p>前期：講義と実技</p> <p>後期：実技実践を中心とします。</p>						
評価基準と評価方法	平常点70% 欠席の場合は減点 参加意欲30%						
教科書	<p>新訳 ロミオとジュリエット シェイクスピア 河合祥一郎角川文庫 ISBN978-4-04-210615-9</p> <p>かもめ・ワーニャ伯父さん チェーホフ 神西清訳新潮文庫 ISBN978-4-10-206502-0</p>						

参考書	なし
-----	----

科目区分	総合文芸学科専門教育科目						
科目名	文芸との触れ合いⅥ／音楽との触れ合いⅡ／（鍵盤楽器）						
担当教員	上野 静江						
学期	通年／Full Year	曜日・時限	木曜2	配当学年	2	単位数	4.0
授業のテーマ	鍵盤楽器の演奏体験を通して音楽と触れ合う						
授業の概要	音楽と深く触れ合うには、実際に演奏してみることが一番の早道でしょう。この授業では、ただ音楽を鑑賞したり、知識を得たりするだけにとどまらず、学内にある鍵盤楽器の初歩的な演奏体験を通して、さらに深く音楽と関わっていくことを目指します。前期は主にチェンバロとアンサンブルを、後期は主にパイプオルガンを取り上げ、鍵盤楽器のしくみや歴史、代表的な楽曲などを学習しつつ、楽譜に書かれた音符を、鍵盤を通して実際に生きた音「音楽」にしていく課程を辿ることで広がる世界を知りましょう。						
到達目標	鍵盤楽器を通して代表的な名曲を知り、さらにはその曲を育んだ作曲家、国や時代、それらを取り巻く文化環境を理解します。学期末には学生主体による発表会を予定しています。						
授業計画	<p>前期</p> <p>第1回 キャンパス内の鍵盤楽器見学 * 初回授業では、キャンパス内にあるパイプオルガン・ポジティブオルガン・グロッケン・チェンバロ・ピアノ等の鍵盤楽器を見学しながら（予定）、同じ鍵盤楽器でも様々な仕組みや音色があることを体験する。</p> <p>第2回 チェンバロについての基礎知識 * 松蔭所蔵のイタリアンチェンバロを見学しながら、そのしくみや歴史を詳しく知る。バロック期の代表的なチェンバロのための作品を鑑賞する。</p> <p>第3回 チェンバロを弾くための基本（1） 第4回 チェンバロを弾くための基本（2） * チェンバロの「鍵盤操作で弦をツメではじく」、という独特の機構を理解し、実際に楽器に触れてみながら音を作っていく。</p> <p>第5回 「チェンバロができるまで」DVD鑑賞 * 日本のチェンバロビルダーが製作したDVDを鑑賞しながら、チェンバロの製造工程を知り、国による様式や音色の特徴を知る。</p> <p>第6回 バロックの小曲を弾いてみよう（1） 第7回 バロックの小曲を弾いてみよう（2） 第8回 バロックの小曲を弾いてみよう（3） * バロック時代の簡単な小品の中から、各自が自分に合った曲を選び、実際にチェンバロを用いて演奏しながら詳細を学ぶ。</p> <p>第9回 アンサンブルをしてみよう（1） 第10回 アンサンブルをしてみよう（2） 第11回 アンサンブルをしてみよう（3） * チェンバロのできるごく簡単な通奏低音に挑戦し、クラス内で実際にアンサンブルを組み、合奏を体験する。</p> <p>第12回 発表会の準備（1） 第13回 発表会の準備（2） 第14回 発表会の準備（3） * 各人の進度に合わせて、個別に課題（楽曲）を決め、その曲に取り組む。 また各自が選んだ楽曲に関して、その作曲家や成立の背景、また作曲家をはぐくんだ国や時代、文化環境等、調べられる限り調べ、クラスで発表する。</p> <p>第15回 前期クラス内発表会 * 各自が前期中に取り組んだ曲の中で、チェンバロのソロ曲を1曲と、アンサンブル曲1曲を選び、演奏する。 人前で演奏することを経験し、また人の演奏を聴くことで、客観的に聴く耳、演奏を批評することを学ぶ。</p> <p>後期</p> <p>第1回 パイプオルガンについて基礎知識 * 松蔭のオルガンについて、代表的なオルガン曲のデモンストレーションを聴きながら、いろいろな音色を体験する。 また実際にオルガン内部を見学し、パイプオルガンの基本的な構造や仕組み、またいろいろなパイプの種類の詳細を知る。（予定）</p> <p>第2回 パイプオルガンを弾くための基本（1） 第3回 パイプオルガンを弾くための基本（2） 第4回 パイプオルガンを弾くための基本（3）</p>						

授業計画	<p>第5回 パイプオルガンを弾くための基本(4) *パイプオルガンの「鍵盤操作でパイプに風を送る」という独特の機構を理解し、実際に楽器に触れてみながら音を作っていく。</p> <p>第6回 「パイプオルガン誕生」DVD鑑賞</p> <p>第7回 いろいろな曲を弾いてみよう(1) 第8回 いろいろな曲を弾いてみよう(2) 第9回 いろいろな曲を弾いてみよう(3) 第10回 いろいろな曲を弾いてみよう(4) *よく知られた作品の中から、各人の進度に合わせて個別に課題(楽曲)を決め、実際にパイプオルガンをを用いて演奏しながら詳細を学ぶ。</p> <p>第11回 発表会の準備(1) 第12回 発表会の準備(2) 第13回 発表会の準備(3) 第14回 発表会の準備(4) *各自が後期中に取り組んだ曲の中で1曲を選び、人前で演奏できるよう準備する。またただ弾くだけではなく、その楽曲に関する情報を可能な限り集め、クラスで紹介する。発表した内容を簡潔にまとめ、発表会の折にはプログラムノートとする。</p> <p>第15回 クラス内発表会と講評</p>
授業外における学習(準備学習の内容)	学外で鍵盤楽器を練習できることが望ましい。
授業方法	講義・実習・発表
評価基準と評価方法	平常点(60%)、レポート(10%)および発表(30%)を総合的に評価。
教科書	プリントを配布。楽曲に関しては随時授業中に紹介していく。
参考書	

科目区分	総合文芸学科専門教育科目						
科目名	文芸との触れ合いIA						
担当教員	青木 和						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	木曜4	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	文芸作品の創作						
授業の概要	作品を実際に制作することにより、創作文芸における表現力とは何かを学習します。授業では、与えられた課題について各自が作成した作品を鑑賞します。						
到達目標	文芸作品を創作する上での心構えと基本的な技術を身につけます。						
授業計画	第1回 創作する目的について考える 第2回 原稿用紙の使い方 第3回 作品の組み立てについて考える 第4回 書き出すにあたって考える 第5回 作品鑑賞 (1) 課題①身近なもの-1 第6回 作品鑑賞 (2) 課題①身近なもの-2 第7回 作品鑑賞 (3) 課題②風景・現象-1 第8回 作品鑑賞 (4) 課題②風景・現象-2 第9回 作品鑑賞 (5) 課題③目に見えないもの-1 第10回 作品鑑賞 (6) 課題③目に見えないもの-2 第11回 作品鑑賞 (7) 課題④感情-1 第12回 作品鑑賞 (8) 課題④感情-2 第13回 作品鑑賞 (9) 課題⑤感覚-1 第14回 作品鑑賞 (10) 課題⑤感覚-2 第15回 まとめと質疑応答						
授業外における学習(準備学習の内容)	課題に従って、四〇〇字詰め原稿用紙五枚程度までの作品を制作し、期限内に提出して下さい。						
授業方法	講義および受講生作品の鑑賞						
評価基準と評価方法	平常点50%、課題点50%						
教科書	プリント配布						
参考書	なし						

科目区分	総合文芸学科専門教育科目						
科目名	文芸との触れ合いⅡ						
担当教員	青木 和						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	木曜4	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	文芸作品の創作						
授業の概要	作品を実際に制作することにより、創作文芸における表現力とは何かを学習します。授業では、与えられた課題について各自が作成した作品を鑑賞します。						
到達目標	文芸作品を創作する上での心構えと基本的な技術を身につけます。						
授業計画	第1回 導入と質疑応答 第2回 作品の磨き方について考える 第3回 作品鑑賞 (1) 課題①抽象的なこと-1 第4回 作品鑑賞 (2) 課題①抽象的なこと-2 第5回 作品鑑賞 (3) 課題②抽象的なこと-1 第6回 作品鑑賞 (4) 課題②抽象的なこと-2 第7回 作品鑑賞 (5) 課題③状況から-1 第8回 作品鑑賞 (6) 課題③状況から-2 第9回 作品鑑賞 (7) 課題④状況から-1 第10回 作品鑑賞 (8) 課題④状況から-2 第11回 作品鑑賞 (9) 課題⑤設定から-1 第12回 作品鑑賞 (10) 課題⑤設定から-2 第13回 作品鑑賞 (11) 自由課題-1 第14回 作品鑑賞 (12) 自由課題-2 第15回 まとめ						
授業外における学習(準備学習の内容)	課題に従って、四〇〇字詰め原稿用紙五枚程度までの作品を制作し、期限内に提出して下さい。						
授業方法	講義および受講生作品の鑑賞						
評価基準と評価方法	平常点50%、課題点50%						
教科書	プリント配布						
参考書	なし						

科目区分	総合文芸学科専門教育科目						
科目名	文芸との触れ合いIIA						
担当教員	岩崎 正裕						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	火曜3	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	文芸作品の音読研究						
授業の概要	戯曲という文芸作品を声に出して読みます。戯曲の中心は対話であり、その行間には様々な解釈が成り立ちます。現代・近代・古典の戯曲の中から抜粋し、登場人物の感情や行動を分析し、実際の劇表現を体験します。						
到達目標	台詞の分析、音読を通して現代における対話の可能性を探ります。それは自分自身のコミュニケーションを見直す機会ともなり、他者との意思疎通の向上にも役立ちます。						
授業計画	1. シェイクスピア「ロミオとジュリエット」を読む 物語と構造を中心に 2. シェイクスピア「ロミオとジュリエット」を読む 恋愛と登場人物について 3. シェイクスピア「ロミオとジュリエット」を読む 現代における翻案の可能性 4. シェイクスピア「ロミオとジュリエット」を読む 音読と実践 5. チェーホフ「かもめ」を読む 物語と構造を中心に 6. チェーホフ「かもめ」を読む 人物の関係性と恋愛模様 7. チェーホフ「かもめ」を読む 台詞の解釈と謎解き 8. チェーホフ「かもめ」を読む 音読と実践 9. 地域言語による戯曲の可能性Ⅰ 関西弁の台詞を読む 10. 地域言語による戯曲の可能性Ⅱ 関西弁と標準語の差異 Ⅰ 1. 現代詩を群読するⅠ Ⅰ 2. 現代詩を群読するⅡ 13. 日本の戯曲 日本の現代演劇史の中から 14. 日本の戯曲 現代演劇の領域と実践 15. 前期のまとめと発展						
授業外における学習（準備学習の内容）	特に「ロミオとジュリエット」「かもめ」については一読しておいてください。その他のテキストについては随時配布します。						
授業方法	講義と実技						
評価基準と評価方法	平常点70% 欠席の場合は減点 参加意欲30%						
教科書	新訳 ロミオとジュリエット シェイクスピア 河合祥一郎訳角川文庫 ISBN978-4-04-210615-9 かもめ・ワーニャ伯父さん チェーホフ 神西清訳新潮文庫 ISBN978-4-10-206502-0						
参考書	なし						

科目区分	総合文芸学科専門教育科目						
科目名	文芸との触れ合いIB						
担当教員	岩崎 正裕						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	火曜3	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	文芸作品の音読研究						
授業の概要	日本の現代戯曲をテキストにリーディングを行います。リーディングとは、複数の相手とコミュニケーションをとりながら台詞を声に出して表現する行為です。何度も反復しながら作品をどのように立体化するかを模索します。						
到達目標	台詞を中心とする文学が戯曲です。作品が具体化するにつれて立体的な空間が現れます。相手との呼吸や距離を意識することによって、普段のコミュニケーションを見つめ直す機会となります。						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. リーディング候補作の提案 2. リーディング候補作の選定 3. 登場人物の関係性と背景（実践） 4. 立って読む、座って読む（立ち座りの実践） 5. 行動を起こす（音読と行為） 6. 相手との距離（近づく離れる） 7. 空間と身体（有効なポジションとは） 8. 感情の開放と抑制（生きた役を作る） 9. 場面を創造する（作品の可視化） 10. 戯曲に頼らずに演技する（台詞に戻るための即興練習） I 1. 言葉と向き合う（即興から戯曲へ 新たなる発見） I 2. 関係の構築Ⅰ（呼吸と距離の点検） I 3. 関係の構築Ⅱ（呼吸と距離の点検 その発展） 14. リーディング発表（2班体制で発表） 15. 後期のまとめ（発表の合評会） 						
授業外における学習（準備学習の内容）	台詞を暗誦することが目的ではありませんが、日々の間に作品を読むことが大切です。						
授業方法	実技実践を中心とします。						
評価基準と評価方法	平常点70% 欠席の場合は減点 参加意欲30%						
教科書	必要に応じて配布します。						
参考書	なし						

科目区分	総合文芸学科専門教育科目						
科目名	文芸との触れ合いⅢⅠA						
担当教員	松尾 郁子						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	火曜3	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	自然と響き合う、色を響かせ合う						
授業の概要	季節の草花の色をつくることや基本的な色彩構成・構図を学び制作、実践していく。						
到達目標	日常生活の中にあふれる様々な美しい色をより鋭敏に感じ、色を響かせ合い、自身の色をつくる。						
授業計画	第1回：オリエンテーション 第2回：季節の草花の色をつくる 第3回：季節の草花の色をつくる 第4回：季節の草花の色をつくる 第5回：ARZAK Rhapsody・フレンチコミック 第6回：色彩キューブ 第7回：色彩キューブ 第8回：色彩キューブ 第9回：色彩キューブ 第10回：切り絵・はさみによる植物デッサン 第11回：切り絵・はさみによる植物デッサン 第12回：切り絵・はさみによる植物デッサン 第13回：構図について 第14回：コラージュ 第15回：コラージュ・合評						
授業外における学習（準備学習の内容）	基本的に無し						
授業方法	講義・実技						
評価基準と評価方法	出席重視。提出物・レポート等から総合的に評価する。						
教科書							
参考書							

科目区分	総合文芸学科専門教育科目						
科目名	文芸との触れ合いⅡIB						
担当教員	徳永 隆之						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	火曜4	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	美術としての写真						
授業の概要	写真を使った作品制作に取り組み、制作者の視点から美術作品を考察することに重点を置きます。授業ではピンホールカメラを製作した後に撮影をおこない、写真の原理を理解します。その後、デジタルカメラを使用して撮影技術を学びます。また、普段触る機会が少ない大型カメラでの撮影も体験し、写真の原理に対する理解を深めます。実習と平行して、写真作家の作品集鑑賞をおこない、作品に込められたメッセージを読み取る練習をします。						
到達目標	制作する体験を通して、美術作品をより深く理解できるようになって欲しいと考えています。						
授業計画	第1回 授業ガイダンス 第2回 ピンホールカメラ製作 第3回 撮影実習① (ピンホールカメラ使用) 第4回 撮影の基礎知識について 第5回 撮影実習② 人物撮影 第6回 blogの作成及び画像調整ソフトの使用説明 第7回 大型カメラ及びデジタル一眼レフカメラの使用説明 第8回 撮影実習③ (大型カメラ使用) 第9回 撮影実習④ (大型カメラ使用) 第10回 撮影実習⑤ (デジタル一眼レフ使用) 第11回 講義「写真の歴史」 第12回 作品集鑑賞① 第13回 作品集鑑賞② 第14回 撮影実習⑥ (コンストラクティッドフォトについて考える) 第15回 画像編集・レポート及び作品提出						
授業外における学習(準備学習の内容)	授業外で各自被写体を探し撮影します。また、写真提出はblogでおこないます。						
授業方法	実習及び演習						
評価基準と評価方法	「課題 40%、平常点 60%」欠席した場合は大幅に減点しますので注意してください。						
教科書	必要な際にプリントを配布します。						
参考書							

科目区分	総合文芸学科専門教育科目						
科目名	文芸との触れ合いⅣA						
担当教員	上野 静江						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	木曜2	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	鍵盤楽器の演奏体験を通して音楽と触れ合う						
授業の概要	音楽と深く触れ合うには、実際に演奏してみることが一番の早道でしょう。この授業では、ただ音楽を鑑賞したり、知識を得たりするだけにとどまらず、学内にある鍵盤楽器の初歩的な演奏体験を通して、さらに深く音楽と関わっていくことを目指します。前期は主にチェンバロとアンサンブルを、後期は主にパイプオルガンを取り上げ、鍵盤楽器のしくみや歴史、代表的な楽曲などを学習しつつ、楽譜に書かれた音符を、鍵盤を通して実際に生きた音「音楽」にしていく課程を辿ることで広がる世界を知りましょう。						
到達目標	鍵盤楽器を通して代表的な名曲を知り、さらにはその曲を育んだ作曲家、国や時代、それらを取り巻く文化環境を理解します。学期末には学生主体による発表会を予定しています。						
授業計画	<p>前期</p> <p>第1回 キャンパス内の鍵盤楽器見学 * 初回授業では、キャンパス内にあるパイプオルガン・ポジティブオルガン・グロッケン・チェンバロ・ピアノ等の鍵盤楽器を見学しながら（予定）、同じ鍵盤楽器でも様々な仕組みや音色があることを体験する。</p> <p>第2回 チェンバロについての基礎知識 * 松蔭所蔵のイタリアンチェンバロを見学しながら、そのしくみや歴史を詳しく知る。バロック期の代表的なチェンバロのための作品を鑑賞する。</p> <p>第3回 チェンバロを弾くための基本（1） 第4回 チェンバロを弾くための基本（2） * チェンバロの「鍵盤操作で弦をツメではじく」、という独特の機構を理解し、実際に楽器に触れてみながら音を作っていく。</p> <p>第5回 「チェンバロができるまで」DVD鑑賞 * 日本のチェンバロビルダーが製作したDVDを鑑賞しながら、チェンバロの製造工程を知り、国による様式や音色の特徴を知る。</p> <p>第6回 バロックの小曲を弾いてみよう（1） 第7回 バロックの小曲を弾いてみよう（2） 第8回 バロックの小曲を弾いてみよう（3） * バロック時代の簡単な小品の中から、各自が自分に合った曲を選び、実際にチェンバロを用いて演奏しながら詳細を学ぶ。</p> <p>第9回 アンサンブルをしてみよう（1） 第10回 アンサンブルをしてみよう（2） 第11回 アンサンブルをしてみよう（3） * チェンバロでできるだけ簡単な通奏低音に挑戦し、クラス内で実際にアンサンブルを組み、合奏を体験する。</p> <p>第12回 発表会の準備（1） 第13回 発表会の準備（2） 第14回 発表会の準備（3） * 各人の進度に合わせて、個別に課題（楽曲）を決め、その曲に取り組む。また各自が選んだ楽曲に関して、その作曲家や成立の背景、また作曲家をはぐくんだ国や時代、文化環境等、調べられる限り調べ、クラスで発表する。</p> <p>第15回 前期クラス内発表会 * 各自が前期中に取り組んだ曲の中で、チェンバロのソロ曲を1曲と、アンサンブル曲1曲を選び、演奏する。人前で演奏することを経験し、また人の演奏を聴くことで、客観的に聴く耳、演奏を批評することを学ぶ。</p>						
授業外における学習（準備学習の内容）	学外で鍵盤楽器を練習できることが望ましい。						
授業方法	講義・実習・発表						

評価基準と 評価方法	平常点（60%）、レポート（10%）および発表（30%）を総合的に評価。
教科書	プリントを配布。楽曲に関しては随時授業中に紹介していく。
参考書	

科目区分	総合文芸学科専門教育科目						
科目名	文芸との触れ合いⅠVB						
担当教員	上野 静江						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	木曜2	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	鍵盤楽器の演奏体験を通して音楽と触れ合う						
授業の概要	音楽と深く触れ合うには、実際に演奏してみることが一番の早道でしょう。この授業では、ただ音楽を鑑賞したり、知識を得たりするだけにとどまらず、学内にある鍵盤楽器の初歩的な演奏体験を通して、さらに深く音楽と関わっていくことを目指します。前期は主にチェンバロとアンサンブルを、後期は主にパイプオルガンを取り上げ、鍵盤楽器のしくみや歴史、代表的な楽曲などを学習しつつ、楽譜に書かれた音符を、鍵盤を通して実際に生きた音「音楽」にしていく課程を辿ることで広がる世界を知りましょう。						
到達目標	鍵盤楽器を通して代表的な名曲を知り、さらにはその曲を育んだ作曲家、国や時代、それらを取り巻く文化環境を理解します。学期末には学生主体による発表会を予定しています。						
授業計画	<p>第1回 パイプオルガンについて基礎知識 * 松蔭のオルガンについて、代表的なオルガン曲のデモンストレーションを聴きながら、いろいろな音色を体験する。 また実際にオルガン内部を見学し、パイプオルガンの基本的な構造や仕組み、またいろいろなパイプの種類の詳細を知る。(予定)</p> <p>第2回 パイプオルガンを弾くための基本(1) 第3回 パイプオルガンを弾くための基本(2) 第4回 パイプオルガンを弾くための基本(3) 第5回 パイプオルガンを弾くための基本(4) * パイプオルガンの「鍵盤操作でパイプに風を送る」という独特の機構を理解し、実際に楽器に触れてみながら音を作っていく。</p> <p>第6回 「パイプオルガン誕生」DVD鑑賞</p> <p>第7回 いろいろな曲を弾いてみよう(1) 第8回 いろいろな曲を弾いてみよう(2) 第9回 いろいろな曲を弾いてみよう(3) 第10回 いろいろな曲を弾いてみよう(4) * よく知られた作品の中から、各人の進度に合わせて個別に課題(楽曲)を決め、実際にパイプオルガンを用いて演奏しながら詳細を学ぶ。</p> <p>第11回 発表会の準備(1) 第12回 発表会の準備(2) 第13回 発表会の準備(3) 第14回 発表会の準備(4) * 各自が後期中に取り組んだ曲の中で1曲を選び、人前で演奏できるよう準備する。 またただ弾くだけではなく、その楽曲に関しての情報可能な限り集め、クラスで紹介する。 発表した内容を簡潔にまとめ、発表会の折にはプログラムノートとする。</p> <p>第15回 クラス内発表会と講評</p>						
授業外における学習(準備学習の内容)	学外で鍵盤楽器を練習できることが望ましい。						
授業方法	講義・実習・発表						
評価基準と評価方法	平常点(60%)、レポート(10%)および発表(30%)を総合的に評価。						
教科書	プリントを配布。楽曲に関しては随時授業中に紹介していく。						

参考書	
-----	--

科目区分	総合文芸学科専門教育科目						
科目名	文芸との触れ合いVA						
担当教員	緋田 芳江						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	水曜4	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	歌曲を学ぶ						
授業の概要	歌曲とは芸術的独唱声楽曲のことです。歌曲における「詩と音楽の結びつき」について、楽譜を読み、実際に歌って検証していきます。歌曲の作曲家や詩人について学ぶとともに、時代背景などにも視野を広げ、理解を深めます。						
到達目標	歌曲の概要を学ぶことができます。詩歌の理解を深めることができます。楽譜の読み方や発声・発音の基礎を身につけることができますようになります。						
授業計画	第1回 日本歌曲(1) 滝廉太郎「荒城の月」平井康三郎「平城山」 第2回 日本歌曲(2) 信時潔「北秋の」山田耕筰「この道」 第3回 日本歌曲(3) 中田喜直と別宮貞雄「さくら横ちよう」の比較 第4回 日本歌曲(4) 武満徹「小さな空」「うたうだけ」 第5回 ドイツ歌曲(1) モーツァルト「すみれ」 第6回 ドイツ歌曲(2) シューベルト「音楽に寄す」 第7回 ドイツ歌曲(3) シューベルト「糸を紡ぐグレートヒェン」 第8回 ドイツ歌曲(4) シューマン「君は花のよう」 第9回 イタリア歌曲(1) カッチーニ「アマリリ麗し」 第10回 イタリア歌曲(2) ベッリーニ「優雅な月よ」 第11回 イギリス歌曲(1) シェイクスピアの劇中歌 第12回 イギリス歌曲(2) ダウランド「流れよ、我が涙」 第13回 黒人霊歌「深い川」「我が悩み知りたもう」 第14回 フランス歌曲の概説とこれまでのまとめ 第15回 試験(歌曲の試演と発表)						
授業外における学習(準備学習の内容)	授業前学習：次回に取り上げる歌曲の譜読み等。毎回の授業後に課題を具体的に示します。 授業後学習：学んだ歌曲に親しむ。慣れるまで歌い、同じ作曲家・詩人の他の作品なども興味を持って調べてみてください。						
授業方法	講義と歌曲の試演						
評価基準と評価方法	試験30%、レポート30%、平常点40% 欠席した場合は減点。						
教科書							
参考書							

科目区分	総合文芸学科専門教育科目						
科目名	文芸との触れ合いVB						
担当教員	三川 美幸						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	金曜2	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	音・音楽との触れ合いについて考察します。						
授業の概要	我々の日常は、様々な音や音楽に囲まれています。その様な身近な題材に焦点をあてつつ、ミュージックセラピーやサウンドスケープの紹介も交えながら、様々な視点から個人における音楽との関わりについて理解を深める。授業形式としては、視覚教材を使用しながら講義を行うと共に、音や音楽を聞く体験をし、そうしたことを授業の教材として、ディスカッションを行う機会を設定します。						
到達目標	西洋の概念だけではなく、幅広い音楽の概念について理解が深まります。また、音楽が我々の生活にどの様に使用され、影響を与えているかについての気づきを得ることが出来ます。						
授業計画	第1回 オリエンテーション 第2回 音の生態学 音楽と私 第3回 サウンドエデュケーション1 第4回 サウンドエデュケーション2 第5回 様々な音・音楽1] 第6回 様々な音・音楽2 第7回 音と映像・イメージ1 第8回 音と映像・イメージ2 第9回 音と映像・イメージ3 第10回 音と映像・イメージ4 第11回 しずけさについて 第12回 日本の音風景 第13回 音楽療法について 第14回 音楽と私 第15回 まとめと試験						
授業外における学習(準備学習の内容)	授業前学習：授業計画に沿って提示される、教科書の該当箇所を読んでください。 授業後学習：授業中に示された視聴覚教材と教科書に示された例についての関係性について振り返り、要点をまとめてください。						
授業方法	講義						
評価基準と評価方法	平常点(50%)、試験(30%)、発表(20%)						
教科書	『音の生態学—音と人間のかかわり』若宮真一郎著、コロナ社 ISBN-4-339-07694-5						
参考書							

科目区分	総合文芸学科専門教育科目						
科目名	文芸との触れ合いVIA						
担当教員	藤井 推						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	木曜4	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	広告・コピーライティングの理論と実践						
授業の概要	「広告はラブレターである」「広告はニュースである」・・・等広告はいろいろな側面をもって語られますが、消費者の心の動きを洞察しいかにして購買に結び付けるかを突き詰めて考えていく作業です。本講座では、広告のキーであるコピーについての考察をさまざまな角度から行っていきたいと考えます。そのために、最近の成功したキャンペーンや話題になったCMから大阪ならではの面白いCM、世界のCMまでを取り上げコピーライティングの基本を学んでいきます。						
到達目標	消費者の心理を洞察し、仮説をたてて、どうしたら好きになってもらえるか、どうしたら買ってもらえるかを考え、考えたことをわかりやすく説明することを体験することによってコミュニケーション能力を向上させます。このチカラは広告業界だけでなく、社会生活全般で役立つものです。また、優れた広告を多く鑑賞することによって、広告の自由な発想や楽しさを理解できます。						
授業計画	第1回 広告とは (1) 日本の広告事情 第2回 広告とは (2) コピーの役割 第3回 TVコマーシャルの研究 (1) ACジャパンのキャンペーン 第4回 クリエイティブワークショップその1 第5回 TVコマーシャルの研究 (2) 企業広告 第6回 クリエイティブワークショップその2 第7回 ラジオCMの研究 第8回 クリエイティブワークショップその3 第9回 新聞広告の研究 第10回 クリエイティブワークショップその4 第11回 広告に関連する規制 第12回 世界の広告の研究 カンヌクリエイティブフェスティバルより 第13回 広告のローカルティ 大阪発の面白CM考 第14回 明日の広告 第15回 ワークショップまとめ						
授業外における学習 (準備学習の内容)	授業前学習 テレビCM、新聞広告、電車社内吊りポスター等を日々意識してチェックしてください。 授業後学習 ワークショップで課題制作が完成しなかった場合次回までに完成させてください。						
授業方法	講義と実習 (ワークショップ)						
評価基準と評価方法	平常点50%・コピー制作・発表50%						
教科書	教科書は使用しません。必要に応じてプリントを配布します。						
参考書	授業の中で適宜紹介します。						

科目区分	総合文芸学科専門教育科目						
科目名	文芸との触れ合いVIB						
担当教員	木村 勲						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	月曜3	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	簡潔なエッセイを学び、書く						
授業の概要	講義と書く実践。新聞の文章には「事実の報告」と事実を押さえた上での「評論」という二タイプがある。前者をレポート、後者をコラムとも称する。レポートは5W1Hの原則で書かれる。コラムは記者の主観的判断を辞さずに対象を切っていく。どちらも簡にしてにして要が求められる文章ジャンル。二つのタイプを実例に即しながら学ぶ。授業中にテーマを出し即書いてもらう。						
到達目標	どんな文章課題（就職活動時を含め）を出されても恐れない自信を養う。						
授業計画	<ul style="list-style-type: none"> ① 5W1H型記事の作成（交通事故） ② 5W1H型記事の作成（火事） ③ 5W1H型記事の作成（汚職） ④ 5W1H型記事の作成（殺人） ⑤ コラム（世相評）の試み ⑥ コラム（世相評）の作成 ⑦ コラム（世相評）の作成続き ⑧ コラム（世相評）の作成続き ⑨ 社説の比較・検証 ⑩ 社説の比較・検証続き ⑪ ドキュメントを学ぶ ⑫ ドキュメントを学ぶ（続き） ⑬ ドキュメントを学ぶ（続き） ⑭ 文芸評論を学ぶ ⑮ 文芸評論を学ぶ（続き） 						
授業外における学習（準備学習の内容）	日常、新聞をよく読むこと。						
授業方法	テーマを出しその場で書いてもらう。並行して名文記者の名が高い朝日・疋田桂一郎氏の文章を読む（プリント当方で用意）。書くとき、プリントを読むとき、そして添削点検・相互批評するときと時間配分は各回異なる。						
評価基準と評価方法	平常点。日常の課題の合計点で。						
教科書	プリントを用意する。						
参考書							

科目区分	総合文芸学科専門教育科目						
科目名	文芸の基礎／文芸基礎論						
担当教員	宗像 衣子						
学期	通年／Full Year	曜日・時限	月曜3	配当学年	1	単位数	4.0
授業のテーマ	文芸研究の基礎						
授業の概要	<p>総合文芸学科における学びの領域と方法 文芸学の根本問題について、簡単に理論的に学び、身近な題材で楽しく実践的に吟味する。</p> <p>(1) 言語学と詩学 (2) フォルマリズム (3) フランス・サンボリズム (4) アヴァン・ギャルド理論 (5) 言語芸術論と文化記号論 などの論点をわかりやすく概説する。 文字を読むだけでなく、美術を見たり音楽を聞いたり、幅広く文芸に触れて楽しんでゆく。</p>						
到達目標	<p>「文芸」とは何か、「文芸研究」とは何か、その対象領域と研究方法を学ぶことによって、 文芸学の歴史を辿りながら、「文芸」の意味を探究する。4年間の総合文芸学科での勉学の基礎と なるものである。</p>						
授業計画	<p>以下、講義と演習の授業の性質上、受講生の実践状況・希望等によって修正されることがある。</p> <p>1 オリエンテーション 2 文芸学・批評史1 (作家) 3 文芸学・批評史2 (作品) 4 文芸学・批評史3 (受容者) 5 実践 6 伝統的批評1 (発生) 7 実践 8 伝統的批評2 (展開) 9 実践 10 テーマ批評 11 実践 12 新批評 13 実践 14 まとめとテスト 15 反省・展開</p> <p>16 総論 17 社会学批評 18 実践 19 フェミニズム批評 20 芸術の歴史 21 美術の領域 22 実践1 (近代) 23 実践2 (現代) 24 音楽の領域 25 実践1 (古典) 26 実践2 (現代) 27 演劇・映画の領域 28 実践 29 まとめとテスト 30 総合</p>						
授業外における学習 (準備学習の内容)	授業の復習 課題学習						
授業方法	講義と演習						
評価基準と評価方法	平常点75%、テスト・レポート25%						
教科書							

参考書	言語芸術作品－文芸学入門－ 著 W. カイザー 柴田齋訳(法政大学出版会)
-----	--

科目区分	総合文芸学科専門教育科目						
科目名	文芸の基礎A						
担当教員	宗像 衣子						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	月曜3	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	文芸研究の基礎						
授業の概要	<p>総合文芸学科における学びの領域と方法 文芸学の根本問題について、簡単に理論的に学び、身近な題材で楽しく実践的に吟味する。 (1) 言語学と詩学 (2) フォルマリズム (3) フランス・サンボリズム (4) アヴァン・ギャルド理論 (5) 言語芸術論と文化記号論 などの論点をわかりやすく概説する。 文字を読むだけでなく、美術を見たり音楽を聞いたり、幅広く文芸に触れて楽しんでゆく。</p>						
到達目標	<p>「文芸」とは何か、「文芸研究」とは何か、その対象領域と研究方法を学ぶことによって、 文芸学の歴史を辿りながら、「文芸」の意味を探求する。4年間の総合文芸学科での勉学の基礎と なるものである。</p>						
授業計画	<p>以下、講義と演習の授業の性質上、受講生の実践状況・希望等によって修正されることがある。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 オリエンテーション 2 文芸学・批評史1 (作家) 3 文芸学・批評史2 (作品) 4 文芸学・批評史3 (受容者) 5 実践 6 伝統的批評1 (発生) 7 実践 8 伝統的批評2 (展開) 9 実践 10 テーマ批評 11 実践 12 新批評 13 実践 14 まとめとテスト 15 反省・展開 						
授業外における学習(準備学習の内容)	<p>授業の復習 課題学習</p>						
授業方法	講義と演習						
評価基準と評価方法	平常点75%、テスト・レポート25%						
教科書							
参考書	<p>言語芸術作品—文芸学入門— 著 W. カイザー 柴田斎訳(法政大学出版会)</p>						

科目区分	総合文芸学科専門教育科目						
科目名	文芸の基礎B						
担当教員	宗像 衣子						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	月曜3	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	文芸研究の基礎						
授業の概要	<p>総合文芸学科における学びの領域と方法 文芸学の根本問題について、簡単に理論的に学び、身近な題材で楽しく実践的に吟味する。 (1) 言語学と詩学 (2) フォルマリズム (3) フランス・サンボリズム (4) アヴァン・ギャルド理論 (5) 言語芸術論と文化記号論 などの論点をわかりやすく概説する。 文字を読むだけでなく、美術を見たり音楽を聞いたり、幅広く文芸に触れて楽しんでゆく。</p>						
到達目標	<p>「文芸」とは何か、「文芸研究」とは何か、その対象領域と研究方法を学ぶことによって、 文芸学の歴史を辿りながら、「文芸」の意味を探求する。4年間の総合文芸学科での勉学の基礎と なるものである。</p>						
授業計画	<p>16 総論 17 社会学批評 18 実践 19 フェミニズム批評 20 芸術の歴史 21 美術の領域 22 実践1 (近代) 23 実践2 (現代) 24 音楽の領域 25 実践1 (古典) 26 実践2 (現代) 27 演劇・映画の領域 28 実践 29 まとめとテスト 30 総合</p>						
授業外における学習(準備学習の内容)	授業の復習 課題学習						
授業方法	講義と演習						
評価基準と評価方法	平常点75%、テスト・レポート25%						
教科書							
参考書	<p>言語芸術作品—文芸学入門— 著 W. カイザー 柴田斎訳(法政大学出版会)</p>						

科目区分	総合文芸学科専門教育科目						
科目名	文章表現						
担当教員	木村 勲						
学期	通年／Full Year	曜日・時限	木曜3	配当学年	1	単位数	4.0
授業のテーマ	文は心である						
授業の概要	人に分かってもらう文章を書くのはそうやさしいことではない。実はやさしいことをむずかし気に書くのは案外やさしいのだが、やさしいことをやさしく書くのはかなりむずかしい。ましてむずかしいことをやさしく書くのは大変むずかしい。で、私はいつも悪戦苦闘してるわけだが…。ともかく、書くこと——その前提として良い文章をたくさん読むこと、それを書き写すこと、そしてまた書くこと。文章道の王道です。もとより言葉（漢字を含めて）の習得にも力を入れる。						
到達目標	分かる文章が書ける						
授業計画	<p>1 心構え① 辞書の説明。句読点、「」等の使い方。</p> <p>2 心構え② 毎日書く習慣へ 日記について</p> <p>3 心構え③ 書き写す大切さ 名文との接触について</p> <p>4 心構え④ 繰り返し読む大切さ</p> <p>5 心構え⑤ 漢字を知る i</p> <p>6 書き写し実践① 漱石の小品 i</p> <p>7 書く実践①「思い出」</p> <p>8 心構え⑥ 見る（具体的に、多角的に）ということ</p> <p>9 心構え⑦ 正直に、素朴に</p> <p>10 心構え⑧ 漢字を知る ii</p> <p>11 書き写し実践② 漱石の小品 ii</p> <p>12 書く実践②「私の通学路」</p> <p>13 心構え⑨ 読む側の視点で</p> <p>14 心構え⑩ 漢字を知る iii</p> <p>15 小まとめ：理解の点検</p> <p>16 紋切り型表現について</p> <p>17 比喩について</p> <p>18 心構え⑪ 漢字を知る iv</p> <p>19 書き写し実践③ 谷崎の小品</p> <p>20 書く実践③（テーマ未定）</p> <p>21 土地の言葉と「標準語」</p> <p>22 心構え⑫ 漢字を知る v</p> <p>23 推敲ということ</p> <p>24 文章の流れ、文末処理</p> <p>25 書き写し実践④ 幸田文の小品</p> <p>26 書く実践④（テーマ未定）</p> <p>27 心構え⑬ 漢字を知る vi</p> <p>28 デジタル表現と筆記表現</p> <p>29 渾身の力とゆとり心</p> <p>30 小まとめ「文は人そのものなり」</p>						
授業外における学習（準備学習の内容）	次回読む教科書の章を調べておく（質問する）。						
授業方法	教科書は必要なところをピックアップして使う。音読してもらう。名品筆写と漢字テストを織り込む。						
評価基準と評価方法	小課題・小テスト（50点）、期末レポート（50点）。出席は当然。						
教科書	「文章のみがき方」 辰濃和男（岩波書店） isbn978-4-00-431095-2						

参考書	適宜指示
-----	------

科目区分	総合文芸学科専門教育科目						
科目名	文章表現						
担当教員	宗像 衣子						
学期	通年／Full Year	曜日・時限	月曜2	配当学年	1	単位数	4.0
授業のテーマ	楽しく書こう						
授業の概要	文章を書くとは自己表現であり、自己創造。書くことによって自分を発見し、新たな自分を創ってゆくことについて、実践的に学ぶ。添削指導で、実力アップをはかる。日本語の基本的知識を習得するため、漢字検定にむけて、漢字の指導も行なう。						
到達目標	文章表現を実際に試み、文章表現の様々な楽しみを味わいながら、文章表現法を身につける。						
授業計画	<p>以下、使用テキストに沿って進めるが、授業の性質上、受講生の実践状況等によって修正されることがある。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 オリエンテーション 2 資料収集調査指導・図書館案内 3 書くこと 4 文例1他 5 文例2他 6 文例3他 7 作文他 8 水の入ったコップ 9 文例1他 10 文例2他 11 文例3他 12 文例4他 13 作文他 14 まとめとテスト 15 反省・展開 16 ガイダンス 17 学園の風景 18 文例1他 19 文例2他 20 文例3他 21 文例4他 22 作文他 23 もうひとりの自分 24 文例1他 25 文例2他 26 文例3他 27 文例4他 28 作文他 29 まとめとテスト 30 総合 						
授業外における学習（準備学習の内容）	テキスト予習 作文作成						
授業方法	講義と演習						
評価基準と評価方法	平常点75%、レポート等25%						
教科書	<p>下記の指定教科書以外に、授業中に関連テキスト・資料を配付する場合がある。</p> <p>文章表現 四〇〇字からのレッスン（ちくま学芸文庫）著 梅田卓夫（筑摩書房） 漢検試験問題集 2級 著 （旺文社）</p>						

参考書	言語学から記号論へ(講座記号論1) 著 川本茂雄 (勁草書房)
-----	------------------------------------

科目区分	総合文芸学科専門教育科目						
科目名	文章表現A						
担当教員	木村 勲						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	木曜3	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	文は心である						
授業の概要	人に分かってもらう文章を書くのはそうやさしいことではない。実はやさしいことをむずかし気に書くのは案外やさしいのだが、やさしいことをやさしく書くのはかなりむずかしい。ましてむずかしいことをやさしく書くのは大変むずかしい。で、私はいつも悪戦苦闘してるわけだが…。ともかく、書くこと——その前提として良い文章をたくさん読むこと、それを書き写すこと、そしてまた書くこと。文章道の王道です。もとより言葉（漢字を含めて）の習得にも力を入れる。						
到達目標	分かる文章を書く						
授業計画	1 心構え① 辞書の説明。句読点、「」等の使い方。 2 心構え② 毎日書く習慣へ 日記について 3 心構え③ 書き写す大切さ 名文との接触について 4 心構え④ 繰り返し読む大切さ 5 心構え⑤ 漢字を知る i 6 書き写し実践① 漱石の小品 i 7 書く実践①「思い出」 8 心構え⑥ 見る（具体的に、多角的に）ということ 9 心構え⑦ 正直に、素朴に 10 心構え⑧ 漢字を知る ii 11 書き写し実践② 漱石の小品 ii 12 書く実践②「私の通学路」 13 心構え⑨ 読む側の視点で 14 心構え⑩ 漢字を知る iii 15 小まとめ：理解の点検						
授業外における学習（準備学習の内容）	次回読む教科書の章を読んでおくこと						
授業方法	教科書は必要なところをピックアップして使う。音読してもらう。名品筆写と漢字テストを織り込む。						
評価基準と評価方法	小課題・小テスト（50点）、期末レポート（50点）。出席は当然。						
教科書	「文章のみがき方」 辰濃和男（岩波書店） isbn978-4-00-431095-2						
参考書	適宜指示						

科目区分	総合文芸学科専門教育科目						
科目名	文章表現A						
担当教員	宗像 衣子						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	月曜2	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	楽しく書こう						
授業の概要	文章を書くとは自己表現であり、自己創造。書くことによって自分を発見し、新たな自分を創ってゆくことについて、実践的に学ぶ。添削指導で、実力アップをはかる。日本語の基本的知識を習得するため、漢字検定にむけて、漢字の指導も行なう。						
到達目標	文章表現を実際に試み、文章表現の様々な楽しみを味わいながら、文章表現法を身につける。						
授業計画	以下、使用テキストに沿って進めるが、授業の性質上、受講生の実践状況等によって修正されることがある。 1 オリエンテーション 2 資料収集調査指導・図書館案内 3 書くこと 4 文例1他 5 文例2他 6 文例3他 7 作文他 8 水の入ったコップ 9 文例1他 10 文例2他 11 文例3他 12 文例4他 13 作文他 14 まとめとテスト 15 反省・展開						
授業外における学習(準備学習の内容)	テキスト予習 作文作成						
授業方法	講義と演習						
評価基準と評価方法	平常点75%、レポート等25%						
教科書	下記の指定教科書以外に、授業中に関連テキスト・資料を配付する場合がある。 文章表現 四〇〇字からのレッスン(ちくま学芸文庫) 著 梅田卓夫(筑摩書房) 漢検試験問題集 2級 著 (旺文社)						
参考書	言語学から記号論へ(講座記号論1) 著 川本茂雄(勁草書房)						

科目区分	総合文芸学科専門教育科目						
科目名	文章表現B						
担当教員	木村 勲						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	木曜3	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	文は心である						
授業の概要	人に分かってもらう文章を書くのはそうやさしいことではない。実はやさしいことをむずかし気に書くのは案外やさしいのだが、やさしいことをやさしく書くのはかなりむずかしい。ましてむずかしいことをやさしく書くのは大変むずかしい。で、私はいつも悪戦苦闘してるわけだが…。ともかく、書くこと——その前提として良い文章をたくさん読むこと、それを書き写すこと、そしてまた書くこと。文章道の王道です。もとより言葉（漢字を含めて）の習得にも力を入れる。						
到達目標	分かる文章を書く						
授業計画	16 紋切り型表現について 17 比喩について 18 心構え⑪ 漢字を知るiv 19 書き写し実践③ 谷崎の小品 20 書く実践③（テーマ未定） 21 土地の言葉と「標準語」 22 心構え⑫ 漢字を知るv 23 推敲ということ 24 文章の流れ、文末処理 25 書き写し実践④ 幸田文の小品 26 書く実践④（テーマ未定） 27 心構え⑬ 漢字を知るvi 28 デジタル表現と筆記表現 29 渾身の力とゆとり心 30 まとめ「文は人そのものなり」						
授業外における学習（準備学習の内容）	次回読む教科書の章を読んでおくこと（意味など質問する）。						
授業方法	教科書は必要なところをピックアップして使う。音読してもらう。名品筆写と漢字テストを織り込む。						
評価基準と評価方法	小課題・小テスト（50点）、期末レポート（50点）。出席は当然。						
教科書	「文章のみがき方」 辰濃和男（岩波書店） isbn978-4-00-431095-2						
参考書	適宜指示						

科目区分	総合文芸学科専門教育科目						
科目名	文章表現B						
担当教員	宗像 衣子						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	月曜2	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	楽しく書こう						
授業の概要	文章を書くとは自己表現であり、自己創造。書くことによって自分を発見し、新たな自分を創ってゆくことについて、実践的に学ぶ。添削指導で、実力アップをはかる。日本語の基本的知識を習得するため、漢字検定にむけて、漢字の指導も行なう。						
到達目標	文章表現を実際に試み、文章表現の様々な楽しみを味わいながら、文章表現法を身につける。						
授業計画	以下、使用テキストに沿って進めるが、授業の性質上、受講生の実践状況等によって修正されることがある。 16 ガイダンス 17 学園の風景 18 文例1他 19 文例2他 20 文例3他 21 文例4他 22 作文他 23 もうひとりの自分 24 文例1他 25 文例2他 26 文例3他 27 文例4他 28 作文他 29 まとめとテスト 30 総合						
授業外における学習(準備学習の内容)	テキスト予習 作文作成						
授業方法	講義と演習						
評価基準と評価方法	平常点75%、レポート等25%						
教科書	下記の指定教科書以外に、授業中に関連テキスト・資料を配付する場合がある。 文章表現 四〇〇字からのレッスン(ちくま学芸文庫) 著 梅田卓夫(筑摩書房) 漢検試験問題集 2級 著 (旺文社)						
参考書	言語学から記号論へ(講座記号論1) 著 川本茂雄(勁草書房)						

科目区分	総合文芸学科専門教育科目						
科目名	マスコミ文章編集						
担当教員	団藤 保晴						
学期	通年／Full Year	曜日・時限	金曜2	配当学年	3~4	単位数	4.0
授業のテーマ	新聞はどう作られるのか——取材活動や編集経験を踏まえた講義と実習						
授業の概要	<p>新聞紙面制作の基本から講義を始め、見出し表現のテクニックや紙面構成の考え方などに進みます。社会について考える力、文章力をつけるとともに、パソコンで編集作業を模擬できるデスクトップ・パブリッシング（DTP）ソフトを使って各種のパンフレットを組み上げる技術を身に付けます。</p> <p>パソコンの知識は、日本語の入力が出来る程度を前提に講義の中で教えていきます。ソフトを使いこなすには繰り返し練習していくことが必要です。最初の間は事前に用意した素材で実習します。第2段階の自由演習で素材を集めてパンフレット作りをし、最後には自分で素材も作って「自分史新聞」を組み上げることを計画しています。</p> <p>マスメディアは大きな曲がり角を迎えています。インターネット世界の急激な変化が人々の生活スタイルまで変えていくからです。市民の情報収集法も変わりつつあり、最先端の話題も適宜取り込んで講義をします。興味深い映像視聴や各種ツール使用も経験してもらい、情報リテラシー能力を高めます。</p>						
到達目標	新聞の紙面編集について基礎的な理解に達し、DTPソフトで組み上げられるようになります。さらに、応用としてチラシやパンフレットなどを効果的なデザインで編集できるようにします。						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1) 新聞はこうして作られる 2) 記事取材と文章作成の考え方 3) 紙面編集の基礎とDTPソフト 4) 見出しの種類と表現のテクニック 5) パソコンの基礎・ワードとエクセル 6) DTPソフト①テンプレートを使う 7) DTPソフト②見出し組みの実際 8) DTPソフト③写真や画像などを置く 9) DTPソフト④フォントと特殊効果 10) DTPソフト⑤小さいが目立つ箱組み 11) DTPソフト⑥大組みと仕上げ 12) 実習「西洋文学この百冊」① 13) 実習「西洋文学この百冊」② 14) 実習・新聞1面の模擬製作① 15) 実習・新聞1面の模擬製作② 16) マスメディアの組織・運営とネットの世界 17) 実習・スポーツ面模擬① 18) 実習・スポーツ面模擬② 19) 取材模擬・工場見学記事の作成 20) 取材模擬・工場見学記事と紙面構想 21) 取材模擬・工場見学新聞製作 22) 実習・社会面模擬① 23) 実習・社会面模擬② 24) 自由演習（例＝海外旅行案内）①素材集め 25) 自由演習（例＝海外旅行案内）②構成と見出し 26) 自由演習（例＝海外旅行案内）③大組み 27) 仕上げ実習・自分史新聞①記事の作成 28) 仕上げ実習・自分史新聞②構成 29) 仕上げ実習・自分史新聞③見出しと箱組み 30) 仕上げ実習・自分史新聞④大組み 						
授業外における学習（準備学習の内容）	実習に使う記事やデータや画像の準備を指示することがあります。						
授業方法	パソコンでデスクトップ・パブリッシング（DTP）ソフトを使った実習を中心に進めます。適宜、講義も交え、映像視聴なども加えます。						
評価基準と評価方法	授業・実習への参加ぶり（30%）、実習作品の仕上がり（70%）						

教科書	毎回、以下の講義録ウェブから授業資料を配付します。予習・復習が出来ます。ウェブに入るIDとパスワードは最初の授業でお知らせします。 http://dandoweb.com/S/
参考書	

科目区分	総合文芸学科専門教育科目						
科目名	メディア・広報入門A／メディア・広報入門I						
担当教員	木村 勲						
学期	前期／1st semester	曜日・時限	月曜4	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	メディアの基本を理解する。						
授業の概要	メディアとは常識的に新聞・雑誌・テレビ・ラジオと考えてほしい。言論の自由を軸に世論を形成し、民主主義社会を形づくる核心の役割を担っている。批判・検証作業を通じての国民の「知る権利」の代行者である。しかし、複雑・巨大化した現代の社会システムの中で、とくに急速なネット普及のなかで、利便さとともに少なからぬ問題も生じている。言論・表現の自由の歴史の原点から考えていく。						
到達目標	新聞・テレビを批判的に見る態度。						
授業計画	1 メディアとは 2 マスコミとは 3 ジャーナリズムとは 4 新聞社の機構 5 編集（記者）の仕事 6 紙面制作過程 7 言論の自由の歴史①啓蒙主義 8 言論の自由の歴史②フランス革命 9 言論の自由の歴史③アメリカ独立宣言 10 言論の自由の歴史④日本国憲法 11 日本型メディアシステム①記者クラブ制度 12 日本型メディアシステム②テレビとの関係 13 日本型メディアシステム③ウェブの普及 14 社論の違いについて 15 まとめ：メディアにどう対応すべきか						
授業外における学習（準備学習の内容）	日々、新聞を読むこと。						
授業方法	講義。配布プリントを軸に、実物のスクリーン表示、ビデオ参照もしながら説明。						
評価基準と評価方法	受講態度・意欲40%、期末試験（またはレポート）60%						
教科書	プリントを配布します。						
参考書	適宜、指示します。						

科目区分	総合文芸学科専門教育科目						
科目名	メディア・広報入門B/メディア・広報入門II						
担当教員	村上 知彦						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	月曜4	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	メディアとコマーシャリズム						
授業の概要	現代社会におけるメディアとコマーシャリズムの関係を考える。出版、雑誌、テレビ、ラジオ、インターネットなど多様な現代のメディア文化とコマーシャリズムとの関わりを概説し、メディアにおけるコマーシャリズムのはたらきと、社会に及ぼす影響などを考察する。また、広告の歴史的なりたちや広告表現のはたらきを概説し、広告のメディア文化としての側面を明らかにする。						
到達目標	メディアにおけるコマーシャリズムの意義や、社会に及ぼす影響を理解し、身近なメディアとそのコマーシャリズム的側面を批評的に分析する視点を持つことを目指す。						
授業計画	(1) はじめに/ジャーナリズムとコマーシャリズム (2) コマーシャリズムとテレビ・ラジオ/1 高度成長と余暇 (3) コマーシャリズムとテレビ・ラジオ/2 テレビ文化の定着 (4) コマーシャリズムとテレビ・ラジオ/3 商品文化とテレビ・コマーシャル (5) コマーシャリズムとテレビ・ラジオ/4 ラジオというメディア・テレビというメディア (6) コマーシャリズムと雑誌・出版/1 文化としての出版・消費としての出版 (7) コマーシャリズムと雑誌・出版/2 さまざまな出版物と私たち(分類・定義) (8) コマーシャリズムと雑誌・出版/3 出版物が私たちの手に届くまで(流通・販売) (9) 広告の定義/分類 (10) 広告小史/1 広告の誕生 (11) 広告小史/2 広告と消費者の動向/40-60年代 (12) 広告小史/3 広告と消費者の動向/70-90年代 (13) 広告とコマーシャリズム/1 パリ万博と百貨店 (14) 広告とコマーシャリズム/2 モノからイメージへ (15) 広告とコマーシャリズム/3 飽和した物質文明・まとめ						
授業外における学習(準備学習の内容)	授業前学習: 自分自身が毎日、多様なメディアとどのように接しているかに注意を払う。 授業後学習: 学んだことを整理し、身の回りのメディアにあてはめてみる。						
授業方法	講義						
評価基準と評価方法	期末レポート(70%)に、提出物、平常点等(30%)を加味して総合評価する。						
教科書	適宜プリントを配布します。						
参考書	「メディア社会の歩き方 その歴史と仕組み」柳澤伸司他、世界思想社 ISBN978-4-7907-1057-8 「図説 日本のマスメディア [第二版]」藤竹暁編、日本放送出版協会 ISBN978-4140910399 「現代広告論 [新版]」岸志津江・田中洋・嶋村和恵、有斐閣 ISBN978-4641123564 「広告論講義」天野祐吉、岩波書店 ISBN4-00-022825-0 ほか、授業中に紹介します。						